

資料編

風水害対策編

第 1 部 風水害予防対策計画

資料第33

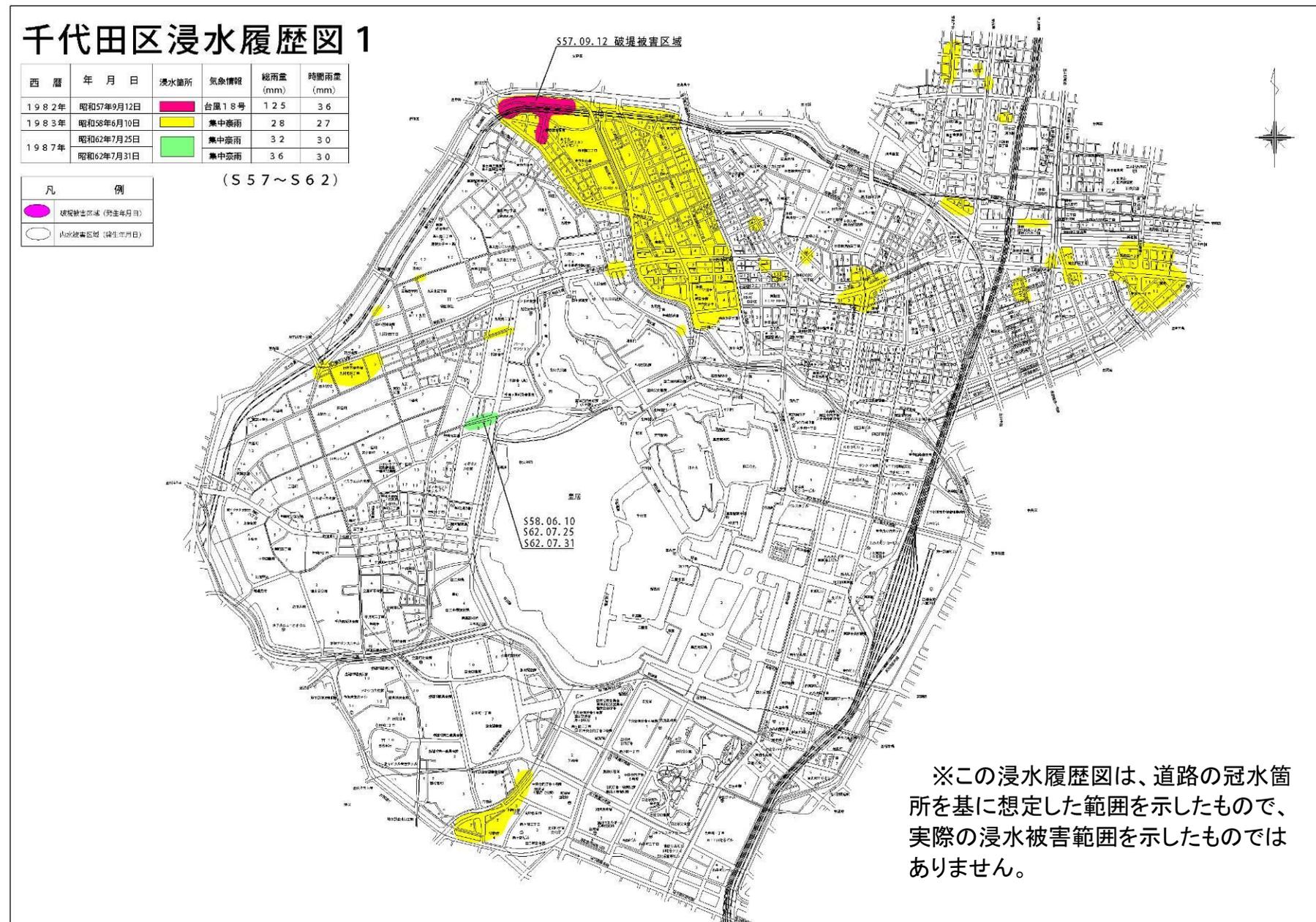
水害被害調書(災害対策・危機管理課)

(平成19年4月1日現在)

発生年月	浸水面積 (ha)	都市計画 区域面積に 対する割合 (%)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	浸水田畑 (ha)	被災人口 (人)	都市計画 区域面積に 対する割合 (%)
昭和56年7月22日 (集中豪雨)	不明	不明	1	14	0	50	0.08
昭和56年10月22日 (台風24号)	不明	不明	295	320	0	1,981	3.27
昭和57年6月20日 (集中豪雨)	不明	不明	8	1	0	34	0.05
昭利57年9月12日 (台風18号)	不明	不明	66	62	0	476	0.80
昭和57年11月30日 (集中豪雨)	不明	不明	22	47	0	187	0.31
昭和58年6月10日 (集中豪雨)	不明	不明	2	128	0	475	0.80
昭利62年7月25日 (集中豪雨)	不明	不明	0	6	0	6	0.01
昭利62年7月31日 (集中豪雨)	不明	不明	0	6	0	6	0.01
平成元年8月1日 (集中豪雨)	不明	不明	94	141	0	540	1.12
平成3年9月19日 (台風18号)	不明	不明	49	19	0	66	0.15
平成5年8月27日 (台風11号)	不明	不明	168	-	0	165	0.39

※以降 水害被害調書(り災台帳)の記録なし

千代田区浸水履歴図 1(災害対策・危機管理課、環境まちづくり部)

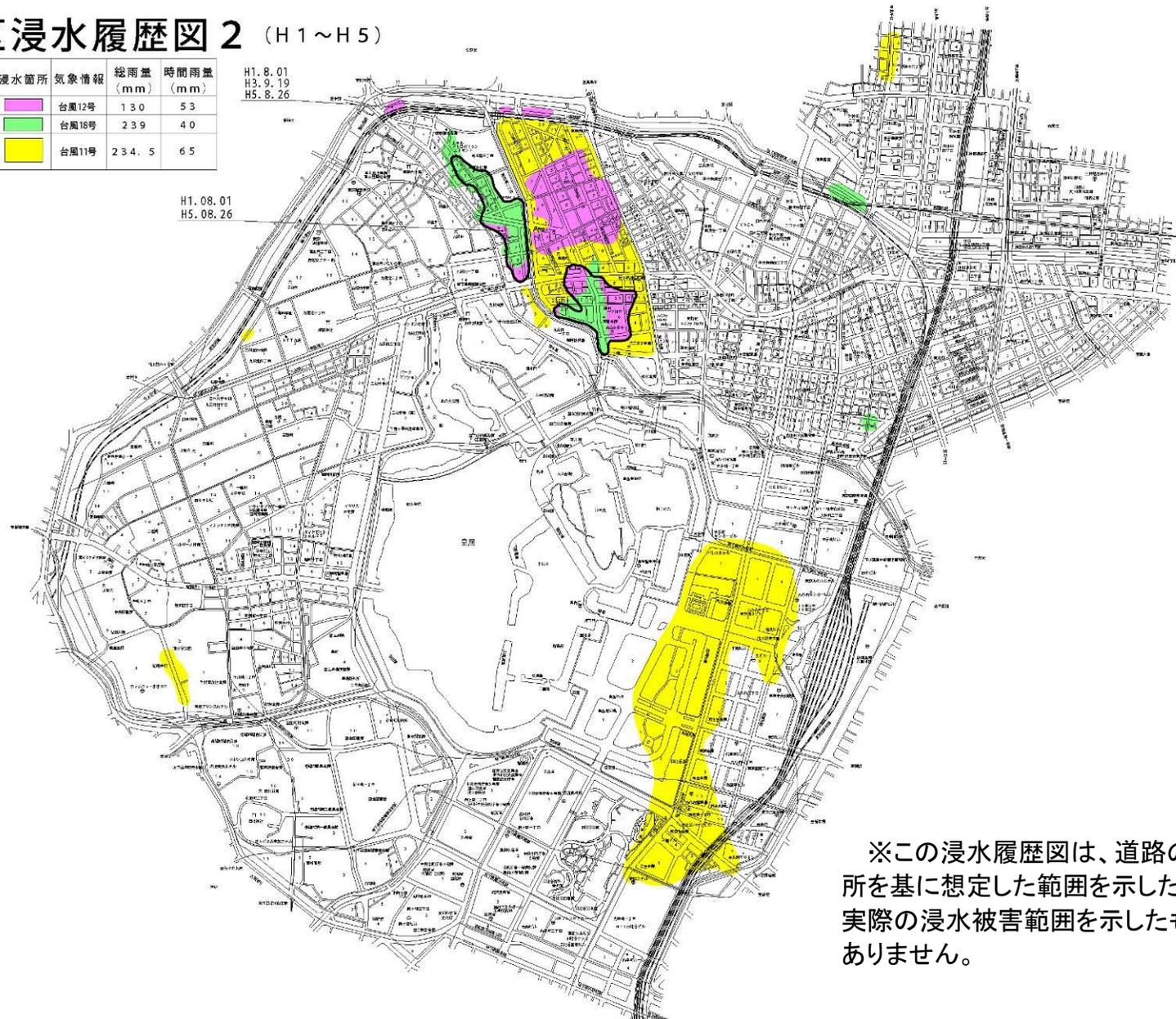


千代田区浸水履歴図 2 (H1~H5)

西暦	年月日	浸水箇所	気象情報	総雨量 (mm)	時間雨量 (mm)
1989年	平成1年8月1日		台風12号	130	53
1991年	平成3年9月19日		台風16号	239	40
1993年	平成5年8月26日		台風11号	234.5	65

H1.8.01
H3.9.19
H5.8.26

H1.08.01
H5.08.26



※この浸水履歴図は、道路の冠水箇所を基に想定した範囲を示したもので、実際の浸水被害範囲を示したものではありません。

千代田区浸水履歴図 3(災害対策・危機管理課、環境まちづくり部)

千代田区浸水履歴図 3 (H12)

西暦	年月日	浸水範囲	気象情報	総雨量	時間雨量
2000年	平成12年7月4日	黄色	集中豪雨	96	6.0
	平成12年7月7日	緑色	台風3号	166	1.9
	平成12年6月7日	紫色	集中豪雨	60	2.4



※この浸水履歴図は、道路の冠水箇所を基に想定した範囲を示したもので、実際の浸水被害範囲を示したものではありません。

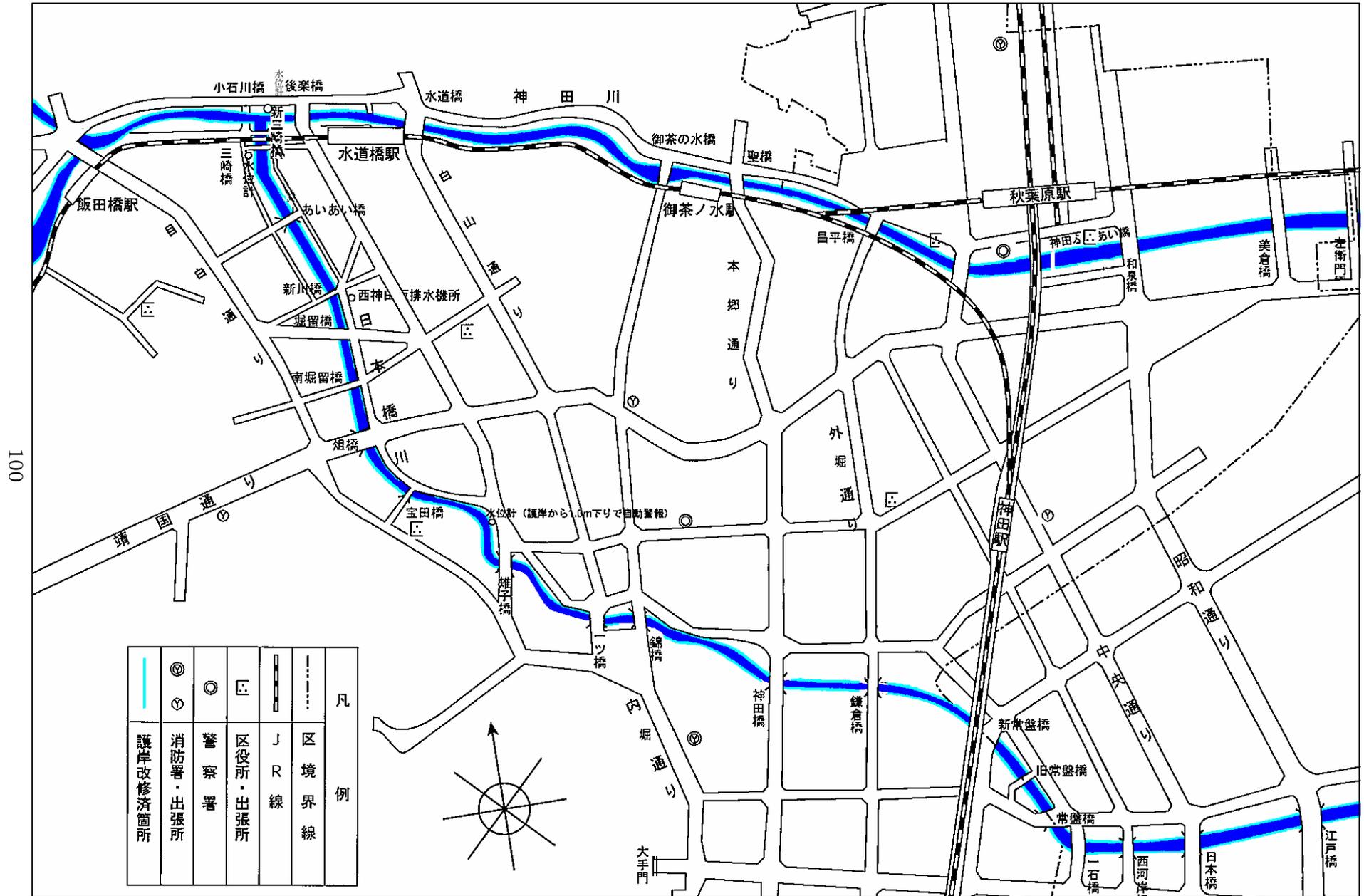
千代田区浸水履歴図 4(災害対策・危機管理課、環境まちづくり部)



資料第 35

神田川、日本橋川流域護岸改修及び区内橋梁現況図

(環境まちづくり部、第一建設事務所)

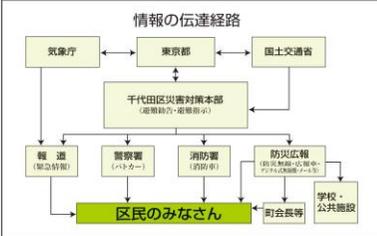


資料第 36

千代田区洪水避難地図 (洪水ハザードマップ) (東京都建設局、災害対策・危機管理課、環境まちづくり部)

千代田区洪水避難地図
(洪水ハザードマップ、東京都作成資料より抜粋)

この地図は、神田川・日本橋川・横田川が大雨によって増水し、既存の下水道施設や河川の処理能力を超えて水があふれた場合の浸水予想結果に基づいて、浸水する範囲とその程度並びに水害時の避難場所を示した地図です。
大雨の規模は平成12年9月の東海豪雨(総雨量589mm、時間最大雨量114mm)を想定しています。
水害のおそれがあるときには、地下にいる人は地上階に上がり、**速やかに頑強な建物の3階以上や地図に示した避難所に避難してください。**
なお、地図に示した浸水想定区域以外でも、状況によっては浸水することもありますので、十分に注意してください。
※このハザードマップは、東京都が平成13年8月及び平成15年5月に公表した「浸水予想地図」の千代田区部分を抜粋したものです。



水害時の避難所(注)

避難所名	住所
いきいきプラザ一番町	一番町1-2
九段小学校	三番町1-6
番町小学校	六番町8
麹町小学校・麹町出張所・区民館	麹町2-8
麹町中学校	平河町2-5-1
富士見みらい館	富士見1-10-3
富士見出張所・区民館	富士見1-6-7
神保町出張所・区民館	神田神保町2-4-0
神田公園出張所・区民館	神田町2-2
お茶の水小学校	猿楽町1-1-1
神田一橋中学校	一ツ橋2-8-14
高齢者センター	神田神保町2-2-0
スポーツセンター	内神田2-1-8
障害者福祉センターえみふる	神田神保町2-5-5
千代田保健所	九段北1-2-14
神田さくら館	神田町2-1-6
旧今川中学校	鍛冶町2-4-2
一橋高校	東神田1-12-13
昌平堂夢館	外神田3-4-7
アーツ千代田3331	内神田6-11-14
ちよだパークサイドプラザ	神田和泉町1
万世橋出張所・区民館	外神田1-1-11
和泉橋出張所・区民館	神田在久町1-1-1

(注) 地名等の隣の避難所とは異なる施設があります。避難所名は変更となる場合があります。

救急医療施設

名称	住所	電話番号
東京労務会 救急センター	東神田1-1-1	3264-2111
日本大学病院	神田区神保町1-10	3234-0110
丸の内警察署	丸の内1-10-1	3213-0110
神田警察署	神田区神保町1-10	3295-0110
万世橋警察署	神田区神保町2-5-5	3257-0110
丸の内消防署	丸の内1-10-1	3215-0119
麹町消防署	麹町2-8-1	3264-0119
神田消防署	神田区神保町1-10	3257-0119
東京都第一建設事務所	丸の内1-10-1	3542-7641
水道局千代田営業所	丸の内1-10-1	5298-5351
下水道局千代田下水道事務所	丸の内1-10-1	3270-8317
東京電力・東京ガスセンター	丸の内1-10-1	0120-995-006
東京ガス・お客さまセンター	丸の内1-10-1	0570-002211
N T T 東日本(総合案内)	丸の内1-10-1	116

平成27年7月印刷

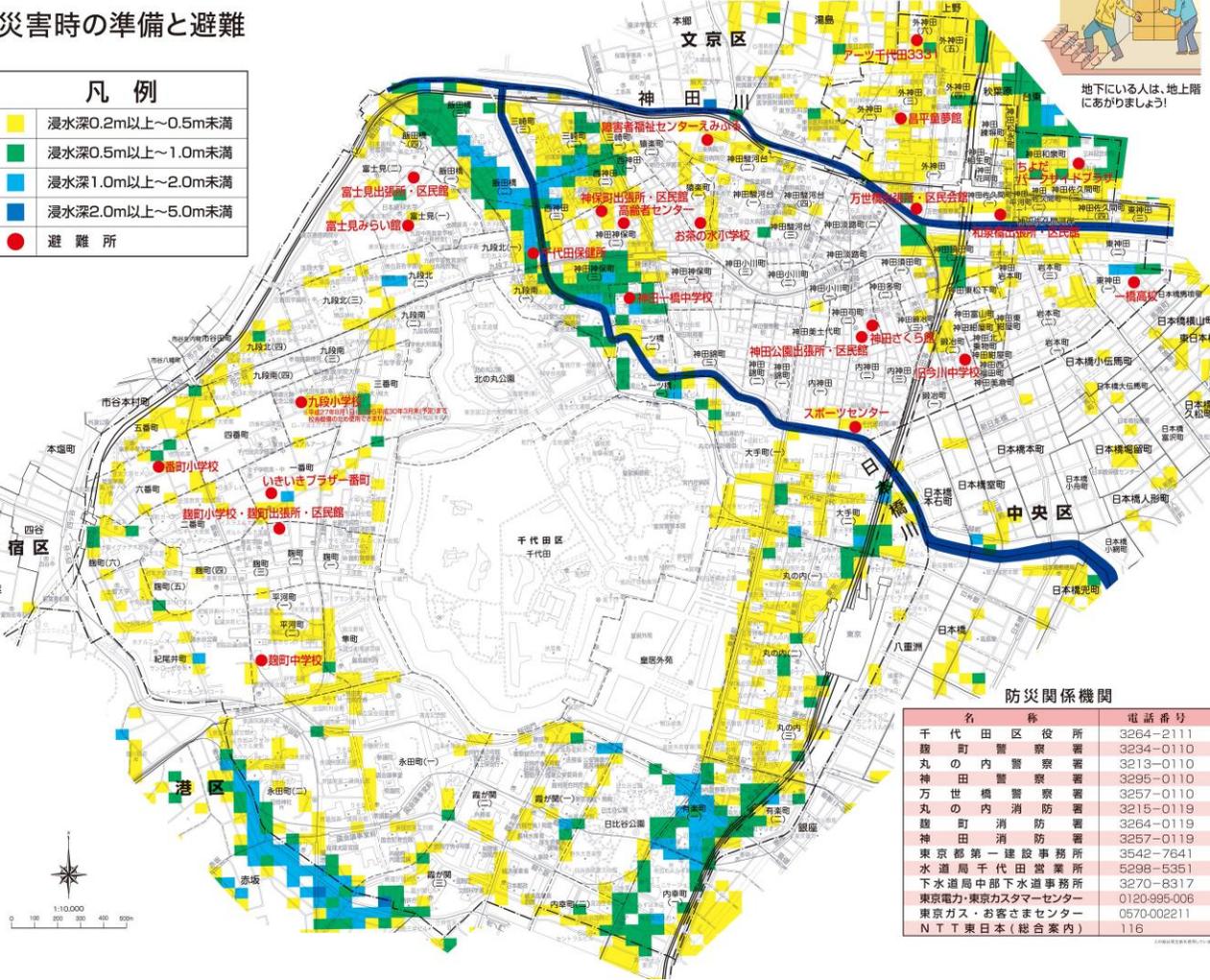


持ち出し品準備をしておきましょう! テレビ・ラジオで正確な情報を! みんなと一緒に行動しましょう! 避難するときは、川を越えてはいけません! 水害のおそれがあるときには、頑強な建物の3階以上や避難所に! 地下にいる人は、地上階に上がらしましょう!

災害時の準備と避難

凡例

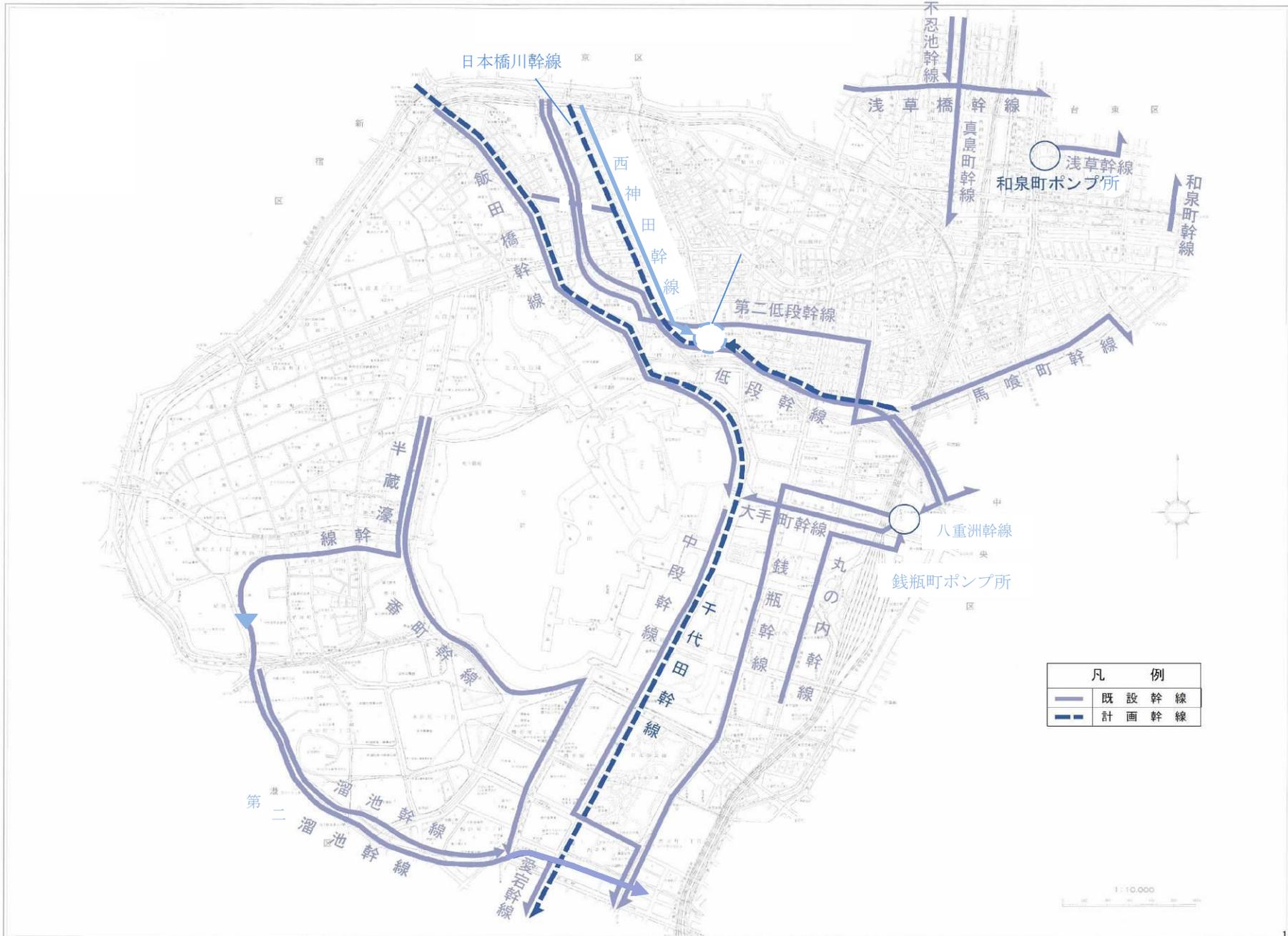
黄色	浸水深0.2m以上～0.5m未満
緑	浸水深0.5m以上～1.0m未満
青	浸水深1.0m以上～2.0m未満
濃青	浸水深2.0m以上～5.0m未満
赤丸	避難所



防災関係機関

名称	電話番号
千代田区役所	3264-2111
麹町警察署	3234-0110
丸の内警察署	3213-0110
神田警察署	3295-0110
万世橋警察署	3257-0110
丸の内消防署	3215-0119
麹町消防署	3264-0119
神田消防署	3257-0119
東京都第一建設事務所	3542-7641
水道局千代田営業所	5298-5351
下水道局千代田下水道事務所	3270-8317
東京電力・東京ガスセンター	0120-995-006
東京ガス・お客さまセンター	0570-002211
N T T 東日本(総合案内)	116

下水道幹線の計画図（下水道局中部下水道事務所）



資料第 39

浸水シミュレーション（災害対策・危機管理課）

浸水シミュレーション

1. シミュレーションの目的

近年、頻発する都市型水害（内水氾濫）への備えとして、下記の条件で、千代田区独自に浸水シミュレーションを行いました。このシミュレーションを参考とし、従前からの台風等の事前準備に加え、対応を強化していきます。

また、平成27年修正千代田区地域防災計画において、風水害対策編に事前行動計画（タイムライン）を新設しました。台風や集中豪雨などへの備えとして、関係者の方々も含め、この時系列シミュレーションを参考とし、先を見越した対策が可能となるよう期待しています。

2. シミュレーションの条件

2.1 下水道モデル

浸水シミュレーションは、周辺区を含む下水道流域全体の全ての下水道管を対象として実施する必要がありますが、今回は避難計画を作成することを目的としていますので、簡易的に千代田区内の一部の下水道管（管径φ600mm以上）を対象としてシミュレーションを実施しています。

- モデルの範囲：千代田区内をモデル化

※他区からの流入については、面積と流達時間で仮に流入量を算出しています。また、他区への流出は今回の対象降雨が大規模な降雨を対象としていることから、流出先を満管状態と設定し流出量を算出しています。

なお、既に公表している「千代田区洪水避難地図」は東京都全域をモデル化したうえでシミュレーションを実施しているものであり、また、対象降雨も違うため、今回のシミュレーションによる浸水エリアと若干異なる箇所がある場合がありますのでご了承ください。

- 下水道管、マンホール、流域面積：東京都台帳データ（管径 φ600mm 以上対象）

※φ600mm未満の下水道管が敷設されている地域については、下水道排除機能（雨水枳等）は無いものとして浸水シミュレーションを実施しています。

- 越流堰：東京都台帳データ
- 流出係数：土地利用データから一律 0.75 を採用

2.2 地表面モデル

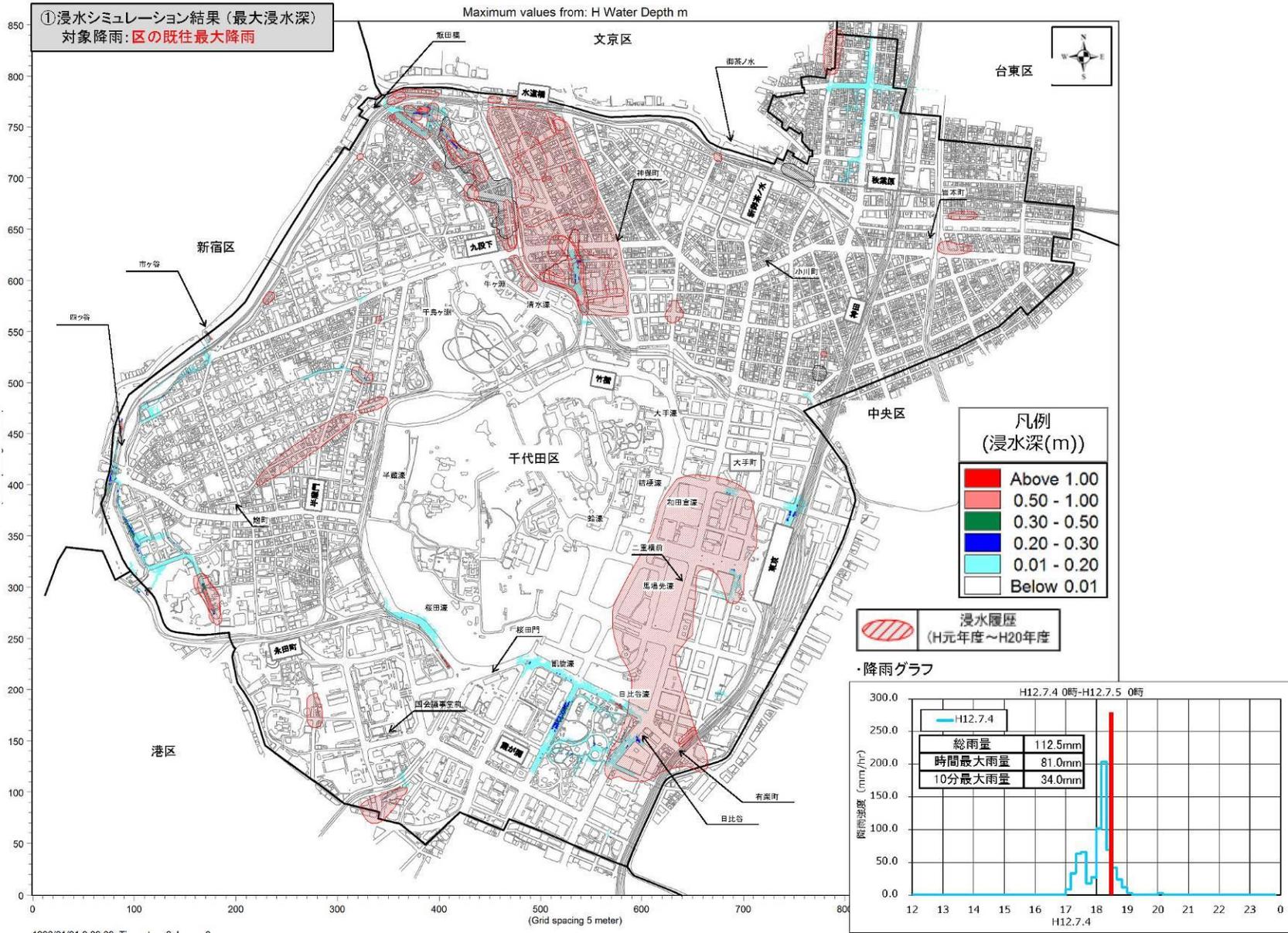
- 5m×5m メッシュデータ

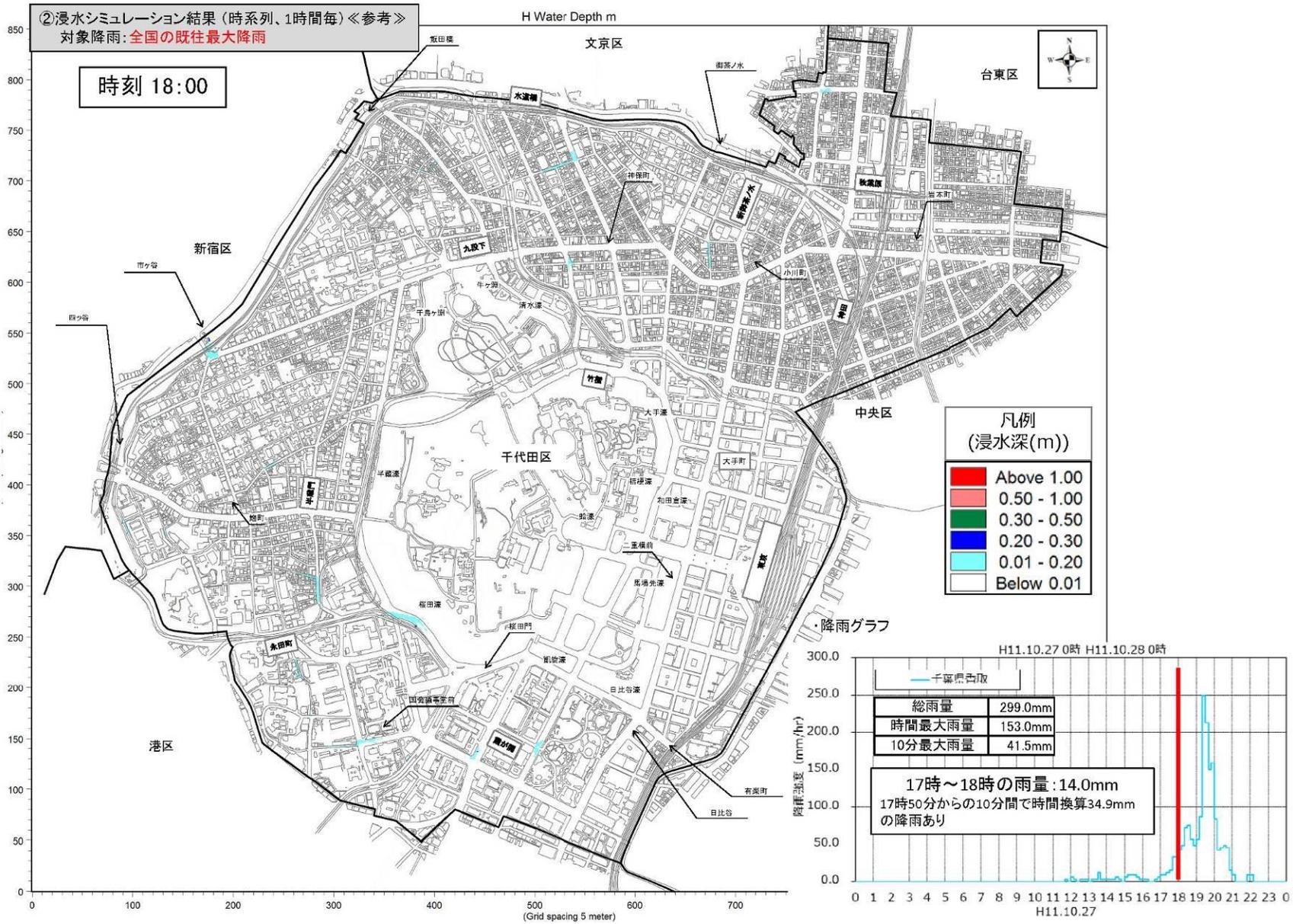
2.3 放流先水位

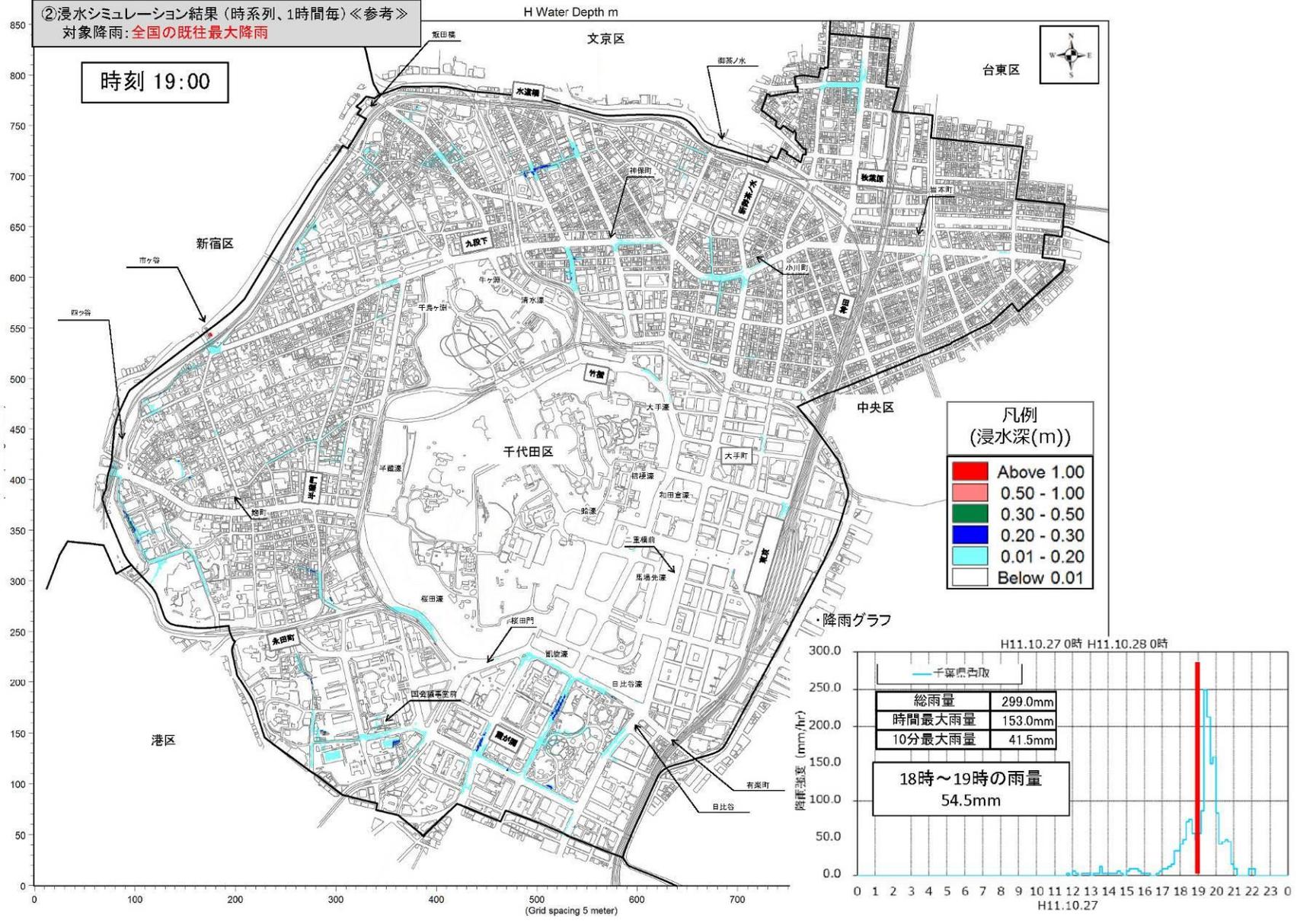
- 放流先である神田川、日本橋川の計画高水位（HWL）で設定

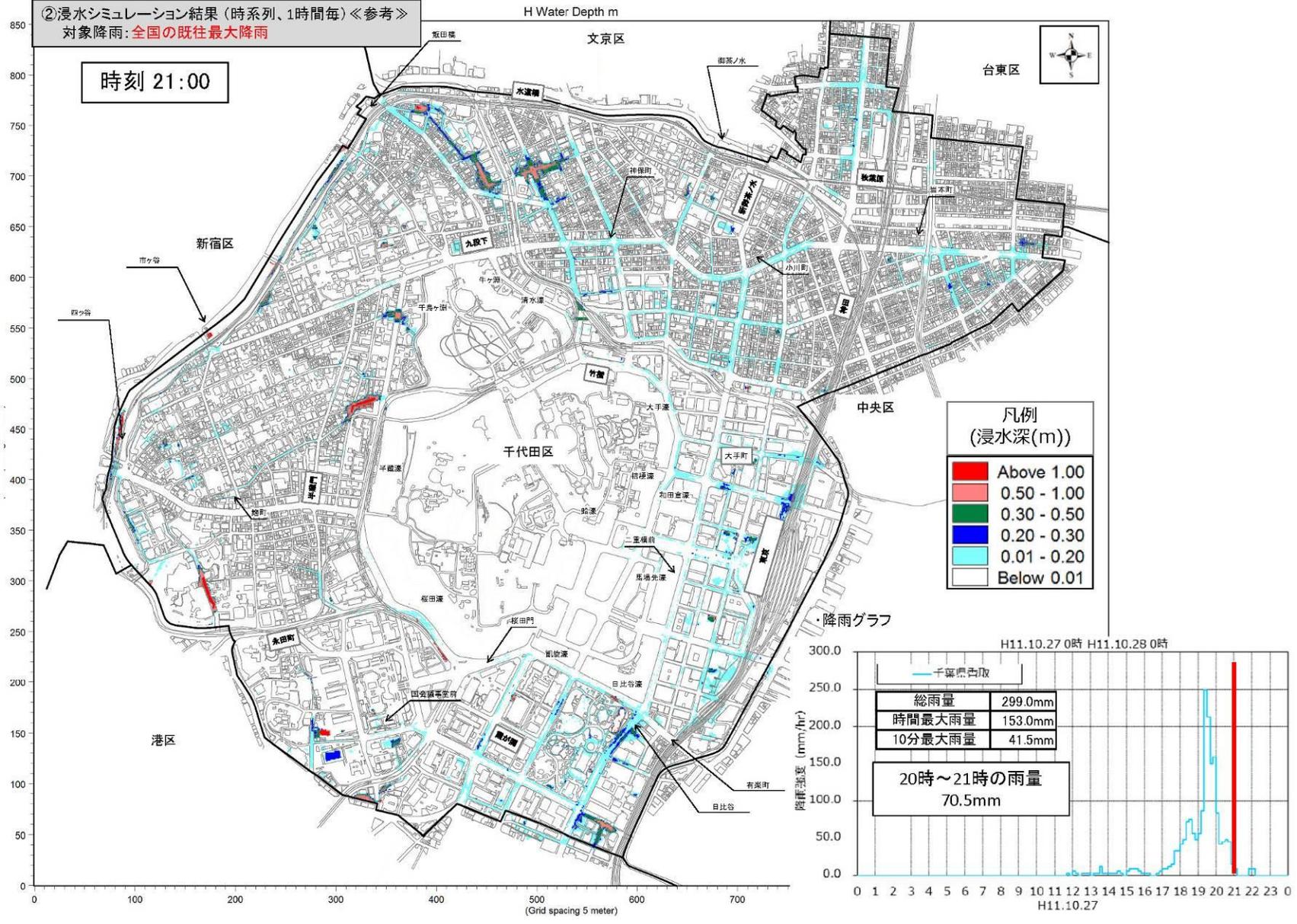
2.4 対象降雨

- ① 千代田区の過去30年間における既往最大時間雨量（H12.7.8）を採用（計算結果を最大浸水深で表示し、浸水履歴（H元年度～H20年度）を重ね合わせて表示）
- ② 全国の時間最大雨量の最大値（H11.10.27 千葉県香取観測所）を採用（計算結果を時系列で表示） 《参考》









例規・協定編

千代田区災害対策基本条例

平成18年3月9日条例第8号
平成25年12月9日条例第34号

前文

千代田区には、このまちを愛し住み続ける人々がおり、このまちで働き学ぶ多くの人々がいる。これらの人々の生命、財産及び生活を、災害から守るため、減災に努めるとともに、災害が生じたときには、直ちに応急体制を確立し、確かな復興を実現していくことは、区に課せられた重要かつ基本的な責務である。

さらに、千代田区は、日本の政治経済の中核機能が高度に集積するいわば日本の心臓部に当たる。そのため、災害対策においては、これらの機能の維持と復旧に資することが求められるとともに、膨大な帰宅困難者への対応も必要となる。

地震や台風等による自然災害及び大規模な事故やテロ等による人為的災害を、未然に防止することは困難であるが、災害に強いまちづくりを推進するために、人々の協力による地域防災力の向上を図る等の減災対策を講じることにより、その被害を最小限にとどめることができる。

防災の基本理念として、従来、自分の生命財産は自分で守る「自助」、自分たちのまちは自分たちで守る「共助」、行政責任としての「公助」があるとされてきている。しかし、千代田区では、その地域特性を踏まえると、地域共同体の共助を基本としながらもより広く、人道的支援も含めて、災害時に千代田区にあるすべての人々が相互に助け合い、支え合うことを新たな理念としてとらえることが必要であり、これを「協助」とする。

このような「自助」「協助」「公助」の理念のもとに、千代田区に関わるすべての人々及び行政が、相互に補完しあい、連携していくことにより災害対策に取り組んでいくため、ここに、この条例を制定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、区、区民、昼間区民、事業者その他区に関わる者の災害対策における責務を明らかにするとともに、災害の予防、減災及び応急の措置並びに復興に関する基本的な事項を定めることにより、災害対策を総合的かつ計画的に推進し、もって区に関わる者の生命、身体及び財産を災害から保護し、あわせて首都機能の維持と安定に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 減災 災害が発生した場合における被害を最小限にとどめることをいう。
- (2) 防災力 災害を予防し、また減災する能力をいう。
- (3) 区民 区内に住所又は居所を有する者をいう。
- (4) 昼間区民 区民以外の者であって、恒常的に区内で活動するものをいう。
- (5) 事業者 区内において事業を営む法人その他の団体又は個人をいう。

1 災害対策基本条例

- (6) 帰宅困難者 昼間区民その他区内に滞在する者並びに災害時に通行途上で区内に留まることとなった者及び区内に避難してきた者で、災害による交通機関の途絶のため容易に帰宅することができないものをいう。
- (7) 災害要援護者 高齢、心身障害その他の理由により災害時に自力で迅速に避難することが困難で、援護を要する者をいう。
- (8) 避難所 災害により自宅に留まることができない区民を保護するための施設をいう。
- (9) 災害時退避場所 帰宅困難者その他の者が災害発生直後の危険や混乱を回避し、身の安全を確保するために一時的に退避する場所をいう。
- (10) 帰宅困難者一時受入施設 帰宅困難者を一時的に受け入れ、円滑な帰宅が可能となるよう情報提供等を行うための施設で、区との協定に基づき整備されたものをいう。
- (11) 自主防災組織 災害対策基本法（昭和36年法律第223号。以下「法」という。）第5条第2項に規定する自主防災組織をいう。

（基本理念）

- 第3条 区の災害対策は、区民、昼間区民及び事業者並びに帰宅困難者その他災害時に区にある者（以下この条において「区にある者」という。）が、自らの生命、身体及び財産は、自己の責任により自ら守るという自助の理念のもとに、各自が防災力を向上させ、災害の予防と減災に努めることにより行われる。
- 2 区の災害対策は、区にある者が、相互扶助及び人道的支援の観点から、より広く協力し助け合うという協力の理念のもとに、地域の防災力を向上させ、災害の予防と減災に努め、また復旧に当たることにより行われる。
 - 3 区の災害対策は、区が、基礎的自治体として区にある者の生存と安全を確保するという公助の理念のもとに、防災力の高い安全なまちづくりを推進するとともに自助及び協力を支援することにより、災害の予防及び減災並びに災害からの復旧及び早期復興の実現を図ることにより行われる。

第2章 自助

（区民及び昼間区民の自助）

- 第4条 区民及び昼間区民は、自助の理念にのっとり、自己の安全の確保に努めなければならない。
- 2 区民及び昼間区民は、災害の予防と減災のため、次に掲げる事項について、自ら災害に備えるよう努めなければならない。
 - (1) 自らが居住し、又は使用する建築物その他の工作物の安全性の向上
 - (2) 自ら必要とする物資の確保
 - (3) 初期消火に必要な用具の準備
 - (4) 避難経路、避難所及び避難方法についての確認
 - (5) 災害対策に関する知識及び技術の習得
 - (6) 災害時における情報の取得及び伝達の手段の確認及び確保

（事業者の自助）

- 第5条 事業者は、自助の理念にのっとり、また、その事業活動を行うに当たっての社会的責任を自覚し、従業員及び顧客（以下「従業員等」という。）の安全の確保に努めなければならない。

2 事業者は、災害の予防と減災のため、次に掲げる事項について、自ら災害に備えるよう努めなければならない。

- (1) 建築物その他の工作物の安全性の向上
- (2) 従業員等が必要とする物資の備蓄及び機材の確保
- (3) 初期消火に必要な用具の準備
- (4) 避難経路及び避難方法についての整備及び従業員等への周知
- (5) 災害対策に関する知識及び技術の従業員等への周知並びに事業所の自主防災組織の編成
- (6) 災害時における情報の取得及び伝達の手段の確認及び確保並びに従業員等への周知

3 事業者は、災害時において、帰宅困難者となった従業員等が、地域の混乱を生じさせることのないようにしなければならない。

(帰宅困難者等の自助)

第6条 帰宅困難者となるおそれのある者は、自助の理念にのっとり、携帯食料その他の災害時における帰宅に必要な物資及び用具の確保に努めなければならない。

2 帰宅困難者となるおそれのある者は、災害時の家族との連絡手段の確保及び帰宅経路の確認に努めなければならない。

3 帰宅困難者となった者は、自らの安全を確保するとともに、帰宅の可能性に関する情報の収集並びに食糧及び飲料水の確保に努めなければならない。

(建築物等の安全対策)

第7条 区民、事業者は、その設置又は管理する建築物の安全性を向上させるため、耐震診断及び耐震改修に取り組まなければならない。

2 中高層建築物の設置者及び管理者は、窓ガラス及び外壁等の落下防止並びにエレベーター設備の安全対策に取り組まなければならない。

3 地下鉄、地下街、その他地下に設置された施設の設置者及び管理者は、防災設備の点検、避難経路の確保、豪雨時の浸水防止その他施設の災害対策の推進に取り組まなければならない。

4 区内に所在する人の居住の用に供する建築物の設置者及び管理者は、災害から居住者を守るため、建築物の安全性についてより一層の配慮をしなければならない。

(生活必需物資の備蓄)

第8条 区民及び昼間区民は、食糧、飲料水その他の災害時における生活必需物資を確保するようにしなければならない。

2 事業者は、従業員等のため、食糧、飲料水その他の災害時における生活必需物資を備蓄しなければならない。

3 中高層建築物その他災害時において物資の補給経路に支障を生じるおそれのある住居の居住者は、災害の復旧までの間に必要な食糧、飲料水その他の生活必需物資を備蓄しなければならない。

1 災害対策基本条例

第3章 協助

(区民及び昼間区民の協助)

第9条 区民及び昼間区民は、協助の理念にのっとり、区長その他の行政機関が実施する災害対策事業（総合防災訓練、地区別防災訓練、帰宅困難者避難訓練、企業向け講演会等をいう。以下同じ。）に協力するとともに、災害時における負傷者の救護その他減災のための諸活動への参加及び災害からの復旧に努めなければならない。

(事業者の協助)

第10条 事業者は、協助の理念にのっとり、区長その他の行政機関が実施する災害対策事業に協力するとともに、災害の予防及び減災並びに災害からの復旧に努めなければならない。

- 2 事業者は、地域に対する災害対策活動を実施するとともに、帰宅困難者一時受入施設の整備並びに災害時における地域との連携協力及び施設の提供に努めなければならない。

(災害時協力体制の事前整備)

第11条 区民、昼間区民及び事業者は、自主防災組織を結成し、災害時における相互の協力体制をあらかじめ築いておくよう努めなければならない。

- 2 区民、昼間区民及び事業者は、災害時における区内団体との協力体制をあらかじめ築いておくよう努めなければならない。
- 3 区民、昼間区民及び事業者は、協助のため、地域コミュニティの醸成に努めなければならない。

(帰宅困難者の協助)

第12条 帰宅困難者は、協助の理念にのっとり、相互に助け合って帰宅に努めるとともに、災害による負傷者の救護その他減災のための諸活動に努めなければならない。

(災害要援護者の援護)

第13条 区民、昼間区民及び事業者並びに自主防災組織（以下「区民等」という。）は、協助の理念にのっとり、区と協力して、災害要援護者が災害時においても安全を確保できるよう援護しなければならない。

- 2 帰宅困難者は、協助の理念にのっとり、災害時における災害要援護者の援護に努めなければならない。

(帰宅困難者の支援)

第14条 区民等は、協助の理念にのっとり、帰宅困難者対策地域協力会を結成するよう努めなければならない。

- 2 区民等は、協助の理念にのっとり、区と協力して、帰宅困難者の避難誘導、帰宅のための情報の提供その他災害時における帰宅困難者の円滑な帰宅を促進するための必要な支援に努めなければならない。

(大学等の協助)

第15条 大学、短期大学、専修学校、各種学校その他これらに類する教育施設を区内に設置している者は、学生ボランティアの育成及び帰宅困難者一時受入施設の整備並びに災害時における地域との連携協力及び施設の提供に努めるものとする。

(避難所及び帰宅困難者一時受入施設の開設協力及び運営)

第16条 区民等及び帰宅困難者対策地域協力会は、災害時における避難所の開設に協力し、区と連携してその運営に当たるものとする。

2 区民等及び帰宅困難者対策地域協力会は、災害時における帰宅困難者一時受入施設の開設及び運営に協力するものとする。

(応急医療体制の整備)

第17条 区民等は、区の推進する災害時における応急医療体制の整備及びその実施に協力するものとする。

(ボランティアによる支援)

第18条 ボランティアは、協助の理念にのっとり、区民等及び区と連携協力して支援活動を行うものとする。

2 区民等は、ボランティアを受け入れ、ボランティアによる被災者に対する支援活動が円滑に実施されるよう、区が実施するボランティアによる防災活動の環境の整備に協力するものとする。

第4章 公助

(区長の基本的責務)

第19条 区長は、公助の理念にのっとり、災害の予防、減災及び応急の措置のために必要な災害対策の策定及び推進並びに地域防災体制の整備を行い、区に関わる者の生命、身体及び財産を災害から守り、その安全を確保し、首都機能の維持に資するよう努めなければならない。

2 区長は、区民等及びボランティア団体と連携協力するとともに、これらの団体等への助成その他必要な支援を行うことにより、自助及び協助による地域防災活動を促進しなければならない。

3 区長は、国、東京都（以下「都」という。）、関係区市町村及び防災関係機関（法第2条第3号から第6号までに規定する機関をいう。以下同じ。）との連携協力に努めなければならない。

4 区長は、区の職員の防災力の向上に努めるとともに、区の職員を災害対策要員として確保しなければならない。

5 区長は、災害に関する正確な情報を、速やかにかつ確実に、収集し伝達しなければならない。

6 区長は、災害発生後の区民生活の再建、安定及び復興に向けた施策の推進を図らなければならない。

1 災害対策基本条例

(災害対策事業計画)

第20条 区長は、千代田区地域防災計画（法第42条の規定に基づく計画をいう。）に基づく災害対策を総合的かつ計画的に実施するため、災害対策事業計画を策定しなければならない。

(災害対策体制の確立)

第21条 区長は、災害時においては、法第23条第8項に規定する災害対策本部を中心とする応急体制を確立しなければならない。

(避難所の開設及び運営)

第22条 区長は、災害時において、被災者の支援のため必要があると認めるときは、速やかに避難所を開設しなければならない。

2 区長は、区民及び事業者並びに自主防災組織と連携して、避難所の運営に当たるものとする。

(応急医療体制の整備)

第23条 区長は、あらかじめ、災害時における応急医療体制を整備し、災害時においては、区民等及び医療機関と連携協力して、迅速にその実施を図り、被災者に周知するとともに、救援に当たらなければならない。

(災害時協力体制の整備)

第24条 区長は、あらかじめ、災害時における区民等及び区内団体との協力体制を、人、物及び情報の流れの観点から構築し、整備しておかななければならない。

2 区長は、ボランティアによる被災者に対する円滑な支援活動を確保するため、必要な物資及び機材並びに活動拠点を準備しておかななければならない。

3 区長は、区民等、帰宅困難者及びボランティアによる減災のための諸活動が、円滑かつ効果的に実施されるよう、総合的な調整を行うものとする。

(備蓄物資の整備)

第25条 区長は、災害時における必要な物資を確保するため、備蓄物資の計画的な整備を行わなければならない。

(災害要援護者の援護の推進)

第26条 区長は、災害要援護者が災害時においても安全を確保できるよう、あらかじめ援護体制を整備し、災害時においては災害要援護者を援護しなければならない。

2 区長は、第13条に規定する協力による災害要援護者の援護をしようとする者に対し、必要な支援を行うものとする。

(帰宅困難者対策の推進)

第27条 区長は、帰宅困難者となるおそれのある者に対し、避難訓練の実施その他必要な支援を行い、第6条に規定する自助の活動を促進しなければならない。

2 区長は、災害時退避場所を整備しなければならない。

3 区長は、帰宅困難者対策地域協力会の結成及びその活動を支援しなければならない。

- 4 区長は、帰宅困難者の円滑な帰宅及び区民生活の復旧を図るため、帰宅困難者の避難誘導、帰宅のための情報の提供その他災害時における帰宅困難者の円滑な帰宅を促進し、地域の混乱を防止するために必要な措置を講じなければならない。
- 5 区長は、第14条第2項に規定する協力による帰宅困難者の支援をしようとする者に対し、必要な支援を行うものとする。
- 6 区長は、帰宅困難者対策について、国及び都に対して必要な要請を行うとともに、連携の強化に努めなければならない。

(復興対策の推進)

- 第28条 区長は、災害により区内に甚大な被害が発生した場合、国、都、関係区市町村、防災関係機関その他関係諸機関と連携協力して被災地の復興に努めなければならない。
- 2 区長は、前項の場合には、区民生活の円滑な再建を図り、首都機能の速やかな回復に資するため、災害対策本部を中心とする復興体制を確立するとともに、復興計画を策定するものとする。

第5章 補則

(顕彰)

- 第29条 区長は、防災に対する認識が高く、その取組みが他の模範となる個人又は団体を、防災貢献者として表彰し、公表するものとする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成25年12月9日条例第34号)

この条例は、公布の日から施行する。

千代田区防災会議条例

昭和 38 年 7 月 13 日 条例第 7 号
改正 昭和 49 年 4 月 1 日 条例第 3 号
平成 12 年 3 月 28 日 条例第 14 号
平成 14 年 3 月 20 日 条例第 27 号
平成 25 年 3 月 29 日 条例第 8 号

(目的)

第 1 条 この条例は、災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）。以下「法」という。第 16 条第 5 項の規定に基づき、千代田区防災会議（以下「防災会議」という。）の所掌事務及び組織を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第 2 条 防災会議は、次の各号に掲げる事務をつかさどる。

- (1) 千代田区（以下「区」という。）地域防災計画を作成し、及びその実施を推進すること。
- (2) 区長の諮問に応じて区の地域に係る防災に関する重要事項を審議すること。
- (3) 前号に規定する重要事項に関し、区長に意見を述べること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、法律又はこれに基づく政令によりその権限に属する事務。

(会長および委員)

第 3 条 防災会議は、会長及び委員をもって組織する。

- 2 会長は、区長をもって充てる。
- 3 会長は、防災会議を代表し、会務を総理する。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。
- 5 委員は、次の各号に掲げる者のうちから区長が任命又は委嘱する。
 - (1) 陸上自衛隊の隊員
 - (2) 東京都の知事の部内の職員
 - (3) 警視庁の警察官
 - (4) 東京消防庁の消防吏員
 - (5) 区の消防団長
 - (6) 区長の部内の職員
 - (7) 区の教育委員会の教育長
 - (8) 法第 2 条第 1 項第 5 号の指定公共機関又は指定地方公共機関の役員又は職員
 - (9) 自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者のうちから区長が定める者
 - (10) その他区長が定めるもの
- 6 前項の委員の総数は、60 人以内とする。
- 7 第 5 項第 9 号及び第 10 号に掲げる者のうちから任命又は委嘱された委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、その前任者の残任期間とする。
- 8 前項の委員は、再任することができる。

(専門委員)

第 4 条 防災会議に、専門の事項を調査させるため、専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、関係地方行政機関の職員、東京都の職員、区の職員、関係指定公共機関、関係指定地方公共機関の役員又は職員および学識経験のある者のうちから、区長が委嘱する。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。

(幹事)

第5条 防災会議に幹事を置くことができる。

2 幹事は委員の属する機関の職員のうちから、区長が任命又は委嘱する。

3 幹事は、防災会議の所掌事務について、委員及び専門委員を補佐する。

4 幹事の総数は、40人以内とする。

(議事等)

第6条 前各条に定めるもののほか、防災会議の議事運営に関し必要な事項は、会長が防災会議

に諮って定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和49年4月1日条例第3号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成12年3月28日条例第14号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成14年3月19日条例第27号)

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月29日条例第8号)

この条例は、平成25年4月1日から施行する。

千代田区防災会議運営規程

(目的)

第1条 この規程は、千代田区防災会議条例（昭和38年千代田区条例第7号）第6条の規定に基づき、千代田区防災会議（以下「会議」という。）の議事その他の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(招集)

第2条 会議は必要に応じ会長が招集する。

2 委員は、必要があると認めるときは、会議に付議すべき事項及び理由を付して、会長に会議の招集を求めることができる。

3 会議を招集するときは、会議の日時、場所および議題を定め関係委員に通知しなければならない。

4 前項の通知を受けた委員が事故のため出席できないときは、代理者を出席させることができる。

(議事手続)

第3条 会議の議事は会長が主宰する。

2 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 会長は、必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(会議の記録)

第4条 会長は、議事録を作成しておかなければならない。

2 議事録には、次の事項を記載しなければならない。

(1) 会議の日時及び場所

(2) 出席した委員の職名及び氏名

(3) 議事の件名及び概要並びに議決事項

(4) その他必要と認める事項

(委任)

第5条 会議は、その所掌に関する事務の一部を会長に委任することができる。

2 会長は、委任を受けた事務を処理したときは、会議に報告しなければならない。

(専門委員)

第6条 専門委員は、調査の結果を報告するために会議に出席することができる。

附 則

この規程は、条例公布の日から施行する。

千代田区防災会議委員名簿

会長（1名）

平成26年4月1日現在

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
会長	千代田区長	3264-2111

委員（48名）

(1) 防災会議条例第3条第5項第1号の陸上自衛隊の隊員（1名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	陸上自衛隊 第1普通科連隊 第1中隊 中隊長	3933-1161

(2) 防災会議条例第3条第5項第2号の東京都の知事の部内の職員（4名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	東京都第一建設事務所長	3542-0682
〃	東京都水道局中央支所長	3256-6186
〃	東京都下水道局中部下水道事務所長	3270-8324
〃	東京都交通局日比谷駅務管理所副所長	3211-1901

(3) 防災会議条例第3条第5項第3号の警視庁の警察官（5名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	警視庁第一方面本部長	3581-4321
〃	麴町警察署長	3234-0110
〃	丸の内警察署長	3213-0110
〃	神田警察署長	3295-0110
〃	万世橋警察署長	3257-0110

3 防災会議名簿

(4) 防災会議条例第3条第5項第4号の東京消防庁の消防吏員（4名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	東京消防庁第一消防方面本部長	3222-0119
〃	丸の内消防署長	3215-0119
〃	麴町消防署長	3264-0119
〃	神田消防署長	3257-0119

(5) 防災会議条例第3条第5項第5号の区の消防団長（3名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	丸の内消防団長	3212-2931
〃	麴町消防団長	3261-9251
〃	神田消防団長	3261-1959

(6) 防災会議条例第3条第5項第6号の区長の部内の職員（13名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	千代田区副区長	3264-2111
〃	千代田区保健福祉部長	〃
〃	千代田区保健福祉部高齢者総合サポートセンター担当部長	〃
〃	千代田区地域保健担当部長	〃
〃	千代田区地域振興部長	〃
〃	千代田区地域振興部オリンピック・パラリンピック担当部長	〃
〃	千代田区地域振興部コミュニティ振興担当部長	〃
〃	千代田区環境まちづくり部長	〃
〃	千代田区環境まちづくり部まちづくり担当部長	〃
〃	千代田区環境まちづくり部参事（連絡調整担当）	〃
〃	千代田区環境まちづくり部参事（連絡調整担当）	〃
〃	千代田区政策経営部長	〃
〃	千代田区政策経営部政策推進部担当部長	〃
〃	千代田区政策経営部特命担当部長	〃
〃	千代田区会計管理者	〃

(7) 防災会議条例第3条第5項第7号の区の教育長（1名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	千代田区教育長	3264-2111

(8) 防災会議条例第3条第5項第8号の法第2条第1項第5号の指定公共機関又は指定地方公共機関の役員又は職員（7名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	東京電力株式会社 銀座支社長 (H28.4.1～「東京電力パワーグリッド株式会社 銀座支社長」)	6374-3886
〃	株式会社 NTT 東日本 東京事業部東京南支店長	3519-9705
〃	東京ガス株式会社 中央支店長	5722-2602
〃	東日本旅客鉄道株式会社 東京駅長	3214-6810
〃	東京地下鉄株式会社 大手町駅務管区長	3216-5440
〃	首都高速道路株式会社 東京西局総務部長	3264-8283
〃	首都圏新都市鉄道株式会社 秋葉原駅務管理所長	3839-7352

(9) 区防災会議条例第3条第5項第10号の区長の定める者（15名）

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	宮内庁管理部管理課長	3213-1111
〃	日本郵便株式会社 東京中央郵便局副局長	3217-5427
〃	日本郵便株式会社 神田郵便局局長	3257-6405
〃	日本郵便株式会社 麴町郵便局局長	3263-1876
〃	国土交通省東京国道事務所 防災情報課長	3512-9064
〃	千代田区医師会会長	3265-0203
〃	神田医師会会長	3251-6878
〃	千代田区歯科医師会会長	3946-2182
〃	丸の内歯科医師会会長	3212-1056
〃	麴町歯科医師会会長	3262-3336
〃	千代田区薬剤師会会長	3866-4615

3 防災会議名簿

役名	勤務職名	電話 (勤務先)
委員	千代田区教育委員会事務局 子ども部長	3264-2111
〃	千代田区教育委員会事務局 教育担当部長	〃
〃	千代田区議会事務局長	〃
〃	千代田区監査委員事務局長	〃

千代田区防災会議幹事名簿

31名

平成26年4月1日現在

役名	職名	電話 (勤務先)
幹事	陸上自衛隊 第1普通科連隊 第1中隊 第2小隊長	3933-1161
〃	東京都第一建設事務所 補修課長	3542-0682
〃	東京都水道局 千代田営業所長	5298-5351
〃	東京都下水道局中部下水道事務所 お客さまサービス課長	3270-8324
〃	東京都交通局日比谷駅務管理所 日比谷駅務区副所長	3211-1901
〃	麹町警察署 警備課長	3234-0110
〃	丸の内警察署 警備課長	3213-0110
〃	神田警察署 警備課長	3295-0110
〃	万世橋警察署 警備課長	3257-0110
〃	第一消防方面本部 防災係長	3222-0119
〃	丸の内消防署 警防課長	3215-0119
〃	麹町消防署 警防課長	3264-0119
〃	神田消防署 警防課長	3257-0119
〃	東京電力株式会社 銀座支社 企画総括グループマネージャー (H28.4.1～「東京電力パワーグリッド株式会社 銀座支社 企画総務グループ」)	6374-3886
〃	株式会社NTT 東日本-南関東 東京事業部 東京南支店 設備部門長	3519-9705
〃	東京ガス株式会社 中央支店 地域広報グループ 地域広報課長	5722-2602
〃	東日本旅客鉄道株式会社 東京駅 副駅長	3214-6810
〃	東京地下鉄株式会社 大手町駅務管区 大手町地域 首席助役	3216-5440
〃	首都高速道路株式会社 東京西理局総務・経理課 郊外担当課長	3264-8283
〃	首都圏新都市鉄道株式会社 運輸部 秋葉原駅務管理所 副所長	3839-7352

3 防災会議名簿

役名	職名	電話 (勤務先)
幹事	宮内庁管理部皇居東御苑 管理事務所長	3213-2050
〃	皇宮警察本部 警備部警備第一課調査官	3231-3115
〃	日本郵便株式会社 東京中央郵便局 窓口営業部課長	3217-5427
〃	国土交通省東京国道事務所 防災情報課長	3512-9064
〃	千代田区医師会 事務長	3264-5449
〃	神田医師会 事務長	3291-0450
〃	千代田歯科医師会 防災対策委員会 委員長	3233-4618
〃	丸の内歯科医師会 理事	3287-2888
〃	麹町歯科医師会 医療管理担当理事	3261-5361
〃	千代田区薬剤師会 会長	3262-3336
〃	千代田区 政策経営部災害対策・危機管理課長	3264-2111

防災関係機関一覧

防 災 関 係 機 関		住 所	電 話	備 考
区	千代田区役所	九段南 1-2-1	3264-2111	
警 察 署	麹町警察署	麹町 1-4-5	3234-0110	
	丸の内警察署	有楽町 1-9-2	3213-0110	
	神田警察署	神田錦町 2-2	3295-0110	
	万世橋警察署	外神田 1-16-5	3257-0110	
消 防 署	丸の内消防署	大手町 1-3-5	3215-0119	
	麹町消防署	麹町 1-12	3264-0119	
	神田消防署	外神田 4-14-3	3257-0119	
供 給 機 関	東京電力(株)銀座支社 (H28.4.1～「東京電力パ ーグリット株式会社銀座 支社」)	港区芝公園 2-2-4	6374-3886	
	東京ガス(株)中央支店	目黒区目黒 3-1-3	5722-2602	
	東京都水道局中央支所	内神田 2-1-12	3256-6186	
通 信 機 関	(株)NTT東日本-東京サー ビス運営部	内幸町 1-1-6 霞が関ビル新館 2 階	3519-9705	
郵 便 局	日本郵便株式会社 東京中央郵便局	丸の内 2-7-2	3217-5247	
	日本郵便株式会社 麹町郵便局	九段南 4-5-9	3263-1876	
	日本郵便株式会社 神田郵便局	神田淡路町 2-12	3257-6405	
交 通 機 関	【JR 東日本】			
	東京駅	丸の内 1-9-1	050-2016-1600	
	有楽町駅	有楽町 2-9-1	〃	
	神田駅	鍛冶町 2-13-1	〃	
	秋葉原駅	外神田 1-17-6	〃	
	御茶ノ水駅	神田駿河台 2-6	〃	
	水道橋駅	三崎町 2-22-1	〃	
	飯田橋駅	飯田橋 4-10-2	〃	
	市ヶ谷駅	五番町 2	〃	
四ッ谷駅	新宿区四谷 1 丁目無番地	〃		

3 防災会議名簿

防 災 関 係 機 関		住 所	電 話	備 考
交 通 機 関	【東京地下鉄】			
	(銀座線)			
	末広町駅	外神田 4-7-3	3251-0518	
	神田駅	神田須田町 1-16	3251-2241	
	(丸の内線)			
	四ッ谷駅	新宿区四谷 1-1	3351-1010	
	淡路町駅	神田淡路町 1-2	3292-0540	
	大手町駅	大手町 1-6-1	3216-5440	
	東京駅	丸の内 1-6-5	3231-5652	
	霞ヶ関駅	霞が関 2-1-2	3501-3606	
	国会議事堂前駅	永田町 1-7-1	3581-2479	
	(日比谷線)			
	秋葉原駅	神田佐久間町 1-21	3253-5301	
	日比谷駅	有楽町 1-5-1	3501-6068	
	霞ヶ関駅	霞が関 2-1-2	3501-3606	
	(東西線)			
	飯田橋駅	新宿区神楽坂 1-13	3267-2638	
	九段下駅	九段南 1-6-1	3261-2090	
	竹橋駅	一ツ橋 1-1-1	3211-6094	
	大手町駅	大手町 2-1-1	3216-5440	
	(千代田線)			
	新御茶ノ水駅	神田駿河台 3 先	3253-4989	
	大手町駅	大手町 1-6-1	3216-5440	
	二重橋駅	丸の内 2-3-1	3214-0691	
	日比谷駅	有楽町 1-5-1	3501-6068	
	霞ヶ関駅	霞が関 2-1-2	3501-3606	
国会議事堂前	永田町 1-7-1	3581-2479		
(有楽町線)				
飯田橋駅	新宿区神楽坂 1-13	3267-2638		
市ヶ谷駅	新宿区市谷田町 1 先	3260-3231		
麴町駅	麴町 3-2 先	3261-4161		
永田町駅	永田町 1-11-28 先	3581-7788		
桜田門駅	霞が関 2-1-1	3581-3993		
有楽町駅	有楽町 1-11-1	3211-5671		

防 災 関 係 機 関		住 所	電 話	備 考
交 通 機 関	(半蔵門線)			
	半蔵門駅	麴町 1-6 先	3263-5600	
	永田町駅	永田町 1-11-28 先	3581-7788	
	九段下駅	九段南 1-6-1	3261-2090	
	神保町駅	神田神保町 2-2	3230-3657	
	大手町駅	大手町 1-6-1	3216-5440	
	(南北線)			
	飯田橋駅	新宿区神楽坂 1-13	3267-2638	
	市ヶ谷駅	新宿区市谷田町 1 丁目先	3260-3231	
	四ッ谷駅	新宿区四谷 1-3	3359-0212	
	永田町駅	永田町 1-11-28 先	3581-7788	
	溜池山王駅	永田町 2-11-1	3505-3071	
	【都営地下鉄】			
	(都営三田線)		3291-2755	
	神保町駅	神田神保町 2-1	3211-1962	
	大手町駅	丸の内 1-3-1 先	3211-1901	
	日比谷駅	有楽町 1-13-1 先	3591-6550	
	内幸町駅	内幸町 2-2-3 先		
	(都営新宿線)		3234-6251	
	市ヶ谷駅	九段南 4-8-22	3234-7621	
九段下駅	九段北 1-13-19	3234-5751		
神保町駅	神田神保町 2-7	3251-3801		
小川町駅	神田小川町 1-6	3255-8591		
岩本町駅	神田岩本町 1			
(都営大江戸線)		5689-4264		
飯田橋駅	文京区後楽 1-9-5			
【首都圏新都市鉄道】				
(つくばエクスプレス)				
秋葉原駅	神田佐久間町 1-6-10	0570-000-298		
そ の 他 の 機 関	東京都下水道局中部下水道 事務所	大手町 2-6-2	3270-7311	
	東京都第一建設事務所	中央区明石町 2-4	3542-0682	
	国土交通省東京国道事務所	大手町 1-3-3	3214-7361	
	首都高速道路(株)	平河町 2-16-3	3264-8283	
	西東京管理局			
	(財) 日本道路交通情報 センター (九段センター)	九段南 1-6-17	3264-1331	

千代田区災害対策本部条例

昭和 38 年 7 月 13 日条例第 8 号
改正 平成 8 年 3 月 29 日条例第 3 号
平成 25 年 3 月 29 日条例第 7 号

(目 的)

第 1 条 この条例は、災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号。以下「法」という。）第 23 条の 2 第 8 項の規定に基づき、千代田区災害対策本部（以下「本部」という。）の設置に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(本部の組織)

第 2 条 本部に本部会議及び班を置く。

2 本部会議は、災害対策本部長（以下「本部長」という。）、災害対策副本部長（以下「副本部長」という。）及び災害対策本部員（以下「本部員」という。）で構成する。

2 班に班長を置く。

3 本部員及び班に属する職員は、千代田区規則（以下「規則」という。）で定める。

(本部長等の職務)

第 3 条 本部長は、本部の事務を総括し、本部員その他の本部の職員を指揮監督する。

2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 本部員は、上司の命を受け、本部の事務に従事する。

4 班長は、上司の命を受け、班の事務を掌理する。

5 班に属する職員は、上司の命を受け、班の事務に従事する。

(委 任)

第 4 条 前 2 条に定めるもののほか、本部に関し必要な事項は、区規則で定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 8 年 3 月 29 日条例第 3 号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 25 年 3 月 29 日条例第 7 号）

この条例は、公布の日から施行する。

千代田区災害対策本部条例施行規則

昭和 40 年 4 月 16 日規則第 27 号
改正 昭和 43 年 6 月 5 日規則第 33 号
～
改正 平成 27 年 8 月 28 日規則第 51 号

千代田区災害対策本部条例施行規則

(目的)

第 1 条 この規則は、千代田区災害対策本部条例（昭和38年千代田区条例第 8 号。以下「条例」という。）第 2 条及び第 4 条の規定に基づき、千代田区災害対策本部（以下「本部」という。）の組織及びその所掌事務等について必要な事項を定めることを目的とする。

(本部長)

第 2 条 千代田区災害対策本部長（以下「本部長」という。）は、千代田区長（以下「区長」という。）をもって充てる。

(副本部長)

第 3 条 千代田区災害対策副本部長（以下「副本部長」という。）は、次の職にある者をもって充てる。

(1) 副区長

(2) 千代田区教育委員会教育長

2 条例第 3 条第 2 項の規定により副本部長が本部長の職務を代理する場合の順位は、前項に掲げる順位による。

(本部員)

第 4 条 千代田区災害対策本部員（以下「本部員」という。）は、次に掲げる職にある者をもって充てる。

(1) 千代田区組織規則（昭和50年千代田区規則第19号）第 9 条第 1 項に定める部長及び同条第 2 項に定める担当部長

(2) 千代田区教育委員会事務局処務規則（平成 3 年千代田区教育委員会規則第 1 号）第 3 条第 1 項に定める部長及び同条第 2 項に定める担当部長

(3) 会計管理者、監査委員事務局長及び区議会事務局長

4 本部体制

(4) 地域振興部安全生活課長並びに環境まちづくり部環境まちづくり総務課長並びに政策経営部総務課長、同部広報広聴課長及び同部災害対策・危機管理課長

2 前項に掲げる者のほか、本部長は、必要があると認めるときは、千代田区（以下「区」という。）に勤務する職員のうちから本部員を指名することができる。

3 本部員は、特に定める場合又は特に指定された場合を除き、通常の行政組織における職務権限に基づき、本部の事務を処理する。

（班の名称等）

第5条 本部の班の名称及びその担当業務は、別表のとおりとする。

2 区に勤務する職員の属する班は、区長が指定する。

3 班長は、班に属する職員のうちから本部長が指名する。

（本部会議）

第6条 本部長は、本部会議の会議を招集し、次の事項について、本部の基本方針を審議し、及び策定する。

(1) 本部の非常配備態勢及び廃止に関すること。

(2) 重要な災害情報の収集及び伝達に関すること。

(3) 避難の勧告又は指示に関すること。

(4) 避難所の開設又は閉鎖に関すること。

(5) 他の区市町村との相互応援に関すること。

(6) 都知事、政府機関及び公共機関等に対する応援の要請に関すること。

(7) 災害時の協定締結団体等に対する応援・協力要請に関すること。

(8) 公用令書による公用負担に関すること。

(9) 災害対策に要する経費の処理方法に関すること。

(10) 前各号に掲げるもののほか、重要な災害対策に関すること。

2 本部長は、必要があると認めるときは、第2条から第4条までに定める者以外の者を前項の会議に出席させることができる。

（雑則）

第7条 この規則に定めるもののほか、本部に関し必要な事項は、別に定める。

付 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和40年4月1日から適用する。

附 則（平成27年 8 月 28日規則第51号）

この規則は、平成27年 9 月 1 日から施行する。

別表（第 5 条関係）

班名	担当する震災応急対策業務
総括班	災害対策活動全般の総合調整（震災応急対策、復旧・復興計画全般）
機動班	災害対策本部の設置、各班の支援・応援
初動調査班	区内被害状況の把握、各種機器による伝達 区内調査（職員住宅）・職員の連絡体制・職員の参集状況把握
広報班	災害広報、報道対応、交通規制情報の把握、被災状況の把握・集計・記録
連絡調整第 1 班 （防災機関担当）	電気・ガス・水道・地下街・警察・消防等区内防災機関との連絡調整
連絡調整第 2 班 （広域調整担当）	国・都・自衛隊・姉妹都市・協定自治体・他の自治体との連絡調整
連絡調整第 3 班 （協定団体担当）	大学・企業・団体等との連絡調整
連絡調整第 4 班 （ボランティア担当）	ボランティア等の受入れ・管理・調整
施設班	庁舎の保全、区立施設の管理・被害状況把握・情報機器等の状況把握・ 応急復旧・修繕業務
相談班	区民からの問合せ対応・相談業務 被災外国人対応・大使館との連絡調整
避難所班	避難所の開設、避難所運営協議会との連絡調整、備蓄物資の配布（備蓄倉庫）、ペット・動物の収容保護
教育班	園児・児童・生徒の保護・安全管理、区立学校・保育園・幼稚園・こども園・児童館・認証保育所・臨時保育施設の管理・運営、応急教育
災害時要援護者支援班	要援護者の状況調査・保護・支援、民間福祉施設との連絡調整、被災者生活再建支援

4 本部体制

	福祉避難所の開設・運営
出張所班	管内被災状況の把握、相談業務
援護班	行方不明区民・遺体の集計、管理
帰宅困難者対応班	災害時退避場所・帰宅困難者一時受入施設の状況把握
備蓄物資班	避難所や帰宅困難者一時受入施設等への備蓄物資の運搬・配布、在庫確認
救援物資班	救援物資の受け入れ・管理・配布
応急給水班	日比谷公園、東郷元帥記念公園、一橋高校の各応急給水槽の運用・操作
輸送班	各班の要請に伴う輸送業務、庁有車の管理・配車
医療救護活動拠点班	医師会・歯科医師会・病院との連絡調整、医療救護所の開設・運営 医療ニーズに係る調整・情報交換、医療機関の被害情報の収集、けが人の収容・搬送
保健班	避難所等における保健衛生対策活動
環境衛生班 食品衛生班 防疫班 動物班	食品衛生・環境衛生の監視、防疫活動
建物調査班	建物等の調査（民間）・応急危険度判定・調査員の管理・運用、被災文化財調査 建物のアスベスト調査・対応
応急土木班	道路・橋梁の管理・復旧、道路障害物の除去、応急土木資材の調達・運用
環境班	ごみ・がれき・し尿の収集・処理、仮設トイレの設置・管理
清掃班	災害地清掃
り災調査班	り災証明発行準備、都との連絡調整、出張所との連絡調整

災害時の医療救護活動についての協定書

東京都千代田区を「甲」とし、社団法人〇〇医師会を「乙」とし、甲乙間において次のとおり協定を締結する。

(総 則)

第1条 この協定は、千代田区地域防災計画に基づき、甲が行う医療救護活動に対する乙の協力に関し、必要な事項を定める。

(医療救護班の派遣)

第2条 甲は、千代田区地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要が生じた場合は、乙に対し医療救護班の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の定めにより、甲から要請を受けた場合は、直ちに、乙の災害医療救護活動組織に基づき医療救護班を編成し、現地の救護所等に派遣するものとする。

3 前項の定める医療救護班の構成人員は、次のとおりとする。

- | | |
|-------------|----|
| (1) 医師 | 1名 |
| (2) 看護師 | 1名 |
| (3) その他補助事務 | 1名 |

(災害医療救護計画の策定及び提出)

第3条 乙は、前条の定めによる医療救護活動を実施するため、甲の救護活動に基づく実施計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

(医療救護班の活動場所)

第4条 乙所属の医療救護班は、甲が設置する救護所等において、医療救護活動を実施するものとする。

(医療救護班の業務)

第5条 医療救護班の業務は、次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置
- (2) 後方医療施設への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 転送困難な患者及び避難所等における軽易な患者に対する医療
- (4) 死亡の確認

(指揮命令)

第6条 医療救護班に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲が指定する者が行うものとする。

(医療救護班の輸送)

第7条 乙所属の医療救護班の輸送は、原則として甲が行う。

ただし、大災害時等で輸送が困難な場合は、指定された救護所に各班が独自に集合する。

5 医療救護活動

(医薬品等の備蓄・輸送)

第8条 乙所属の医療救護班は、原則として、甲が別に定める場所に備蓄する医薬品等を使用するものとする。

- 2 救護所において必要とする給食及び給水は、甲が行う。
- 3 備蓄医薬品等の輸送は、原則として甲が行う。

(後方医療施設における医療救護)

第9条 救護所又は避難所等において医療施設での医療を必要とする傷病者があった場合は、甲が東京都の指定する後方医療施設等へ搬送する。

(合同訓練)

第10条 乙は、甲から要請があった場合は、甲が実施する合同訓練に参加するとともに、当該訓練の一般参加者中、傷病者が発生した場合の医療救護を併せ担当するものとする。

(医療費)

第11条 救護所における医療費は、無料とする。

- 2 後方医療施設における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用弁償等)

第12条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動等を実施した場合に要する次の経費は、甲が負担するものとする。

- (1) 医療救護班の編成、派遣に伴うもの
 - ア.医療救護班の編成、派遣に要する経費
 - イ.医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費弁償

- (2) 合同訓練時における医療救護活動の前(1)に係る経費
- 2 前項(1)アの定めによる費用弁償の額については、東京都・特別区・東京都医師会連絡協議会(三者協)で決定した災害医療救護従事者の実費弁償額に原則として準ずる。

又、(1)イの定めによる費用弁償の額については、甲乙協議のうえ別に定めるものとする。

(扶助費)

第13条 甲の要請に基づき、乙が行った医療救護活動の従事者又は合同訓練参加者が負傷し、疾病にかかり、又は死亡した場合の扶助金については、その者が通常得ている収入の額を基準として、「災害救助法」(昭和22年法律第118号)に基づき算出した額とし、甲が負担するものとする。

(医事紛争の処理)

第14条 乙の医療救護活動において医事紛争が生じた場合は、乙は甲に速やかに報告する。

- 2 甲は、前項の報告を受けたときは、速やかに調査し、甲乙協議のうえ誠意を以て解決のため適切な処置をとるものとする。

(災害医療運営連絡会の設置)

第 15 条 甲は、この協定の円滑な実施を図るため、甲及び乙が必要と認める関係機関をもって構成する千代田区災害医療運営連絡会を設置するものとする。

(協定期間)

第 16 条 この協定期間は、甲乙いずれからか協定解除又は変更の申出がない限り、継続するものとする。

(細 目)

第 17 条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協 議)

第 18 条 前各条に定めのない事項については、甲乙協議のうえ決定するものとする。

甲と乙とは、本協定書二通を作成し、双方記名押印のうえ各一通を保有する。

平成 8 年 5 月 28 日

東京都千代田区九段南一丁目 6 番 11 号
甲 東京都千代田区
代表者 千代田区長 木 村 茂

東京都千代田区五番町 4 番地 4
乙 社団法人 千代田区医師会
代表者 会 長 米 川 潔

東京都千代田区神田小川町二丁目 8 番地
乙 社団法人 神田医師会
代表者 会 長 隠 岐 悦 宏

災害時の歯科医療救護活動についての協定書

東京都千代田区を「甲」とし、社団法人〇〇歯科医師会を「乙」とし、甲乙間において次のとおり協定を締結する。

(総 則)

第1条 この協定は、千代田区地域防災計画に基づき、甲が行う歯科医療救護活動に対する乙の協力に関し、必要な事項を定める。

(歯科医療救護班の派遣)

第2条 甲は、千代田区地域防災計画に基づき、歯科医療救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し歯科医療救護班の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の定めにより、甲から要請を受けた場合は、直ちに、歯科医療救護班を、神田・麴町保健所に派遣するものとする。

3 前項の定める歯科医療救護班の構成人員は、次のとおりとする。

- (1) 歯科医師 1名
- (2) 歯科衛生士 1名
- (3) その他補助事務 1名

(災害歯科医療救護の実施)

第3条 乙は、前条の定めによる歯科医療救護活動を実施するため、甲の定める救護活動計画に協力するものとする。

(歯科医療救護班の業務)

第4条 歯科医療救護班の業務は、次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置
- (2) 千代田保健所及び千代田保健所麴町庁舎における避難者に対する応急の歯科診療処置等
- (3) 救護所等への巡回歯科診療及び歯科相談
- (4) 歯科医療施設を救護所として指定した場合は、歯科医療施設が歯科医療救護班の役割を持って活動する

(指揮命令)

第5条 歯科医療救護班に係る指揮命令及び歯科医療救護活動の連絡調整は、甲が指定する者が行う。

(医薬品等の備蓄)

第6条 乙所属の歯科医療救護班は、原則として、甲が定める場所に備蓄する医薬品等を使用するものとする。

(合同訓練)

第7条 乙は、甲から要請があった場合は、甲が実施する合同訓練に参加するとともに、必要な協力を行うものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は、無料とする。

(費用弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が歯科医療救護活動等を実施した場合に要する次の経費は、甲が負担するものとする。

(1) 歯科医療救護班の編成、派遣に伴うもの

ア. 歯科医療救護班の編成、派遣に要する経費

イ. 歯科医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費弁償

(2) 合同訓練時における歯科医療救護活動の前(1)に係る経費

2 前項(1)アの定めによる費用弁償の額については、東京都・特別区・東京都医師会連絡協議会(三者協)で決定した災害医療救護従事者の実費弁償額に原則として準ずる。

又、(1)イの定めによる費用弁償の額については、甲乙協議のうえ別に定めるものとする。

(扶助費)

第10条 甲の要請に基づき、乙が行った歯科医療救護活動の従事者又は合同訓練参加者が負傷し、疾病にかかり、又は死亡した場合の扶助金については、その者が通常得ている収入の額を基準として、「災害救助法」(昭和22年法律第118号)に基づき算出した額とし、甲が負担するものとする。

(医事紛争の処理)

第11条 乙の歯科医療救護活動において医事紛争が生じた場合は、乙は甲に速やかに報告する。

2 甲は、前項の報告を受けたときは、速やかに調査し、甲乙協議の上誠意を以て解決のため適切な処置をとるものとする。

(協定期間)

第12条 この協定期間は、甲乙いずれからか協定解除又は変更の申出がない限り、継続するものとする。

(細目)

第13条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協議)

第14条 前各条に定めのない事項については、甲乙協議のうえ決定するものとする。

甲と乙とは、本協定書二通を作成し、双方記名押印のうえ各一通を保有する。

平成8年5月28日

東京都千代田区九段南一丁目6番11号
甲 東京都千代田区
代表者 千代田区長 木村 茂

5 医療救護活動

東京都千代田区丸の内三丁目4番1号
乙 社団法人 丸の内歯科医師会
代表者 会長 並木 俊雄

東京都千代田区九段南四丁目8番30号
乙 社団法人 麴町歯科医師会
代表者 会長 斉藤 勲

東京都千代田区神田須田町一丁目7番地
乙 社団法人 千代田区歯科医師会
代表者 会長 笠島 信也

災害時における応急医薬品等の優先供給 及び医療救護活動に関する協定書

災害時における応急医薬品等の優先供給及び医療救護活動に関し、東京都千代田区（以下「甲」という。）と〇〇薬剤師会（以下「乙」という。）との間において、次のとおり協定を締結する。

（目 的）

第1条 この協定は、区内に災害が発生したとき、又は発生する恐れがある場合において千代田区地域防災計画に基づく医療救護活動を円滑に行うため、区内医薬品等販売事業者の協力を得て、応急医薬品等の確保を図ること及び医療救護活動に対する協力を得ることを目的とする。

（要 請）

第2条 甲は、災害が発生し、又は発生する恐れがある場合において、応急医薬品等の調達を必要と認めたときは乙に対し品名、数量、納入場所及び日時、その他必要な事項を明らかにして供給の要請をするものとする。

2 甲は、千代田区地域防災計画に基づき調剤、服薬指導及び医薬品管理等の医療救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し、薬剤師の派遣を要請するものとする。

3 乙は、前項の定めにより、甲から要請を受けた場合には、直ちに、薬剤師を、救護所及び医薬品の集積場所等に派遣するものとする。

4 乙に対する甲の要請手続きについては、千代田区防災課長又は千代田区地域防災計画に定める関係部の部長が行うものとする。

（薬剤師の活動場所）

第3条 薬剤師は、救護所及び医薬品の集積場所等において、医療救護活動を実施するものとする。

（薬剤師の業務）

第4条 薬剤師の業務は次のとおりとする。

- (1) 救護所等における傷病者等に対する薬剤、服薬指導
- (2) 救護所及び医薬品の集積場所等における医薬品の仕分け、管理、納入

（指揮命令）

第5条 薬剤師に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲が指定するものが行うものとする。

（医薬品等の備蓄・輸送）

第6条 薬剤師は、原則として、甲が別に定める場所に備蓄する医薬品等を使用するものとする。

2 備蓄医薬品等の輸送は、原則として甲が行う。

5 医療救護活動

(合同訓練)

第7条 乙は、甲から要請があった場合は、甲が実施する合同訓練に参加するとともに、必要な協力を行うものとする。

(調剤費)

第8条 救護所における調剤費は、無料とする。

(費用負担)

第9条 甲は、乙の納入した応急医薬品の代金及びその所要経費を負担するものとする。この場合の応急医薬品の価格は、当該災害の発生した直前の価格とする。

(費用弁償等)

第10条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動等を実施した場合に要する次の経費は、甲が負担するものとする。

(1) 薬剤師の編成、派遣に伴うもの

ア.薬剤師の編成、派遣に要する経費

イ.薬剤師が携行した医薬品等を使用した場合の実費弁償

(2) 合同訓練時における医療救護活動の前(1)に係る経費

2 前項(1)アの定めによる費用弁償の額については、東京都・特別区・東京都医師会連絡協議会(三者協)で決定した災害医療救護従事者の実費弁償額に原則として準ずる。

又、(1)イの定めによる費用弁償の額については、甲乙協議のうえ別に定めるものとする。

(扶助費)

第11条 甲の要請に基づき、乙が行った医療救護活動の従事者又は合同訓練参加者が負傷し、疾病にかかり、又は死亡した場合の扶助金については、その者が通常得ている収入の額を基準として、「災害救助法」(昭和22年法律第118号)に基づき算出した額とし、甲が負担するものとする。

(協定期間)

第12条 この協定期間は、甲乙いずれからか協定解除又は変更の申出がない限り、継続するものとする。

(細目)

第13条 この協定を実施するために必要な事項については別に定める。

(協議)

第14条 この協定及び協定に基づく細目に定めのない事項並びにこの協定又は細目の解釈について疑義が生じたときは、甲乙協議の上決定する。

甲と乙とは、本協定書二通を作成し、双方記名押印のうえ各一通を保有する。

平成8年5月28日

東京都千代田区九段南一丁目 6 番 11 号
甲 東京都千代田区
代表者 千代田区長 木 村 茂

東京都千代田区麴町二丁目 4 番地
乙 麴町薬剤師会
代表者 会 長 都 築 喜 市

東京都千代田区神田小川町三丁目 2 番地
乙 神田薬剤師会
代表者 会 長 石 津 勝 男

災害時における柔道接骨師会の協力に関する協定書

東京都千代田区を「甲」とし、千代田中央区柔道接骨師会[(社)東京都柔道接骨師会千代田・中央支部]を「乙」とし、甲乙間において次のとおり協定を締結する。

(総 則)

第1条 この協定は、東京都千代田区地域防災計画に基づき、甲が行う災害応急対策業務に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

(協力の内容)

第2条 災害時において乙は、甲からの要請に基づき、次に掲げる範囲の協力を行うものとする。

- (1) 傷病者に対する応急救護(柔道整復師法「昭和45年法律第19号」に規程された業務の範囲)の実施
- (2) 傷病者に対する応急救護に関する衛生材料等の提供
- (3) 傷病者に対する応急救護に必要な労務の提供

(協力の要請)

第3条 甲が、乙に対して協力を要請するときは、要請の理由、業務内容、日時、実施場所、その他必要事項を明らかにして要請しなければならない。

(協 力)

第4条 乙は、甲から要請を受けた事項に関し、特別の理由がない限り、必要な業務を実施するものとする。

(指揮命令)

第5条 乙の協力に係る指揮命令及び連絡調整については甲の指定する者が行い、応急救護に係る必要な指示については医師会会長の指定する医師が行うものとする。

(療養費)

第6条 救護所における療養費は無料とする。

(費用弁償)

第7条 甲は乙の協力に係わる衛生材料等の提供使用について、その実費を弁償するものとする。

(損害補償)

第8条 甲の要請に基づき、乙がおこなった救護活動等に係る従事者の損害補償については「災害に際し応急措置の業務等に従事した者に係る損害補償に関する条例」(昭和41年千代田区条例第12号)の例による。

(防災訓練への参加)

第9条 乙は、甲が行う防災訓練に対し、甲の要請に基づき必要な協力を行うものとする。

(細 目)

第 10 条 この協定の実施に関する細目は、別途定めるものとする。

(協 議)

第 11 条 この協定の条項の解釈について疑義を生じたとき、又はこの協定に定めのない事項については、そのつど甲・乙協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第 12 条 この協定の有効期間は、平成 4 年 4 月 16 日から平成 5 年 3 月 31 日までとする。ただし、期間満了の日の 3 ヶ月前までに甲・乙なんらの申出がないときは、さらに 1 年間延長されたものとみなし、以降この例によるものとする。

この協定を証するため、本書 2 通作成し、甲・乙記名押印のうえ、各 1 通を保有する。

平成 4 年 4 月 16 日

甲 東京都千代田区九段南一丁目 6 番 11 号
東京都千代田区
千代田区長 木 村 茂

乙 東京都千代田区平河町 1-3-8 平河町プラザ 404
千代田中央区柔道接骨師会
[(社)東京都柔道接骨師会千代田・中央支部]
会 長 久 保 孝 敏

災害時における動物救護活動に関する協定書

千代田区（以下「甲」という。）と公益社団法人東京都獣医師会（以下「乙」という。）とは、千代田区地域防災計画（以下「計画」という。）に基づき、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、甲が行う動物救護活動に対する乙の協力（以下「協力」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（協力の要請）

第2条 甲は、計画に基づき動物救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し、協力を要請するものとする。

（動物救護活動の実施場所）

第3条 協力は、甲が避難場所等に設置する救護所等において行うものとする。

（協力の内容）

第4条 協力の内容は、次のとおりとする。

- (1) 負傷した動物の応急手当に関すること。
- (2) 被災した動物の保護及び管理に関すること。
- (3) 被災した動物の情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 動物の死亡の確認

（負担）

第5条 甲は、乙に対し、前項各号に規定する協力に必要な用地、施設、設備、物資等を可能な限り提供するものとする。

（費用弁償）

第6条 乙は、協力が終了したときは、甲に対し速やかに協力内容の報告をするとともに、協力に要した費用を請求するものとする。

2 前項の規定により乙が甲に対して請求する費用の額は、甲乙協議の上決定するものとする。

（連絡会）

第7条 この協定を円滑に実施するため、甲乙間の連絡会を設け、必要に応じて開催するものとする。

（損害賠償）

第8条 協力に従事した者がその従事したことにより死亡し、負傷し、又は疾病にかかったときは、千代田区防災の応急措置に従事した区民等の損害補償に関する条例（平成12年千代田区条例第41号）の規定に基づき、甲が補償を行うものとする。

（細目）

第9条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

（協議）

第10条 この協定に定めのない事項及びこの協定について疑義が生じた事項については、甲乙協議の上決定するものとする。

この協定の締結を証するため、協定書を2通作成し、甲乙記名押印の上、それぞれ1通保有する。

平成24年4月1日

甲 千代田区九段南一丁目2番1号
千代田区
代表者 千代田区長 石川 雅己

乙 港区青山一丁目1番1号
公益社団法人東京都獣医師会
代表者 会長 村中 志朗

区と民間団体との協力(総括表)

	応援協定の名称	構成団体または締結先	備考
1	災害時における応急用米穀の優先供給に関する協定書(昭和55年2月締結)	東京都米穀小売商業組合 千代田支部	
2	災害時における麺類等による給食に必要な労務等の提供に関する覚書(昭和55年6月締結)	東京都麺類協同組合 神田支部 麴町支部 丸の内支部	
3	災害時における緊急輸送業務の協力に関する協定書(平成21年3月再締結)	社団法人東京都トラック協会 千代田支部	
4	災害時における石油類の優先供給に関する協定書(昭和58年10月締結)	東京都石油商業組合千代田支部 東京都石油業協同組合千代田支部	
5	災害時における燃料等の優先供給に関する協定書(昭和58年10月締結)	東京都燃料小売商業組合 神田支部 東京都燃料小売商業組合 麴町支部	
6	災害時におけるプロパンガスの優先供給に関する協定書(昭和58年12月締結)	東京都プロパンガス協会 中央支部千代田地区	
7	災害時における千代田区と郵便局の相互協力に関する協定書(平成11年11月締結)	東京中央郵便局 神田郵便局 麴町郵便局 東京国際郵便局	
8	災害時における衛生活動に関する協定(平成18年5月締結)	東京都理容生活衛生同業組合 麴町支部 神田支部	
9	災害時における道路障害物除去等応急対策活動に関する協定(平成20年8月締結)	千代田区造園建設業防災協力会	
10	災害時における車両等障害物除去応急業務についての協定(平成21年3月締結)	社団法人東京都自動車整備振興会中央支部	
11	災害時における道路応急対策業務に関する協定(平成21年3月締結)	千代田区土木防災協会	
12	災害時における区立施設の電気設備復旧業務の協力に関する協定(平成22年1月締結)	千代田区防災協力会	

	応援協定の名称	構成団体または締結先	備考
13	災害時における区立施設の給排水設備復旧業務の協力に関する協定（平成22年1月締結）	千代田区災害対策管工事協力会	
14	災害時における応急対策活動等に関する協定（平成22年1月締結）	社団法人日本建築協会関東甲信越支部千代田地域会	
15	災害時における電気製品等の提供協力に関する協定（平成20年8月締結）	株式会社ヨドバシカメラ	
16	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成16年1月締結）	学校法人 明治大学	
17	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成17年3月締結）	学校法人 専修大学	
18	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成17年3月締結）	学校法人 法政大学	
19	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成18年3月締結）	学校法人 上智大学	
20	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成19年2月締結）	学校法人 日本大学	
21	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成20年3月締結）	学校法人 二松学舎	
22	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成21年3月締結）	学校法人 東京家政学院大学 東京家政学院短期大学	
23	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成23年12月締結）	学校法人 大妻学院	
24	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成25年1月25日締結）	学校法人 日本歯科大学	
25	大規模災害時における協力体制に関する基本協定（平成25年9月締結）	学校法人 共立女子学園	
26	災害時におけるトイレパックの提供（平成24年8月締結）	株式会社 総合サービス	

大規模災害時における協力体制に関する基本協定

地震等大規模災害時における、地域住民、在勤者等の安全確保や生活復興などの応急対策を迅速に推進するため、「千代田区」（以下「甲」という。）と「学校法人 明治大学」（以下「乙」という。）は、災害発生時の協力に関し、次のとおり基本協定を締結する。

（目 的）

第1条 この協定は、地震等の大規模災害が発生した場合に、区民、在勤者及び区内訪問者（以下「区民等」という。）の安全確保を図るために執る甲及び乙の協力体制について定めることを目的とする。

（協力要請）

第2条 甲は、乙に前条に規定する協力を要請する場合は、予め定めている甲、乙双方の担当者等を通じて行うものとする。

（協 力）

第3条 乙は、甲から、前条の規定による協力要請を受けた場合は、協定の内容にしたがって可能な限り協力を努めるものとする。

ただし、真にやむを得ない事情により、協力要請に応じられない場合はこの限りでない。

（協力内容）

第4条 前条に規定する協力の内容は、次のとおりとする。

- (1) 甲から派遣要請のあった被災場所及び避難場所等への学生ボランティアの派遣
- (2) 区民等の安全確保のための、大学施設の一部の一時的避難施設としての提供(ただし、甲が地域防災計画において予め規定する避難場所及び帰宅困難者支援場所への避難が、災害状況及び天候等により、困難な場合の二次的施設としての使用とする。)
- (3) 大学施設に収容した被災者への応急医療資材及び備蓄物資の提供(提供できる資器材等を有しない場合を除く。)
- (4) その他の協力要請事項

（ボランティア組織の整備）

第5条 乙は、前条第1項(1)による派遣を行うため、予め、学生ボランティアの募集、登録、養成等を行うこととする。

2 甲は、前項の規定による乙の活動を支援するため、必要な資器材の提供等を行うこととする。

（施設提供期間）

第6条 第4条第1項(2)の施設の提供期間は、原則として災害発生直後の初動期間(1週間程度)として、被災者が自宅に帰宅又は千代田区が指定する施設に移動するまでの期間とする。

ただし、これを超えて使用する場合は、甲及び乙の協議により決定する。

(経費の負担)

第7条 第4条の協力に要した経費は、原則として、甲が負担するものとする。

(実施細目)

第8条 ボランティア養成に係る支援内容及び資器材内容、施設提供に係る具体的施設・収容人員等、本協定の実施に必要な事項については、実施細目に定める。

(協 議)

第9条 この協定に関する疑義や定めのない事項については、甲乙双方協議のうえ決定するものとする。

(附 則)

1 この協定は、平成16年1月14日から適用する。

2 この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲乙双方記名押印のうえ、各1通を保有する。

平成16年1月14日

甲 千代田区長 石川 雅己

乙 学校法人 明治大学
理 事 長 長 吉 泉

給水施設の維持管理及び運用に関する協定

東京都を甲とし、千代田区長を乙とし、甲乙間において、次の条項により、給水施設の維持管理及び運用に関する協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲が東京都震災予防条例(昭和46年東京都条例121号)に基づき東郷元帥記念公園内に設置した給水施設(以下「給水施設」という。)の維持管理及び運用に関して必要な基本的事項を定めることを目的とする。

(協力)

第2条 甲と乙とは、給水施設を設置した趣旨に鑑み、当該施設の維持管理及び運用について相互に協力するものとする。

(維持管理)

第3条 甲は、給水施設が常に良好な状態で使用できるように給水施設の維持管理を行うものとする。

2 前項の維持管理は、東京都水道局長が実施するものとする。

(応急給水)

第4条 乙は、応急給水を実施するために給水施設を使用するものとする。ただし、災害訓練の目的で使用するときは、事前に東京都水道局長の承認を得るものとする。

(費用負担)

第5条 甲は、第3条に規定する給水施設の維持管理に要する経費を負担するものとする。

2 乙は、給水施設から応急給水を行うために資器材を使用する場合は、甲が設置した資器材以外のものに係る経費を負担するものとする。

(関連区)

第6条 乙は、給水施設を使用して行う応急給水に関して必要がある場合は、関連する他の特別区と別途協議するものとする。

(実施細目)

第7条 乙と東京都水道局長は、この協定の実施に関し必要な事項について協議するものとする。

(適用期日)

第8条 この協定は、昭和60年7月17日から適用する。

甲と乙とは、上記協定締結の証として、本協定書を2通作成し、それぞれ記名押印のうえ、その1通を保有する。

昭和60年7月17日

甲 東京都
代表者 東京都知事 鈴木 俊 一

乙 千代田区
代表者 千代田区長 加藤 清 政

給水施設の維持管理及び運用に関する協定書

東京都知事を甲とし、東京都千代田区長を乙とし、甲乙間において、次の条項により、給水施設の維持管理及び運用に関する協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲が東京都震災予防条例(昭和46年東京都条例第121号)に基づき都立日比谷公園内に設置した給水施設(以下「給水施設」という。)の維持管理及び運用に関して必要な基本的事項を定めることを目的とする。

(協力)

第2条 甲と乙とは、給水施設を設置した趣意に鑑み、当該施設の維持管理及び運用について相互に協力するものとする。

(維持管理)

第3条 甲は、給水施設が常に良好な状態で使用できるように給水施設の維持管理を行うものとする。

2 前項の維持管理は、東京都水道局長が実施するものとする。

(応急給水)

第4条 乙は、応急給水を実施するために給水施設を使用するものとする。ただし、災害訓練の目的で使用するときは、事前に東京都水道局長の承認を得るものとする。

(費用負担)

第5条 甲は、第3条に規定する給水施設の維持管理に要する経費を負担するものとする。

2 乙は、給水施設から応急給水を行うために資器材を使用する場合は、甲が設置した資器材以外のものに係る経費を負担するものとする。

(関連区)

第6条 乙は、給水施設を使用して行う応急給水に関して必要がある場合は、関連する他の特別区と別途協議するものとする。

(実施細目)

第7条 乙と東京都水道局長は、この協定の実施に関し必要な事項について協議するものとする。

(適用期日)

第8条 この協定は、平成3年7月26日から適用する。

甲と乙とは、上記協定締結の証として、本協定書を2通作成し、それぞれ記名押印のうえ、その1通を保有する。

平成3年7月26日

甲 東京都知事 鈴木俊一

乙 東京都千代田区長 木村茂

都立学校内における給水施設の維持管理及び運用に関する協定書

東京都知事を甲とし、東京都教育委員会教育長を乙とし、千代田区長を丙とし、甲乙丙間において、次の条項により、給水施設の維持管理及び運用に関する協定を締結する。

(目的)

第1条 本協定は、千代田区内に乙が所管する都立一橋高校内に甲が東京都震災予防条例(昭和46年東京都条例第121号)に基づき、設置した給水施設(以下給水施設という)の維持管理及び運用に開して必要な基本的事項を定めることにより、災害時における円滑な応急給水活動に資することを目的とする。

(協力)

第2条 甲、乙及び丙は、当該施設の維持管理及び運用について相互に協力するものとする。

(維持管理)

第3条 甲は、給水施設が常に良好な状態で使用できるように給水施設の維持管理を行うものとする。

2 前項の維持管理は、東京都水道局長が実施するものとする。

3 東京都水道局長は維持管理作業を実施するに際して、設置校の学校長の承諾を得るものとする。

(応急給水)

第4条 応急給水は、原則として、丙が行うものとする。但し、乙も状況に応じて応急給水を行うことができる。

(平常時使用)

第5条 丙が前条以外の目的で給水施設を使用する場合は、事前に東京都水道局長及び乙の承諾を得ること。

(損害補償)

第6条 丙が第4条の応急給水及び前条の平常時に給水施設を使用する際に乙の施設等に損害を与えた時は、丙が損害を補償するものとする。

2 甲が第3条の給水施設の維持管理を実施する際に乙の施設等に損害を与えた時は、甲が損害を補償するものとする。

3 乙の故意又は過失により給水施設の一部を破損した場合は、その修繕に掛かる費用は乙の負担とする。

(費用負担)

第7条 甲は、第3条に規定する給水施設の維持管理に要する経費を負担するものとする。

2 丙は、給水施設から応急給水を行うために資器材を使用する場合は、甲が設置した資器材以外に係わる経費を負担するものとする。

(取り壊し等)

第8条 都立学校内における給水施設の設置に関する協定書第6条により、給水施設を取り壊し及び移設する場合は、甲は事前に丙へ通知すること。

(実施細目)

第9条 丙、東京都水道局長及び当該都立学校の長は、この協定の実施に関して必要な事項について協議するものとする。

(疑義の決定)

第10条 本協定の各条項の解釈について疑義が生じたとき又はこの協定に定めのない事項については、その都度、甲、乙及び丙が協議のうえ定めるものとする。

(適用期日)

第11条 この協定は、平成8年10月22日から適用する。

甲、乙及び丙は、上記協定締結の証として、本協定書を3通作成し、それぞれ記名押印の上その1通を保有する。

平成8年10月21日

甲 東京都知事 青島 幸男

乙 東京都教育委員会教育長 市川 正

丙 千代田区長 木村 茂

都立高等学校における避難所施設利用に関する協定書

東京都千代田区長を「甲」とし、東京都立〇〇高等学校長を「乙」とし、甲乙の間において、次のとおり避難所としての施設利用に関する協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定書は、甲が、乙の管理する施設の一部を、避難所として利用することについて必要な事項を定めることを目的とする。

(避難所として利用できる施設の周知)

第2条 甲は、乙の管理する施設のうち避難所として利用できる施設の範囲を、地域住民に周知するよう必要な措置を講ずるものとする。

(避難所の開設)

第3条 甲は、災害発生時及び、まさに災害が発生しようとする際に、当該施設を避難所として開設する必要が生じた場合、乙の指定した場所を開設することができる。

(開設の通知)

第4条 甲は、第3条に基づき避難所を開設する際、事前に乙に対しその旨を、文書又は口頭で通知するものとする。

2 甲は、避難所の開設に緊急を要し通知するいとまがないときは、前項の規定にかかわらず、乙の承認した施設を避難所として開設することができるものとする。この場合、できるだけ早い時期に、乙に対し開設した旨を通知するものとする。

(避難所の管理)

第5条 避難所の管理運営は、甲の責任において行うものとする。

2 避難所の管理運営について、乙は甲に協力するものとする。

(費用負担)

第6条 甲は、避難所の管理運営に係わる費用を負担するものとする。

(開設期間)

第7条 避難所の開設期間は原則として災害発生の日から7日以内とする。

2 甲は、状況により期間を延長する必要がある場合は、乙と協議のうえ、その期間を延長することができるものとする。この場合甲は、東京都教育委員会教育長に使用許可延長の申請をするものとする。

(避難所解消への努力)

第8条 甲は、乙が早期に教育活動を再開できるよう配慮するとともに、当該避難所の早期解消に務めるものとする。

(避難所の終了)

第9条 甲は、乙の管理する施設を避難所として終了する際は、乙に、避難所使用終了届を提出するとともに施設を原状に復し、乙の確認を受けた後、乙に引き渡すものとする。

(協 議)

第 10 条 この協定書に定めのない事項に疑義が生じた場合は、甲乙協議のうえ定めるものとする。

甲と乙は、この協定を証するため、本書 2 通を作成しそれぞれ記名押印のうえ各 1 通を保有するものとする。

平成 8 年 10 月 22 日

東京都千代田区九段南一丁目 6 番 11 号
甲 東京都千代田区
代表者 千代田区長 木 村 茂

東京都千代田区永田町二丁目 16 番 1 号
乙 東京都立日比谷高等学校
代表者 校 長 久 野 猛

東京都千代田区九段北二丁目 2 番 1 号
乙 東京都立九段高等学校
代表者 校 長 横 尾 浩 一

東京都千代田区東神田一丁目 12 番 13 号
乙 東京都立一橋高等学校
代表者 校 長 川 島 正 雄

防災備蓄倉庫の使用等に関する協定書

東京都住宅供給公社(以下「甲」という。)と東京都千代田区(以下「乙」という。)とは、甲が建築基準法(昭和 25 年法律第 201 号)に基づく東京都千代田区総合設計許可要綱(平成元年 5 月 1 日施行)による乙との協議に基づき、甲が東京都労働経済局と合築で建築した建物(以下甲の所有する建物部分を「トミンタワー飯田橋三丁目」、東京都労働経済局の所有する建物部分を「シニアワーク東京」という。)に設置した防災備蓄倉庫(以下「備蓄倉庫」という。)を乙が使用することについて次のとおり協定を締結する。

(備蓄倉庫の位置等)

第 1 条 甲が設置した備蓄倉庫はつぎのとおりとする。

所在地 東京都千代田区飯田橋三丁目 10 番 3 号及び 1 号
シニアワーク東京及びトミンタワー飯田橋三丁目敷地内
鉄骨鉄筋(一部鉄筋)コンクリート造地下 3 階地上 25 階建のうち
鉄筋コンクリート造地下 1 階部分延床面積 3,253.82 m²のうち
21.24 m²(別添図面赤色図示部分)

(使用料)

第 2 条 甲は備蓄倉庫を、乙に無償で使用させるものとする。

(用途指定)

第 3 条 乙は備蓄倉庫を災害対策用備蓄物資倉庫としてのみ使用するものとする。

(使用期間及び期間更新)

第 4 条 備蓄倉庫の使用期間は平成 8 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日までの 10 年間とする。

ただし、使用期間満了の 3 ヶ月前までに甲、乙いずれか一方から更新しない旨の意思表示がないときは、更に 1 年間更新するものとし、以後も同様とする。

(目的外使用等の禁止)

第 5 条 乙は備蓄倉庫を第 3 条で定める用途以外の用途に使用したり、第三者に転貸することはできないものとする。

(維持管理等)

第 6 条 備蓄倉庫の維持管理については、別途覚書を取り交わすものとする。なお、備蓄倉庫の使用にかかる電気料は、別途協議するものとする。

(協定の終了及び破棄)

第 7 条 使用期間内であっても、乙が備蓄倉庫を第 3 条で定める用途に供さなくなったときには本協定は終了するものとする。この場合、乙は、用途に供さなくなる日の 3 ヶ月前までに甲に通知するものとする。

2 甲は使用期間内であっても、特別の事情がある場合は、本協定を破棄することができるものとする。この場合、甲は破棄しようとする日の 3 ヶ月前までに乙に通知するものとする。

3 甲は、乙がこの協定に違反した場合は、本協定を破棄することができるものとする。

(協定の終了等に伴う備蓄倉庫の明け渡し)

第8条 乙は、本協定が終了し、又は破棄された場合は備蓄倉庫を原状に復し、甲に明け渡すものとする。ただし、使用期間中に生じた施工部分の原状回復については、第6条により取り交わす覚書の定めるところによるものとする。

(明け渡しの時期等)

第9条 前条に定める乙の備蓄倉庫の明け渡しについては、この協定で定める使用期間が終了する日、又は、本協定が破棄される日までに行わなければならないものとする。

2 乙は、前項の明け渡し期限までに備蓄倉庫を明け渡すことのできない特別の事情があるときは、協議の上、甲の承認を得るものとする。

(使用上の損傷等に対する損害の補てん)

第10条 乙は、その責に帰する事由により備蓄倉庫及びその付帯設備その他これに付随する共用部分に損傷を与えた場合は、修復等必要な措置を講じなければならないものとする。

2 乙は本協定の各条項に違反したり、乙の責に係る管理義務を怠ること等によって、甲もしくは第三者に損害を与えた場合は、乙はその損害を賠償しなければならない。

(免責事項)

第11条 地震、火災、水害等の災害及び盗難等、甲の責に帰することのできない事由によって乙が被った損害に対しては、甲はその責を負わないものとする。

(協議事項)

第12条 損害賠償等、本協定に定めのない事項及びこの協定について疑義を生じた場合は甲乙が協議の上解決するものとする。

本協定締結の証とするため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上各1通を保有する。

平成8年4月1日

東京都渋谷区神宮前五丁目53番67号

甲 東京都住宅供給公社
理事長 三科亮次

東京都千代田区九段南一丁目6番11号

乙 東京都千代田区
区長 木村 茂

防災備蓄倉庫の維持管理に関する覚書

東京都住宅供給公社を甲、東京都千代田区を乙として平成8年4月1日付で締結した、「防災備蓄倉庫の使用等に関する協定書」第6条に基づき、備蓄倉庫の維持管理について次のとおり覚書を取り交わす。

第1 乙は備蓄倉庫を使用するにあたり、甲の了解のもとに維持管理する。

第2 乙は備蓄倉庫を使用するにあたり、甲と東京都労働経済局とがこの合築建物について別に定めた管理協定等を遵守し、災害対策用備蓄物資の搬出入に際しては、甲に事前に通知するものとする。

ただし、次に掲げるような場合で、甲に事前通知することができなかつた時はこの限りではない。この場合、乙は甲にたいしその旨をすみやかに通知するものとする。

(1) 災害が発生した場合

(2) まさに災害が発生しようとしている場合

第3 甲は乙に備蓄倉庫の鍵を貸与し、乙はその鍵の保管、管理について乙の責任で運用する。

第4 乙が備蓄倉庫を使用するにあたり、必要造作の新設若しくは模様替え等を行う場合は、あらかじめ甲の承認を得なければならない。

第5 備蓄倉庫の前項に係る造作の新設、模様替えの実施等の費用は乙において負担する。ただし、当初より甲が設置していた備品等の更新については、その原因が通常の使用の結果当然に生じたものと認められる場合は甲の負担において行う。

第6 備蓄倉庫の使用にあたり修繕を要する箇所が生じたときは、乙は速やかにその旨を甲に報告するとともに修繕は次の区分に従いそれぞれが行う。

(1) 修繕を要する箇所が本覚書第4により乙において設置したものである場合は乙の負担において行う。

(2) 修繕を要する箇所が乙において設置した以外の施設で、その原因が通常の使用の結果当然に生じたものと認められた場合は、甲の負担において行う。

第7 協定書第8条ただし書きに定める使用期間中に行つた施工部分の原状回復については、乙が施工した施設等は、乙の負担において原状に復するものとする。

本覚書の成立を証し本書2通を作成し、甲乙記名押印の上各1通を保有する。

平成8年4月1日

甲 東京都住宅供給公社
理事長 三科亮次

乙 東京都千代田区
区長 木村茂

大規模地震災害時又は警戒宣言時の施設利用に関する協定

千代田区(以下「甲」という。)と環境省自然環境局(以下「乙」という。)とは、大規模地震災害時又は警戒宣言発令時における地域応援活動の一環として、乙が所管する施設を帰宅困難者支援場所とするために、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、千代田区において大規模地震に伴う災害が発生した場合又は大規模地震対策特別措置法(昭和53年法律第73号)第2条第13号に規定する警戒宣言が発せられた場合に、甲が実施する応急対策活動(以下「帰宅困難者支援活動」という。)に乙が協力するときの手続き、範囲その他必要な事項を定めることを目的とする。

(帰宅困難者支援場所の設置)

第2条 甲は帰宅困難者支援活動を円滑に行うため、情報提供や応急食料配布等を主目的とした活動を行うためのスペースとして帰宅困難者支援場所(以下「支援場所」という。)を設置する。

2 前項の支援場所は次の施設に置く。

- (1) 皇居前広場
- (2) 北の丸公園

(支援場所として利用できる敷地)

第3条 前条第2項の施設のうち支援場所として利用できる敷地の範囲は、国家的災害活動用地等を除き、甲乙協議の上定めるものとする。

- 2 甲は支援場所として利用できる敷地の範囲を、近隣事業者及び住民に周知するよう必要な措置を講ずるものとする。
- 3 支援場所の管理運営については甲が行い、乙は甲に協力するものとする。

(支援活動の内容)

第4条 甲が支援場所で行う支援活動は次のとおりとする。

- (1) 帰宅困難者への一時的な滞留場所の提供及び支援
- (2) 負傷者の一時的な救護
- (3) その他区長が必要と認める支援活動
- 2 前項の支援活動は、乙が行う国家的災害活動や自衛消防活動又は他の応援協定に基づく応援活動その他施設運営を阻害するものであってはならない。

(開始の通知)

第5条 甲が支援場所における支援活動を開始するときは、事前に乙に対しその旨を、文書又は口頭で通知するものとする。

- 2 甲は、緊急を要し前項の通知をするいとまがないときは、前項の規定にかかわらず、ただちに支援活動を開始することができるものとする。この場合、できるだけ早い時期に乙に対し開始した旨を通知するものとする。

(第三者加害)

第6条 乙が行う甲に対する協力活動に関して第三者との間に紛争が生じた場合、甲は解決のために適切な措置を講ずるものとする。

7 給水・避難所・倉庫施設

(損害補償)

第7条 帰宅困難者支援活動により乙の職員が、死亡し、負傷し、若しくは疾病にかかり、又は障害の状態となった場合の補償については、「千代田区防災の応急措置に従事した区民等の損害補償に関する条例」(平成12年千代田区条例第41号)によるものとする。

(訓練等)

第8条 甲及び乙は、この協定の効果的な運用を図るため、訓練、研修等の実施に努めるものとする。

(協 議)

第9条 この協定に疑義が生じたとき又はこの協定に定めのない事項については、その都度甲乙協議の上定めるものとする。

(運 用)

第10条 この協定の実施に係る細目的事項については、付属書によるものとする。

(有効期限)

第11条 この協定の有効期限は協定締結の日から平成17年3月31日までの間とする。
ただし、有効期限の満了する2か月前までに甲乙いずれからもこの協定の廃止についての意思表示がない場合は、引き続き2年間、自動的に有効期間を延長し、以後も同様とする。

甲と乙は、この協定を証するため、本書2通を作成しそれぞれ記名押印のうえ各1通を保有するものとする

平成15年9月18日

甲 千代田区九段南一丁目6番11号
千代田区
代表者
千代田区長
石 川 雅 己

乙 千代田区霞ヶ関一丁目2番2号
環境省自然環境局
代表者
環境省自然環境局長
小 野 寺 浩

【付属書】

大規模地震災害時又は警戒宣言時の施設利用に関する協定について

大規模地震災害時又は警戒宣言時における地域応援に関する協定の運用は次による。

1 協定の趣旨

協定は、大規模地震(千代田区地域防災計画で想定する程度の地震をいう。以下同じ。)発生時又は警戒宣言発令時に、地域応援活動のため皇居前広場及び北の丸公園を帰宅困難者支援場所として利用するための指針を示すものである。

2 帰宅困難者支援活動

(1) 甲は、災害の発生状況及び拡大状況等を総合的に判断し、災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第65条第1項に規定する応急措置を強化するため緊急の必要があると認める場合は、乙に対して応援の要請を行うものとする。

(2) 協定第3条第3項に規定する甲が行う運営は次のとおりとする。

- ア 職員の巡回又は配置
- イ 滞留者及び帰宅困難者数の把握、関連情報の提供
- ウ 滞留者及び帰宅困難者数に応じた仮設トイレの設置
- エ 必要な水・食料の支給
- オ 受入可能な避難所等へ滞留者及び帰宅困難者の誘導
- カ その他必要な事項

3 情報連絡

情報の連絡は、相互に電話等で行うものとする。

4 交通事故の適用除外

協定第6条の規定は、交通事故による場合を除くものとする。

5 付属書の改定

この付属書は、協定の趣旨を逸脱しない範囲において、甲及び乙それぞれの担当部局の長の協議により改定できるものとする。

震災等大規模災害時における相互応援に関する協定

東京都千代田区(以下「甲」という。)と群馬県吾妻郡嬭恋村(以下「乙」という。)とは友好提携を締結する都市として相互協力の精神に基づき、災害時における応急対策及び復旧対策(以下「応急対策等」という。)に係る相互の応援に関し、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲又は乙のいずれかの地域において地震等の大規模災害が発生した場合、被災地独自では十分な応急対策等が実施できない場合に、相互に応援協力することにより、被災地域の応急対策等を円滑かつ迅速に実施することを目的とする。

(応援の要請)

第2条 甲又は乙は、応急対策等に必要な応援の要請は、必要事項を示し連絡担当課を通じて、行うものとする。

(協力)

第3条 甲又は乙は、前条の規定により要請を受けた場合は、その内容に従って可能な限り応援に努めるものとする。

なお、通信手段が途絶し、直接要請することが不可能な場合に、応援を要する状況にあることが判明したときも同様とする。

(応援内容)

第4条 前条に規定する、応援の内容は、次のとおりとする。

- (1) 食糧品、飲料水及び生活必需品の提供
- (2) 被災者の救出、医療、防疫、施設の応急復旧に必要な資機材の提供
- (3) 被災者の受入れのための施設の提供
- (4) 応急対策等に必要な職員の派遣
- (5) 前号に掲げるもののほか、特に要請があった事項

(経費の負担)

第5条 応援に要した経費は、原則として応援を要請した者が負担するものとする。

(応急物資等の輸送)

第6条 応急物資及び応援職員等の輸送は、応援する側が行うものとする。ただし、双方協議により相手方に依頼し又は分担することができる。

(連絡担当課)

第7条 甲及び乙は、あらかじめ相互応援のための連絡担当課を定め、災害が発生したとき又は災害の発生のおそれのある場合は、速やかに情報交換を行うものとする。

(ボランティアへの支援)

第8条 甲及び乙は、個人又は団体から応援の申し出があった場合は、その内容を把握整理し、適切な支援が図れるよう努めるものとする。

(啓発事業への協力)

第9条 甲及び乙は、この協定が災害時に有効に機能するよう、平時において相互に情報を交換するとともに、それぞれが実施する防災啓発事業に積極的に協力するものとする。

(協 議)

第10条 この協定の解釈について疑義が生じた場合又はこの協定に定めのない事項については、双方協議のうえ決定するものとする。

(付 則)

1. この協定は、平成10年6月1日から施行する。
2. 「震災等大規模災害時における相互応援に関する協定書」(昭和64年4月1日施行)は廃止する。
この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲、乙記名押印のうえ、各1通を保有する。

平成10年5月26日

東京都千代田区九段南一丁目6番11号

甲 東京都千代田区長 木村 茂

群馬県吾妻郡嬭恋村大字大前110番地

乙 群馬県嬭恋村村長 松本 先

震災等大規模災害時における相互応援に関する協定

東京都千代田区(以下「甲」という。)と秋田県五城目町(以下「乙」という。)とは友好提携を締結する都市として相互協力の精神に基づき、災害時における応急対策及び復旧対策(以下「応急対策等」という。)に係る相互の応援に関し、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲又は乙のいずれかの地域において地震等の大規模災害が発生した場合、被災地独自では十分な応急対策等が実施できない場合に、相互に応援協力することにより、被災地域の応急対策等を円滑かつ迅速に実施することを目的とする。

(応援の要請)

第2条 甲又は乙は、応急対策等に必要な応援の要請は、必要事項を示し連絡担当課を通じて、行うものとする。

(協力)

第3条 甲又は乙は、前条の規定により要請を受けた場合は、その内容に従って可能な限り応援に努めるものとする。

なお、通信手段が途絶し、直接要請することが不可能な場合に、応援を要する状況にあることが判明したときも同様とする。

(応援内容)

第4条 前条に規定する、応援の内容は、次のとおりとする。

- (1) 食糧品、飲料水及び生活必需品の提供
- (2) 被災者の救出、医療、防疫、施設の応急復旧に必要な資機材の提供
- (3) 被災者の受入れのための施設の提供
- (4) 応急対策等に必要な職員の派遣
- (5) 前号に掲げるもののほか、特に要請があった事項

(経費の負担)

第5条 応援に要した経費は、原則として応援を要請した者が負担するものとする。

(応急物資等の輸送)

第6条 応急物資及び応援職員等の輸送は、応援する側が行うものとする。ただし、双方協議により相手方に依頼し又は分担することができる。

(連絡担当課)

第7条 甲及び乙は、あらかじめ相互応援のための連絡担当課を定め、災害が発生したとき又は災害の発生のおそれのある場合は、速やかに情報交換を行うものとする。

(ボランティアへの支援)

第8条 甲及び乙は、個人又は団体から応援の申し出があった場合は、その内容を把握整理し、適切な支援が図れるよう努めるものとする。

(啓発事業への協力)

第9条 甲及び乙は、この協定が災害時に有効に機能するよう、平時において相互に情報を交換するとともに、それぞれが実施する防災啓発事業に積極的に協力するものとする。

(協 議)

第10条 この協定の解釈について疑義が生じた場合又はこの協定に定めのない事項については、双方協議のうえ決定するものとする。

(付 則)

1. この協定は、平成10年6月1日から施行する。
2. 「震災等大規模災害時における相互応援に関する協定書」(平成2年4月1日施行)は廃止する。
この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲、乙記名押印のうえ、各1通を保有する。

平成10年5月26日

東京都千代田区九段南一丁目6番11号
甲 東京都千代田区長 木村 茂

秋田県南秋田郡五城目町西磯ノ目一丁目1番1
乙 秋田県五城目町長 佐藤 邦夫

特別区災害時相互協力及び相互支援に関する協定

(目的)

第1条 この協定は、特別区（以下、「区」という。）の区域において大規模な地震等の災害が発生した場合において、区相互間の協力により応急対策及び復旧対策等の円滑化を図るとともに、災害を受けた区（以下、「被災区」という。）独自では、十分な対策等が実施できない場合において、被災を免れた区あるいは被災の軽微な区であって、被災区の支援が可能な区（以下、「支援区」という。）が、連携して支援体制を構築し、被災区の支援に万全を期すことを目的とする。

(支援対策本部の設置)

第2条 支援区は、被災区への支援が必要であると認められるときは、前条の目的を達成するため、災害発生後直ちに特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）を設置する。

2 本部は、予め区相互で定める方法に従い、支援区のうち一区に設置する。

3 本部に本部長を置き、本部長は、本部設置区の区長とする。

4 本部は、被災区の要請に基づき、又は、被災区からの要請を待っている間は応急対応に支障が出ると予想されるときは自らの判断により、支援区に対して支援活動を要請し、又は支援区及び支援区相互の活動に必要な調整を行う。

5 本部長は、支援区その他関係団体に対し、本部従事職員の派遣を要請し、又は本部の活動に必要な資機材その他の応援を求めることができるものとする。

6 本部の設置、運営その他に関し、必要な事項は別に定める。

(支援各区の体制)

第3条 支援区は、被災区への支援が必要であると認められるときは、災害発生後直ちに支援体制を整えるとともに、原則として、本部の要請に従い、支援活動を行うものとする。

2 本部と支援区は相互に情報連絡を密にするものとする。

3 支援区は、前2項のほか、本部の活動に協力するものとする。

(支援の要請)

第4条 この協定に基づき、本部が行った支援活動及び本部の要請に基づき行った支援区の支援活動は、被災区の支援要請に基づき行われたものとする。

第4条の2 隣接区等において、本部の要請等がある前に支援を開始する場合は、支援区の本部への報告をもって、被災区の支援要請に基づき行われたものとする。

(相互協力及び相互支援の内容)

第5条 この協定に基づく相互協力及び相互支援の内容は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) 職員の派遣及び被災区における応援職員の受入れ支援に関する次の事項

イ 被災区への応援職員の派遣

ロ 支援区又は他の地方公共団体等の応援職員の宿舍、食料等の提供

ハ その他応援職員に関し、被災区の負担を軽減するために必要な事項

(2) 救援物資の提供及び被災区における救援物資の受入れ支援に関する次の事項

イ 被災区への救援物資の提供

ロ 支援区又は他の地方公共団体等からの救援物資の集積場所等の提供

ハ その他救援物資に関し、被災区の負担を軽減するために必要な事項

(3) 避難場所を共用する区間における共同の現地本部の設置その他避難場所の運営協力上必要な事項

- (4) 被災区におけるボランティアの受入れ支援に関する次の事項
 - イ 被災区へのボランティアの斡旋
 - ロ 支援区におけるボランティアへの情報提供、募集、受付、宿舎の提供
 - ハ その他ボランティアに関し、被災区の支援に必要な事項
- (5) 被災住民の受入れに関し、施設の提供その他被災区の支援に必要な事項
- (6) 動物の保護に関し、職員、資機材、物資等の被災区への派遣、提供その他の区間協力、区間支援に必要な事項
- (7) 被災区への医療救護班の派遣その他医療救護活動に関し、被災区内での支援及び被災区の負担を軽減するために必要な事項
- (8) ごみ、し尿、がれきの処理に関し、職員、資機材、物資等の被災区への派遣、提供その他区間協力、区間支援に必要な事項
- (9) 災害時要援護者の救援支援に関する次の事項
 - イ 被災区への専門職員等の派遣
 - ロ 支援区での二次避難場所の提供等災害時要援護者の受入れ
 - ハ その他災害時要援護者の救援に関し、被災区内での支援及び被災区の負担を軽減するために必要な事項
- (10) 遺体の搬送、埋葬等に関し、職員、物資等の被災区への派遣、提供その他の区間協力、区間支援に必要な事項
- (11) 道路の早期復旧に関し、職員、資機材等の派遣、提供その他の被災区内での支援及び被災区の負担を軽減するために必要な事項
- (12) 応急危険度判定、り災証明発行にかかる建物被害認定調査及びり災証明発行に関し、職員、資機材等の派遣、提供その他の被災区の支援に必要な事項
- (13) 仮設住宅の提供に関する次の事項
 - イ 被災区への職員、物資等の派遣、提供
 - ロ 支援区での仮設住宅建設用地の確保
 - ハ その他仮設住宅の提供に関し、区間協力、区間支援に必要な事項
- (14) 帰宅困難者への対応に関し、情報提供、一時滞在施設への受入れ、物資提供その他の区間協力、区間支援に必要な事項
- (15) 児童・生徒の受入れ、応急教育の実施に関し、必要な事項
- (16) 被災区の被災区外での業務継続に関し、施設の提供、その他被災区の支援に必要な事項
- (17) 前各号に定めるもののほか、被災区から要請があった事項

(支援経費の負担)

第6条 支援区の支援に要した経費は、原則として支援を受けた被災区の負担とする。

2 支援を受けた区が、前項に定める経費を支弁するいとまがなく、かつ、支援を受けた区から要請があった場合には、支援する区は当該費用を一時繰替支弁するものとする。

3 被災区間の経費の割り振り又は被災区に費用負担を求められない特別の事情がある場合の措置その他については、本部が調整する。

(連絡担当部署)

第7条 各区は、防災担当課をこの協定に基づく相互協力、相互支援に関する連絡担当部署とする。

(平常時の措置)

第8条 各区は、この協定が災害時において有効に機能するよう、平常時において、区相互の情報交換、防災訓練の実施、災害時における対策に関する調査研究その他に努めるものとする。

8 相互応援

(実施細目の作成)

第9条 この協定の円滑な実施を図るため、区間の協議により実施細目を定めるものとする。

(協定内容等の見直し)

第10条 各区は、この協定の内容及び前条に定める実施細目の内容については、毎年度見直しを行い、常に実践的な内容を持たせるよう必要な修正を行うものとする。

(その他)

第11条 この協定の実施に関し必要な事項及び協定に定めのない事項は、区が協議して定める。

附則

- 1 この協定は、平成26年4月1日から適用する。
- 2 平成8年2月16日締結の特別区災害時相互協力及び相互支援に関する協定書及び実施細目は廃止する。
- 3 この協定の締結を証するため、本協定書を23通作成し、各区長は記名押印のうえ、各1通を保有する。

平成26年3月14日

千代田区長	石川 雅己	新宿区長	中山 弘子
中央区長	矢田 美英	文京区長	成澤 廣修
港区長	武井 雅昭	台東区長	吉住 弘
墨田区長	山崎 昇	豊島区長	高野 之夫
江東区長	山崎 孝明	北区長	花川 與惣太
品川区長	濱野 健	荒川区長	西川 太一郎
目黒区長	青木 英二	板橋区長	坂本 健
大田区長	松原 忠義	練馬区長 職務代理者 副区長	琴尾 隆明
世田谷区長	保坂 展人	足立区長	近藤 弥生
渋谷区長	桑原 敏武	葛飾区長	青木 克徳
中野区長	田中 大輔	江戸川区長	多田 正見
杉並区長	田中 良		

特別区支援対策本部の設置等に関する実施細目 (協定第2条・3条・4条関係)

1 本部の設置

特別区において大規模な地震等の災害が発生した場合、発災後直ちに被災を免れた区あるいは被災の軽微な区（以下、「支援区」という。）のうち一区に「特別区支援対策本部」（以下、「本部」という。）を設置し（以下、本部が設置された区を「本部設置区」という。）、支援区は相互に協力して被災区の支援にあたることとする。

2 本部設置区の決定

発災時に本部設置区を決定する場合、迅速に支援体制を確立するため、支援区間で協議することなく、以下に定める順位に従って、支援区のうち一区を本部設置区とする。

(1) 本部設置区は次の順位に従って決定する。

- ① 第1順位 区長会会長区
- ② 第2順位 区長会副会長区のうち、23区行政順位が先の区
- ③ 第3順位 区長会副会長区のうち、23区行政順位が後の区

(2) 支援区の中に第1順位から第3順位までの該当区がなかった場合は、次の順により本部設置区を決定する。

- ① 支援区の中から、区長会幹事区で、行政ブロック順が先の区を本部設置区とする。
- ② ①による該当区がなかった場合は、支援区の中から、行政順が先の区を本部設置区とする。

3 本部設置区の変更

(1) 本部設置区となった区が2次災害の発生等の事情により本部としての機能を果たせなくなった場合は、支援区の中の直近後順位の区にその旨を通知することとし、この通知をもって当該後順位の区を本部設置区とする。

(2) 本部設置区が本部機能を果たせなくなったと判断できる場合は、本部設置区からの連絡を待たずに、支援区の中の直近後順位の区を本部設置区とする。

(3) 本部機能を果たせなくなったと判断される場合とは、以下の場合である。

- ① 本部設置区において2次災害が発生し、支援区と本部設置区との連絡手段が途絶えた場合
- ② ①に準ずる状況で、本部設置区が被災したことが明らかな場合

4 被災区及び支援区等への連絡

本部設置区となった区は、その旨を各区ならびに東京都等の関係団体に連絡する。

5 本部の組織及び運営

(1) 本部には本部長を置くこととし、本部長は、本部設置区の区長とする。

(2) 本部長は、本部設置区の職員を本部従事職員に指定し、本部の運営にあたらせる。

(3) 本部長は、本部の運営に必要な場合、支援区その他の関係団体に対し、応援職員の派遣を要請することができる。

(4) (3)の要請を受けた区は、速やかに応援職員を本部設置区に派遣することとし、本部派遣に要する費用は、派遣する支援区の負担とする。

6 被災区からの支援要請

被災区からの支援要請は、文書をもって行うものとする。ただし、緊急やむを得ない場合は、電話その他の手段で要請し、後日文書で提出する。

8 相互応援

7 本部の役割と支援区の協力体制

- (1) 本部は、被災区への支援活動が円滑、効果的に行われるよう、協定第5条に基づく支援活動に関する連絡調整を行う。
- (2) 本部は、各支援区が支援活動を行うにあたり、被災区に負担を掛けない、効率的、効果的な支援活動が展開できるよう、必要に応じて各支援区に支援活動に関する要請を行うことができる。
- (3) 各支援区は本部の要請に従って、一体となって被災区の支援にあたることとする。

8 支援対策会議

本部は、以下の事項について、支援活動等に関して各区に協議する必要がある場合、被災区ならびに支援区による支援対策会議を招集することができる。

- (1) 国、都、他の地方公共団体等との調整が必要で、各区に協議する必要がある場合
- (2) 支援経費の負担等、経費負担に関する協議が必要な場合
- (3) 本部を解散する場合
- (4) その他協議が必要な場合

9 本部の解散

本部は、8の(3)の決定により解散する。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

職員の区間相互支援及び被災区における応援職員の受入れ支援 に関する実施細目 (協定第5条第1号関係)

- 1 被災区への応援職員の派遣
 - ① 被災区は応援職員の派遣が必要な場合、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）若しくは連絡可能な区に速やかに派遣要請を行うこととし、被災区から応援職員の派遣要請を受けた区は、速やかにその旨を本部に連絡することとする。
 - ② 本部は、被災区からの要請を受けた場合、早急に応援職員の派遣について支援区間の調整を行い、各支援区に職員の派遣を要請する。
 - ③ 本部は、被災区からの要請を待たずに、応援職員の派遣先・規模等を調整し、各支援区に応援職員の派遣を要請することができる。
 - ④ 各支援区は、本部から応援職員の派遣について要請を受けた場合、速やかに応援職員を派遣することとし、派遣先、規模等についても本部の要請にできる限りこたえるよう努める。
- 2 支援区又は他の地方公共団体等の応援職員の宿舎、食料等の提供
 - ① 各支援区が応援職員を派遣する場合は、原則として、職員宿舎、食料等支援活動に必要な設備、装備等は支援区で用意し、被災区に負担をかけることがないように努める。
 - ② 支援区又は他の地方公共団体等の応援職員の宿舎、食料等の提供については、被災区近隣の支援区が中心となって、支援区相互が協力して対応することとする。
 - ③ 宿舎、食料等の提供に関して必要がある場合は、本部において支援区間の連絡調整を行うこととする。
- 3 その他応援職員に関し、被災区の負担を軽減するために必要な事項

発災直後に各区が応援職員を自主的に緊急派遣する場合においても、原則として、応援職員は自らの食料・飲料水・野営用具等を装備の上被災地に向かうこととする。

（附則）

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

救援物資の区間相互支援及び被災区における救援物資 の受入れ支援に関する実施細目 (協定第5条第2号関係)

- 1 被災区は、特別支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、救援物資の品目、数量、搬入場所などを極力明確にしたうえで、救援物資の提供を要請することができる。
 なお、被災区は、被災区内に搬入場所を確保することが困難な場合には、本部に対して、支援区内において搬入場所を確保するよう要請することができる。
- 2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、自らの人員及び運送車両をもって、指定された搬入場所まで救援物資を搬入するものとする。
- 3 支援区は、物資搬入後も、搬入場所における仕分作業や運送作業等についても支援するものとする。

（附則）

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

避難場所を共用する区間における共同の現地本部の設置その他避難場所の運営協力上必要な事項に関する実施細目 (協定第5条第3号関係)

- 1 避難場所を共用する区（以下、「関係区」という。）は、共同で現地本部（以下、「現地共同本部」という。）を設置して避難場所の運営を行うものとする。
- 2 関係区の災害対策本部は、次の場合、相互に連絡のうえ、現地共同本部を設置し派遣人数を通報する。
 - (1) 避難勧告を発令した場合
 - (2) その他、関係区の災害対策本部が必要と認めた場合
- 3 現地共同本部の統轄は、当該避難場所の所在区がこれを行う。
なお、避難場所が複数の区にまたがる場合は、関係区間で事前に協議して定める。
- 4 現地共同本部の業務は、次のとおりとする。
 - (1) 避難場所の状況にかかる次の情報を収集し、災害対策本部に連絡すること。
 - ①避難者数
 - ②傷病者、乳幼児等緊急に支援が必要な者の数及び状況
 - ③その他緊急に対応する必要がある事項
 - (2) 災害対策本部からの情報に基づき、避難者に対して次の情報提供を行うこと。
なお、情報の提供にあたっては、関係区が有する手段を共同で利用して、相互に連携・協力して行う。
 - ①避難場所周辺の被災の状況
 - ②避難場所に関する情報
 - ③交通機関の状況
 - ④その他被災者に必要な情報
 - (3) 避難場所の避難者に対する応急救護を行うこと。
 - (4) その他、避難場所において給食・給水等を行う必要があるときは、関係区は共同で必要な処置をとる。
- 5 避難場所の運営に関して経費の負担が生じたときは、当該関係区間で協議する。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

被災区におけるボランティアの受入れ支援に関する実施細目 (協定第5条第4号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、必要とするボランティアの種類、人数、活動場所などを極力明確にしたうえで、ボランティアの斡旋を要請することができる。）
- 2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、ボランティア希望者に対して、ボランティア関連情報の提供、相談、募集及び受付業務を実施するとともに、被災区におけるボランティア活動に従事することを要請するものとする。
- 3 支援区は、ボランティアに対し、活動拠点の確保等支援体制の整備に努めるものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

被災住民の受入れに関する実施細目 (協定第5条第5号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、被災区外での避難生活が必要な被災住民の人数、健康等の状態、受入希望施設などを極力明確にしたうえで、支援区への受入を要請することができる。
- 2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、被災区外での避難生活が必要な被災住民の状況に応じて、受入施設及び移送手段を確保するとともに、被災住民に対する支援を行う。
なお、支援区は、被災区において福祉措置等を受けていた被災住民が避難した支援区で引き続き措置等を受ける場合には、被災区の措置基準に準じた措置等を行うものとする。
- 3 本項は、ペットの同行避難にも配慮するものであり、支援区は、支援を行う。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

動物の保護に関する実施細目 (協定第5条第6号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に動物の保護・収容に必要な食料、資機材の救援物資の品目、数量、搬入場所等を極力明確にしたうえで、要請することができる。
- 2 支援区は、本部と連携のうえ、若しくは本部の要請に基づき、自らの人員及び運送車両をもって、指定された搬入場所まで救援物資を搬送するものとする。
- 3 支援区は、物資搬入後も、搬入場所における仕分作業や運送作業等についても支援するものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

医療救護活動に関する実施細目 (協定第5条第7号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対し、必要とする医療救護班の内容・班数・救護活動の場所などを極力明確にしたうえで、必要な医療救護班の派遣を要請することができる。
なお、支援区は23区内での被災を知ったときは、支援要請の有無に関わらず、直ちに区内の医療資源（医師・医療品・ベッド等）の把握や医療機材の確保に努めるとともに、医療救護班（保健師等を含む）を編成し、支援体制を整えるものとする。
- 2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、自らの人員及び医療機材・物資・運送車両をもって、指定された場所で医療救護活動を実施するものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

ごみ、し尿、がれきの処理に関する実施細目 (協定第5条第8号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、ごみ、し尿、がれきの処理に要する資機材、物資等の品目、搬入場所などを極力明確にしたうえで、資機材、物資等の提供を要請することができる。
- 2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、自らの人員及び運送車両をもって、指定された搬入場所まで、要請を受けた資機材、物資等を搬送するものとする。
- 3 支援区は、資機材、物資等を搬入場所に搬入後、被災区の要請に基づき、仕分・配送・組立作業等について支援するものとする。
- 4 被災区は、本部に対して、がれきの処理に関する事務に要する職員の人員、期間などを極力明確にしたうえで、職員の派遣を要請することができる。
- 5 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、職員に必要な装備、物資を携行させ、自らの運送車両をもって、指定された場所まで、要請を受けた職員を派遣するものとする。
- 6 支援区から派遣された職員は、派遣の要請内容に基づいて、被災区の指示に従って、がれきの処理に関する事務に従事する。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

災害時要援護者の救援支援に関する実施細目 (協定第5条第9号関係)

1 被災区への専門職員の派遣

(1) 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、災害時要援護者の救援活動に関する専門職員等の派遣を要請することができる。

要請の要領は、次のとおりとする。

- ① 応援を要請する職員の職種と人員数
- ② 応援を必要とする期間
- ③ その他必要な事項

(2) 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、被災区に必要な専門職員等の派遣を行うものとする。

2 支援区での二次避難所の提供

(1) 被災区は、災害時要援護者の避難のため、区の設置した二次避難所では避難者を収容できないとき、あるいは災害の状況、その他の理由で避難者を区外の施設等に移す必要のあるときは、本部に対して、二次避難所の提供を要請することができる。

要請の要領は次のとおりとする。

- ① 災害時要援護者の態様と人員
- ② 開設を希望する施設の種類
- ③ 開設を希望する期間
- ④ 避難者の移送方法
- ⑤ その他必要な事項

(2) 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、自区内に二次避難所を開設し、被災区の避難者を受入れ、災害時要援護者に必要な物資や情報の提供を行い、介護等に必要な要員を配置するものとする。

3 被災区への資機材の提供

(1) 被災区は、災害時要援護者の救援に関し、車椅子、紙おむつ等、必要な物資の支援を要請することができる。

(2) 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、被災区に必要な支援を行うものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

遺体の搬送、埋葬等に関する実施細目 (協定第5条第10号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、遺体の保管に要するドライアイス、棺、その他必要な資機材及び車両を区独自で調達することが困難な場合には、その提供を要請することができる。
この場合、被災区は提供を必要とする資機材の種類、数量及び搬入場所等を極力明確に示すものとする。
- 2 被災区は、遺体の搬送等の人的作業を区独自で処理することが困難な場合には、本部に対して、応援職員を要請することができる。
この場合、被災区は応援を必要とする職員の人数、派遣期間等について、極力明確に示すものとする。
- 3 応援職員を派遣する場合、応援職員の装備及び被災区までの運送車両の手配については、支援区が行うものとする。
- 4 支援区から派遣された職員は、派遣の要請内容に基づき、被災区の指示に従って業務に従事するものとする。
- 5 資機材の輸送に要する車両の手配については、支援区が行うものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

道路の早期復旧に関する実施細目 (協定第5条第11号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、道路の被害状況調査並びに資機材の提供、障害物の除去、仮復旧工事等に関する応援要請をすることができる。
なお、被災区は、可能なかぎり道路の被害状況を把握し、本部に報告するものとする。
- 2 本部は、被災区の要請を待たずに、本部の判断により支援体制を決定することができる。
- 3 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、自らの人員及び資機材をもって、指定された場所で道路復旧活動を実施するものとする。
- 4 支援区は、被災区及び本部に対し、その活動内容を報告するものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

応急危険度判定、り災証明書発行にかかる建物被害認定調査 及びり災証明発行に関する実施細目 (協定第5条第12号関係)

- 1 支援区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）の要請に基づき、速やかに被災区に対し応急危険度判定、災証明書発行にかかる建物被害認定調査及びり災証明の発行（以下「建物の被害調査等」という。）に必要な職員の派遣及び資機材の提供を行う。
- 2 支援区は、被災区及び本部に対し、その活動内容を報告するものとする。
- 3 本部は、支援区の活動内容をとりまとめるとともに、建物の被害調査等に必要な職員及び資機材等が不足する場合は、その確保に努めるものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

仮設住宅の提供に関する実施細目 (協定第5条第13号関係)

- 1 支援区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）の要請に基づき、指定された場所に必要物資等を搬送するほか、応援職員を派遣するものとする。
- 2 被災区は、被災区内に仮設住宅建設用地を確保することが困難なときは、本部に仮設住宅建設用地の提供を要請することができる。
- 3 支援区は、被災区及び本部に対し、その活動内容を報告するものとする。
- 4 本部は、支援区の活動内容をとりまとめるとともに、仮設住宅建設に必要な職員及び資機材等が不足する場合は、その確保に努めるものとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

帰宅困難者対策に関する実施細目 (協定第5条第14号関係)

- 1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、帰宅困難者への情報提供、帰宅困難者の一時滞在施設への受入れ及び水、食料等の提供、帰宅困難者の避難誘導等に必要な協力等、必要な援助を極力明確にしたうえで、職員の派遣、資機材の提供、施設の提供等を要請することができる。
- 2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、対応可能な範囲において、職員の派遣、資機材の提供、施設の提供等、必要な支援を行うものとする。
- 3 その他、区界に存するターミナル駅等に滞留した帰宅困難者による混乱や事故の発生等の危険性がある場合は、関係区が連携及び協力し、必要な措置を講じることとする。

(附則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

児童・生徒の受け入れ、応急教育の実施等に関する実施細目 (協定5条第15号関係)

1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、被災区の児童・生徒の受け入れ、応急教育等に関し、要請することができる。

要請の要領は、次のとおりとする。

- (1) 受け入れを要請する児童・生徒の人数
- (2) 受け入れを必要とする期間
- (3) その他必要な事項

2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、被災区の児童・生徒を受け入れ、教材や文具等の必要な物資や情報の提供を行なうものとする。

(附 則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

被災区の業務継続のための支援区における 施設等の提供に関する実施細目 (協定5条第16号関係)

1 被災区は、特別区支援対策本部（以下、「本部」という。）に対して、被災区外で実施する業務に必要な資機材、応援職員などを極力明確にしたうえで、施設の提供を要請することができる。

2 支援区は、本部と協議のうえ、若しくは本部の要請に基づき、被災区の業務継続のために必要な施設及び資機材等の確保に努めるものとする。

3 被災区の業務への支援区職員の応援に関しては、「職員の区間相互支援及び被災区における応援職員の受入に支援に関する実施細目（第5条第1号関係）」に準ずるものとする。

(附 則)

この実施細目は、平成26年4月1日から適用する。

災害時におけるボランティア活動等に関する協定書

千代田区(以下「甲」という。)と千代田区社会福祉協議会(以下「乙」という。)は、災害時におけるボランティア活動の受入れ等に関し、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、災害時において甲及び乙が協力して行う災害応急対策活動支援のためのボランティア活動等に関し、必要な事項を定める。

(災害ボランティアセンターの設置)

第2条 乙は、災害時の効果的なボランティア活動を推進するため、次の各号のいずれかの場合に、緊急対応のため千代田区社会福祉協議会災害ボランティアセンター(以下「センター」という。)を設置する。

- (1) 東京23区内で、震度5強以上の地震が起きたとき。
- (2) 地震防災対策強化地域判定会が招集されたとき又は警戒宣言が発せられたとき。
- (3) 前各号に掲げる場合のほか、甲がセンターの設置を必要と認め、乙に設置を要請したとき。
- (4) 前各号に掲げる場合のほか、乙がセンターの設置を必要と認めたとき。

(協力・要請・報告)

第3条 甲は、甲のみでは十分な災害応急対策活動を実施することが出来ないと認めるときは、乙に対して必要な協力を求めることが出来る。

- 2 甲と乙は、連携・協力しながらセンターの設置・運営につき必要な業務を実施するよう努めるものとする。
- 3 前条第3号の規定により甲が乙にセンターの設置を要請する場合は、日時、場所、内容を明記して、文書により行う。ただし、緊急時においては、適宜の方法により依頼したうえ、事後において文書によることができる。
- 4 乙は、センターを設置したときは、文書により甲に報告する。

(要請内容等)

第4条 甲が災害応急対策活動を実施する上で、乙に要請する内容は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 災害ボランティアの受け入れ、派遣に関する事
- (2) 避難所運営・維持等に関する業務支援。
- (3) 自宅避難者の生活に関する業務支援。
- (4) その他、災害応急復興対策業務に関する支援。

(乙の義務等)

第5条 乙は災害時、センターをもってボランティアの受け入れ、派遣等を行なう。ただし、区等との協定に基づき、協定機関と連携した具体的活動を行なうことが予め定められている団体等を除く。

- 2 乙は、平常時より災害時に備えたセンター調整機能を整備する。
- 3 甲は、平常時より乙に対して、前項の整備に関する必要な支援を行うものとする。

8 相互応援

(設置場所)

第6条 センターの設置場所は、西神田併設庁舎内とする。ただし、西神田併設庁舎が
り災し、設置場所とすることが困難な場合は、甲がこれに代わる場所を確保するもの
とする。

- 2 甲は、乙が著しい被害を受けた地域にセンターの分室的な機能を持つ現地ボラン
ティアセンターの必要性を認めるときは、乙の要請により拠点を確保することに努
めるものとする。

(関係団体等との協力体制)

第7条 乙は、甲とともに、センターを始め各種ボランティアや地域住民及び消防署等
関係団体との協力体制を確立するため、平常時から相互に協議し、訓練を行い、良好
な関係を維持するものとする。

(資器材等の確保)

第8条 甲と乙は、災害時に必要な資器材並びにボランティア活動に必要な物資及び活
動場所等を確保する。

(費用負担)

第9条 災害時において甲及び乙が協力して行う災害応急・復旧活動等に関し、必要な
費用は甲が負担するものとする。

- 2 乙は当該業務に要した費用を甲に請求するものとする。
- 3 乙は費用の内訳について甲の要求に応じ説明するものとする。

(損害補償)

第10条 災害応急・復旧活動等に関し、ボランティアが被った損害の補償はボランテ
ィア保険によるものとする。

- 2 前項のボランティア保険の加入金については、甲が負担するものとする。

(報告)

第11条 甲は、乙にセンターの運営状況について報告を求めることができる。

(協議)

第12条 この協定に定めのない事項並びにこの協定に関する疑義については、甲乙協
議のうえ決定する。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間は、平成16年1月14日から平成17年3月31日までと
する。

- ただし、期間満了の日の3ヶ月前までに、甲乙に何らの意思表示もないときは、1
年間延期されたものとみなし、以後も同様とする。

上記、協定締結の証として、本協定書を2通作成し甲乙記名捺印のうえ、それぞれ1通
を保管する。

平成 16 年 1 月 14 日

- 甲 千代田区九段南 1-6-11
千代田区長 石 川 雅 己
- 乙 千代田区西神田 1-3-4
社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
会 長 前 田 又 兵 衛

災害時の情報交換に関する協定

国土交通省関東地方整備局（以下「甲」という。）と、千代田区（以下「乙」という。）とは、災害時における各種情報の交換等に関し、次のとおり協定する。

（目的）

第1条 この協定は、千代田区の地域で災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、甲及び乙が必要とする各種情報の交換等（以下「情報交換」という。）について定め、もって、適切迅速かつ的確な災害対処に資することを目的とする。

（情報交換の開始時期）

第2条 甲及び乙の情報交換の開始時期は、次のとおりとする。

- (1) 千代田区内で重大な被害が発生し、又は発生するおそれがある場合
- (2) 乙の災害対策本部が設置された場合
- (3) その他甲又は乙が必要とする場合

（情報交換の内容）

第3条 甲及び乙の情報交換の内容は、次のとおりとする。

- (1) 一般被害状況に関すること。
- (2) 公共土木施設（道路、河川、ダム、砂防、都市施設等）の被害状況に関すること。
- (3) その他甲又は乙が必要とする事項

（情報連絡員の派遣）

第4条 第2条各号のいずれかに該当し、乙の要請があった場合又は甲が必要と判断した場合には、甲から乙の災害対策本部等に情報連絡員を派遣し情報交換を行うものとする。

2 甲及び乙は、相互の連絡窓口を明確にしておき、前項の規定による派遣に関して事前に調整を図るものとする。

（平素の協力）

第5条 甲及び乙は、必要に応じ情報交換に関する防災訓練及び防災に関する地図等の資料の整備に協力するものとする。

（協議）

第6条 本協定に疑義が生じたとき、又は本協定に定めのない事項については、その都度、甲乙協議のうえ、これを定めるものとする。

本協定は、2通作成し、甲乙押印のうえ各1通を所有する。

平成 25年 7月 31日

甲) 埼玉県さいたま市中央区新都心2番地1
さいたま新都心合同庁舎2号館
国土交通省
関東地方整備局長 森 北 佳 昭

乙) 東京都千代田区九段南一丁目2番1号
千代田区
区長 石 川 雅 己

様式編

非常配備態勢別動員表

(行政組織名) 部

災 対 組織名	課 名	所 属 職 員 数	第1非常配備 態勢 (人)	第2非常配備 態勢 (人)	第3非常配備 態勢 (人)	備 考
部	課					
	課					
	課					
	課					
	課					
	課					
	合 計					

- (注) 1 所属職員数は、本部組織に対応する通常の行政組織に所属する総職員数を記入すること。
 2 女子職員は、カッコ内書とすること。
 3 部長、課長も含めること。
 4 区長（本部長）、副区長、教育長（副本部長）は含めない。

本部連絡員報告

(行政組織名)

部

通常の行政組織 における職名	本部組織に おける職名	氏 名	電 話		住 所
			勤務場所	自 宅	

- (注) 1 自宅に電話がない場合は、必ず呼び出し電話を記入すること。
 2 各人ごとに自宅付近の案内図を添付すること。
 3 携帯電話を所有する人は、自宅欄に記入すること。

様式編（被害調査）

水防実施状況報告書

平成 年 月 日

東京都知事殿

水防管理者



気 象 名									
水防実施箇所	川 左 岸 地先 m 右								
日 時	自 月 日 時			至 月 日 時					
出 勤	職 員			その他			合 計		
人 員	人			人			人		
水防作業の概況及び工法	箇所 m 工法								
水防の結果		堤防	田	畑	家	鉄道	道路	人口	その他
	効果	m	m ²	m ²	戸	m	m	人	
	被害	m	m ²	m ²	戸	m	m	人	
使用資器材	品 名		数 量			居住者の出動状況			
						水防関係者の死傷			
						雨量水位の状況			
備考									

- (注) 1 この報告書は水防箇所毎に作成し、場合によっては図面を添付すること。
 2 水防作業終了後3日以内に事務所を経由し、建設局河川部防災課に提出すること。
 3 俵、かます、布袋類、たたみ、むしろ、なわ、竹、生木、丸太、杭、板類、鉄線、釘、かすがい、蛇籠、置石、及び土砂を使用したときは、各々の数量、単価、金額を明記すること。

公用負担命令票

住 所

氏 名

第 号

負担者

物 件	数 量	負担内容（使用、収用、処分等）	期 間	摘 要

災害対策基本法第 64 条 }
 水 防 法 第 21 条 }

の規定により上記物件を収用（使用又は処分）する。

処分権者 氏 名



公用負担権限委任証明書

第 号 所属・役職 氏 名

上の者に下記の権限を委任したことを証明する。

権限

地区における 災害対策基本法第 64 条 } に定める権限
水 防 法 第 2 1 条 }

水防管理者
(千代田区長) 氏 名 印

災害記録用紙

に伴う防災収集及び対応経過概要

防災機関からの情報及び対応				区の対応	
情報		対応		日付 及び 時間	内 容
日付及 び時間	機関名及び内容	日付及 び時間	機関名及び内容		

り災台帳

平成 年 月 日

No.

受付 月日	住 所	世帯主氏名 事業所・代表者名	人数	被 害 の 状 況			事 業 所 の 形 態		備 考	
				1 住 家 2 事業所	1 床上浸水 (cm) 2 床下浸水 (cm)	3 全壊 4 大規模半壊 5 半壊 6 その他	1 事務所 2 倉庫	3 店舗 4 工場 5 その他		
				1 住 家 2 事業所	1 床上浸水 (cm) 2 床下浸水 (cm)	3 全壊 4 大規模半壊 5 半壊 6 その他	1 事務所 2 倉庫	3 店舗 4 工場 5 その他		
				1 住 家 2 事業所	1 床上浸水 (cm) 2 床下浸水 (cm)	3 全壊 4 大規模半壊 5 半壊 6 その他	1 事務所 2 倉庫	3 店舗 4 工場 5 その他		
				1 住 家 2 事業所	1 床上浸水 (cm) 2 床下浸水 (cm)	3 全壊 4 大規模半壊 5 半壊 6 その他	1 事務所 2 倉庫	3 店舗 4 工場 5 その他		
				1 住 家 2 事業所	1 床上浸水 (cm) 2 床下浸水 (cm)	3 全壊 4 大規模半壊 5 半壊 6 その他	1 事務所 2 倉庫	3 店舗 4 工場 5 その他		
				1 住 家 2 事業所	1 床上浸水 (cm) 2 床下浸水 (cm)	3 全壊 4 大規模半壊 5 半壊 6 その他	1 事務所 2 倉庫	3 店舗 4 工場 5 その他		

り災証明申請書

千代田区長 殿

平成 年 月 日

【個人・事業所両用】

申請者	住所	千代田区 丁目 番 号		
	氏名	電話		
事業所	住所	千代田区 丁目 番 号		
	事業所名	電話		
証明書の提出先				
申請通数	個人	通	事業所	通
目的				

所・課長	係長	係員

り災証明書

証第 号

世帯主	千代田区 丁目 番 号			
	氏名 世帯人員 名			
事業所	千代田区 丁目 番 号			
	事業所名 代表者名			
り 災 状 況	災害の原因	(1) 風水害（台風 号） (2) 震火災 (3) その他		
	り災年月日	平成 年 月 日		
	り災場所	千代田区 丁目 番 号		
	家屋の種類	1 住家	(1) 全壊（焼）	(5) 床上浸水（ c m）
		2 事業所	(2) 流失	(6) 床下浸水（ c m）
			(3) 大規模半壊（焼）	(7) その他（ ）
			(4) 半壊（焼）	
事業所の形態	(1)事務所	(2)店舗	(3)倉庫	
	(4)工場	(5)地下室	(6)その他	
人的被害	(1)死亡 名	(2)行方不明 名		
	(3)負傷 名			
世帯人員	氏 名	続 柄	年 齢	
		本 人		
摘 要				
<p>上記のとおり、り災したことを証明します。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>千代田区長 印</p>				

災害見舞金受領書

¥ _____

上記金額を千代田区の災害見舞金として受領しました。

千代田区長 殿

平成 年 月 日

住 所 千代田区

氏 名

㊞

費用弁償等請求書

平成 年 月 日から平成 年 月 日までにおける 災害・訓練 時医療救護活動に係る費用弁償等を、下記のとおり請求します。

記

金 円

	職 種	延人員数	単 価	金 額	備 考
医療救護班 実費弁償					延 班 詳細は別紙のとおり
小 計	—		—		
薬品・衛生材料 実費弁償	—	—	—		詳細は別紙のとおり
施設・設備 実費弁償	—	—	—		詳細は別紙のとおり
計	—	—	—		

平成 年 月 日

千代田区長 殿

㊟

医療救護班活動報告・医療救護班員名簿

地 区 医師会名	医療救護班 責任者名	氏 名	職 種	救護活動場所	救護活動期間	救護実績				
						死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
計	_____	_____	_____	_____	_____					

202

医療救護診療記録

地 区 医師会名	医療救護班 責任者名	番号	氏 名	性別	年齢	住 所	傷病名	程度	処置概要	備 考
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		

(注)備考欄には、死亡又は転送先等を記入すること。

薬品・衛生材料使用報告書

地 区 医師会名	医療救護班 責任者名	品 名	使 用 量		薬価基準の購入価格		備 考
			単 位	数 量	単 価	金 額	
計	_____	_____	_____		_____		_____

事 故 報 告 書

平成 年 月 日から平成 年 月 日までにおける 災害・訓練 時医療救護活動において、別紙のとおり事故傷病者が発生したので報告します。

平成 年 月 日

千代田区長 殿

㊟

事故傷病者概要

氏名		性別	男・女	年齢	才	住所	
職業		所属医療機関・団体名					
傷病名		程度	重症・中等症・軽症		転帰		
外来・入院（ 月 日）		診療（入院）医療機関名					
受傷（発病）日時	年 月 日 午前・午後 時 分						
受傷（発病）場所							
受傷（発病）時の状況							

物件損傷等報告書

医療施設名 及び所在地	物 件 名	損傷の 種 類	損傷の 程 度	数 量	単 価	金 額	備 考
計	_____	_____	_____		_____		

(注) 1. 医療施設ごとに記入のこと。2. 物件名欄は、建造物、医療機械、器具及び自動車等を記入のこと。3. 損傷の種類欄は、破壊、破損、汚染及び紛失等を記入のこと。4. 損傷の程度欄は、全壊、半壊、使用不能等具体的に記入のこと。5. 備考欄は、損傷等の原因その他参考事項を記入のこと。

費用弁償等請求書

平成 年 月 日から平成 年 月 日までにおける 災害・訓練 時歯科医療救護活動に係る費用弁償等を、下記のとおり請求します。

記

金 円

	職 種	延人員数	単 価	金 額	備 考
歯科医療救護班 実 費 弁 償					延 班 詳細は別紙のとおり
	小 計	—		—	
薬品・衛生材料 実 費 弁 償	—	—	—		詳細は別紙のとおり
施設・設備 実 費 弁 償	—	—	—		詳細は別紙のとおり
計	—	—	—		

平成 年 月 日

千代田区長 殿

㊟

歯科医療救護班活動報告・歯科医療救護班員名簿

地区歯科 医師会名	歯科医療班 責任者名	氏 名	職種	救護活動場所	救護活動期間	救 護 実 績				
						死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
計	———	———	———	———	———					

歯科医療救護診療記録

地区歯科 医師会名	歯科医療班 責任者名	番号	氏名	性別	年齢	住所	傷病名	程度	処置概要	備考
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		
				男 女				重中軽		

(注) 備考欄には、死亡又は転送先等を記入すること。

薬品・衛生材料使用報告書

地区歯科 医師会名	歯科医療班 責任者名	品 名	使 用 量		薬価基準の購入価格		備 考
			単 位	数 量	単 価	金 額	
計	_____	_____	_____		_____		

事 故 報 告 書

平成 年 月 日から平成 年 月 日までにおける 災害・訓練 時歯科医療救護
活動において、別紙のとおり事故傷病者が発生したので報告します。

平成 年 月 日

千代田区長 殿



事故傷病者概要

氏名		性別	男・女	年齢	才	住所	
職業		所属医療機関・団体名					
傷病名			程度	重症・中等症・軽症	転帰		
外来・入院（		月	日）	診療（入院）医療機関名			
受傷（発病）日時	年 月 日 午前・午後 時 分						
受傷（発病）場所							
受傷（発病）時の状況							

物件損傷等報告書

歯科医療施設名 及び所在地	物 件 名	損傷の 種 類	損傷の 程 度	数 量	単 価	金 額	備 考
計	_____	_____	_____		_____		

(注) 1. 歯科医療施設ごとに記入のこと。2. 物件名欄は、建造物、医療機械、器具及び自動車等を記入のこと。3. 損傷の種類欄は、破壊、破損、汚染及び紛失等を記入のこと。4. 損傷の程度欄は、全壊、半壊、使用不能等具体的に記入のこと。5. 備考欄は、損傷等の原因その他参考事項を記入のこと。

応急医薬品等供給要請書

「災害時における応急医薬品等の優先供給及び医療救護活動に関する協定書」第2条に基づき、応急医薬品等の供給を、下記のとおり要請します。

記

1 品名及び数量

2 納入年月日 平成 年 月 日

3 納入場所 千代田区 町 丁目 番 号

平成 年 月 日

薬剤師会

会長 殿

千代田区長 

所属 部 課(所)

受取確認

氏名 

応急医薬品等供給に係る請求書

「災害時における応急医薬品等の優先供給及び医療救護活動に関する協定書」第9条に基づき、
平成 年 月 日から平成 年 月 日までに供給した応急医薬品等の代金を、
下記のとおり請求します。

記

金 円也

内訳(品名及び数量)

1

2

3

平成 年 月 日

千代田区長 殿

薬剤師会

会長



費用弁償等請求書

平成 年 月 日から平成 年 月 日までにおける 災害・訓練 時医療救護活動に係る費用弁償等を、下記のとおり請求します。

記

金 _____ 円

	職 種	延人員数	単 価	金 額	備 考
医療救護班 実費弁償					延 班 詳細は別紙のとおり
小 計	—		—		
薬品・衛生材料 実費弁償	—	—	—		詳細は別紙のとおり
施設・設備 実費弁償	—	—	—		詳細は別紙のとおり
計	—	—	—		

平成 年 月 日

千代田区長 殿

㊟

薬剤師活動報告・薬剤師名簿

地区薬剤師会名	医療救護班責任者名	氏名	職種	救護活動場所	救護活動期間	救護実績				
						死亡	重症	中等症	軽症	計
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
					月 日 午前・午後 時 分 から 月 日 午前・午後 時 分 まで					
計	———	———	——	———	———					

医薬品等使用報告書

地区薬剤師会名	医療救護班責任者名	品名	使用量		薬価基準の購入価格		備考
			単位	数量	単価	金額	
計	_____	_____	_____		_____		

事 故 報 告 書

平成 年 月 日から平成 年 月 日までにおける 災害・訓練 時応急医薬品等の
優先供給及び医療救護活動において、別紙のとおり事故傷病者が発生したので報告します。

平成 年 月 日

千代田区長 殿



事故傷病者概要

氏名		性別	男・女	年齢	才	住所	
職業		所属医療機関・団体名					
傷病名		程度	重症・中等症・軽症		転帰		
外来・入院（	月	日）	診療（入院）医療機関名				
受傷（発病）日時	年	月	日	午前・午後	時	分	
受傷（発病）場所							
受傷（発病）時の状況							

応急対策業務要請書

平成 年 月 日

殿

千代田区長

「災害時における柔道接骨師会の協力に関する協定書」第 3 条に基づき、下記のとおり協力を要請します。

記

要 請 の 理 由	
業 務 内 容	
日 時	年 月 日 時から 年 月 日 時まで
場 所	
そ の 他	

衛生材料等使用請求書

平成 年 月 日

千代田区長 殿

代表者 _____

「災害時における柔道接骨師会の協力に関する協定書」第 7 条に基づき、平成 年 月 日から平成 年 月 日までに提供した衛生材料等に関わる費用を、下記のとおり請求いたします。

記

金 _____ 円也

内訳

品 名	数 量	単 位	単 価	金 額

応急対策活動報告書

平成 年 月 日

従事者	活動場所	活動期間	活動実績
		月 日 時から 月 日 時まで	
		月 日 時から 月 日 時まで	
		月 日 時から 月 日 時まで	
		月 日 時から 月 日 時まで	
		月 日 時から 月 日 時まで	
		月 日 時から 月 日 時まで	

様式 1

平成 年 月 日

提 供
供 給 要 請 書

東京都 支部
支部長 殿

千代田区長

「災害時における
第 条に基づき、

」
の 提 供 を、下記のとおり要請します。
供 給

記

1 品名及び数量

2 納入(出動)年月日 平成 年 月 日

3 納入(出動)場所千代田区 町 丁目 番 号

受取確認

所属 部 課(所)

氏名

㊟

平成 年 月 日

提 供 給
に 係 る 請 求 書

千代田区長 殿

東京都 支部

支部長



「災害時における
第 条に基づき、平成 年 月 日から平成 年 月 日までに
提供 した
供給 の代金を下記により請求します。」

記

金 円也

内訳

1

2

3

地域防災組織結成報告書

組 織 の 名 称		
(町会・自治会名)		
結 成 年 月 日		年 月 日結成
代 表 者	住 所	
	氏 名	
	電 話	
事 務 所 (事 務 局)	所 在 地	
	連 絡 責 任 者 (組織の役職名)	
	電 話	
組 織 の 規 模 等		加 入 世 帯 () 世帯 非加入世帯 () 世帯 加入事務所 () 事業所 加 入 人 員 () 名

○添付書類

- (1) 役員名簿（役職名、氏名、電話）
- (2) 規 約
- (3) 組織編成図（機構、配置人員）
- (4) 組織区域図

地域防災組織を結成したので、上記のとおり報告します。

年 月 日

千代田区長 殿

組織名
代表者（住所）

(氏名)



防災資器材助成申請書

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

代表者 住所

氏名

㊦

電話

下記のとおり防災資器材の助成を申請します。

番（記）号	品名	数量

防災資器材助成受領書

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

代表者 住所

氏名

㊟

電話

下記のとおり防災資器材の助成を受領しました。

番（記）号	品名	数量

防災資器材第二次装備助成申請書

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

代表者 住所

氏名



電話

下記のとおり防災資器材の助成を申請いたします。

品名	数量	予定単価	予定金額
合計		—————	

防災資器材第二次装備助成受領書

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

代表者 住所

氏名

㊦

電話

下記のとおり防災資器材の助成を受領しました。

品 名	数 量	備 考

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

代表者 住所 千代田区

氏名

防災資器材整備事業計画書兼収支計画書

1 事業目的

この事業の目的は、町会防災部の自主防災体制の充実と行動力強化を図ることを目的とする。

2 事業内容

(1) 品名及び数量

(2) 実施期間

平成 年 月 日～平成 年 月 日

(3) 所要経費概算

円

内訳 区補助金

町会費

様式編（地域防災組織）

3 収支計画

(1) 収 入 _____ 円

内 容	金 額
区 補 助 金	
町 会 費	
計	

(2) 支 出 _____ 円

品 名	数 量	単 価	金 額
計		_____	

○千総防収第 号
平成 年 月 日

組織名

代表者名

殿

千代田区長

平成 年度補助金交付決定通知書

平成 年 月 日付で申請のあった 町会防災部の防災資器材整備事業について、平成 年度補助金を下記により交付することに決定したので、千代田区地域防災組織に対する補助金交付要綱第5条の規定により通知する。

記

1 補助金額 金 _____ 円

2 補助事業の内容

町会防災部が、地震、水害等の災害時に備え、予防及び応急対策等の自主防災体制の充実と強化を目的として実施する防災資器材整備事業

3 補助金交付方法

東京都千代田区会計事務規則(昭和39年千代田区規則第3号)の定めるところによる。

4 補助金交付条件

この補助金は、次の事項を条件として交付するものである。

(1) 承認事項

次のアからウまでのいずれかに該当する場合は、あらかじめ区長の承認を受けなければならない。

但し、ア及びイに掲げる事項のうち軽微なものについてはこの限りではない。

ア 補助事業に要する経費の配分を変更しようとするとき。

イ 補助事業の内容を変更しようとするとき。

ウ 補助事業を中止し、又は廃止しようとするとき。

(2) 実績報告

補助事業が完了したとき、又はこの補助金の交付決定に係わる会計年度が終了したときは、次に掲げる事項を記載した実績報告書を提出しなければならない。(1)のウの項により廃止の承認を受けた場合も同様とする。

ア 補助事業の成果

イ 補助金に係わる収支計算に関する事項

ウ その他必要と認める事項

様式編（地域防災組織）

(3) 是正のための措置

(2)により実績報告を受けた場合、それを審査し、また、必要に応じて調査を行い、その報告に係わる補助事業の成果が補助金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合していないと認めるときは、これに適合させるための措置を講ずることがある。

(4) 決定の取り消し

アからウまでのいずれかに該当した場合は、補助金の交付決定の全部又は一部を取り消すことがある。

ア 偽りその他不正の手段により補助金の交付を受けたとき。

イ 補助金を他の用途に使用したとき。

ウ 補助金の交付決定の内容及びこれに付した条件その他法令に違反したとき。

(5) 補助金の返還

補助金の交付を取り消した場合において、補助事業の当該取り消しに係わる部分に関し、すでに補助金が交付されているときは区長の指示するところにより、取り消された補助金の額を返還しなければならない。

(6) 違約加算金

(5)により補助金の交付決定の全部又は一部を取り消され、その返還を命じられたときは、その命令に係わる補助金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、当該補助金の額(その一部を納付した場合におけるその後の期間については既納額を控除した額)につき年 10.95%の割合で計算した違約加算金(100 円未満の場合を除く。)を納付しなければならない。

(7) 延滞金

補助金の返還を命じられた場合において、区長の指示した納付日までに納付しなかったときは、納付日の翌日から納付の日までの日数に応じ、その未納額につき年 10.95%の割合で計算した延滞金(100 円未満の場合を除く。)を納付しなければならない。

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

住所

代表者

氏名



平成 年度補助事業実績報告書

平成 年度 町会防災部防災資器材整備事業の実施成果等について、千代田区地域防災組織に対する補助金交付要綱第7条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 補助事業の成果に関すること
別紙のとおり
2. 補助金に係る収支計算に関すること
別紙のとおり
3. その他

実 績 報 告 書

1 補助事業の成果に関すること

2 補助金に係る収支計算に関すること

事業に要した経費 _____ 円

(1) 収 入

内 容	金 額
町 会 費	円
区 補 助 金	円
	円
計	円

(2) 支 出

内 容	金 額
	円
	円
	円
	円
	円
消 費 税	円
計	円

(3) その他

請求書

請求金額 円 _____ 円

ただし、平成 _____ 年度 _____ 町会防災部資器材整備事業実施に要する補助金

上記の金額を請求いたします。

下記口座にお振り込みください。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

千代田区長 _____ 殿

組 織 名

代表者住所

氏 名

㊞

振込先金融機関

	銀 行		本店	
	信用金庫			
	信用組合		支店	
預金種目	1.普通 2.当座 3.貯蓄 (○で囲む)	口座 番号		電話
フリガナ				
氏 名				

委 任 状

平成 年 月 日

平成 年度 地域防災組織に対する補助金

円の受領権限を

氏に委任します。

組 織 名

代表者・住所

氏名（町会長）

㊦

振 込 先

銀行、信用組合
信用金庫

店

普通・当座

口座番号

名義人

会計

防災資器材緊急装備助成申請書

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

代表者 住所

氏名

㊟

電話

下記のとおり防災資器材の助成を申請いたします。

品 名	数 量	予定単価	予定金額
合 計		_____	

防災資器材緊急装備助成受領書

平成 年 月 日

千代田区長 殿

組織名

代表者 住所

氏名

㊟

下記のとおり防災資器材の助成を受領いたしました。

記

品 名	数 量	備 考
合 計		

（様式1）

第 号
平成 年 月 日

支所長 殿

区長

給水施設の使用について(申請)

標記施設を下記のとおり防災訓練に使用したいので承認願います。

記

1 日 時 日午 前後 時 分から 日午 前後 時 分まで

2 対象人員

3 給水予定量

第 号
平成 年 月 日

区長 殿

支所長

給水施設の使用について(承認)

平成 年 月 日付 第 号により申請のあったこのことについては承認します。

第 号
平成 年 月 日

支所長 殿

区長

_____ 給水施設使用責任者 選任
通知
変更

標記施設使用責任者を下記のとおり 選任
変更 したので通知します。

記

給水施設責任者

新 区

旧 区

（様式3）

第 号
平成 年 月 日

支所長 殿

区長

資器材の 搬入 検 について

応急給水のための資器材を下記により 給水施設内に搬入 点 検 したいので了承願います。

記

1 日 時 日午 前後 時 分から 日午 前後 時 分まで
時間 分

2 資器材の 搬入 品目
点 検

第 号
平成 年 月 日

区長 殿

支所長

資器材の 搬入 検 について

平成 年 月 日付 第 号により依頼のあったこのことについては承認します。

平成 年 月 日

避難所開設通知書

高等学校長 殿

千代田区長

以下のとおり、貴施設に避難所を開設 $\left\{ \begin{array}{l} \text{したい} \\ \text{した} \end{array} \right\}$ ので、避難所施設利用に関する協定書第 4 条に基づき、通知いたします。

使用理由	
使用予定日時	平成 年 月 日 時 分から 平成 年 月 日 時 分まで
使用範囲	協定書第 3 条に定める範囲（別紙校舎平面図のとおり）
収容見込人員 ※1	世帯 人 男 人 女 人 計 人 (内)乳児 人 幼児 人 高齢者 人 障害者 人 傷病者 人（ 時 分現在）
収容状況	
特記事項	
周辺の被害及び 避難所開設状況	

※1 開設当初の収容者数又は収容見込数を記入すること。

平成 年 月 日

避難所使用期間延長申請書

東京都教育長 殿

千代田区長



以下のとおり、貴施設の避難所開設期間を延長したいので、避難所施設利用に関する協定書第7条第2項に基づき、申請いたします。

延長を必要とする理由	
当初開設 予定期間	平成 年 月 日 時 分から 平成 年 月 日 時 分まで
閉鎖見込日時	平成 年 月 日 時 分まで
収容人員 ※1	世帯 人 男 人 女 人 計 人 (内)乳児 人 幼児 人 高齢者 人 障害者 人 傷病者 人 (時 分現在)
収容状況	
特記事項	

※1 延長申請時における収容者数を記入すること。

平成 年 月 日

避難所使用終了届

高等学校長 殿

千代田区長



以下のとおり、貴施設の避難所使用を終了したので、避難所施設利用に関する協定書第9条に基づき、届出いたします。

終了理由				
終了日時	平成	年	月 日 時 分	
残存収容者への対応措置				
特記事項				
原状復旧確認	立会者	㊟	復旧責任者	㊟
	立会者	㊟		㊟

様式編（緊急車両）

署
整理番号（ 課 号）
隊

様式 1

地震防災 災害 応急対策用 緊急通行車両等事前届出書 年 月 日 東京都公安委員会殿 申請者住所 (電話) 氏名 回		地震防災 災害 応急対策用 緊急通行車両等事前届出済証 第 号 先のとおり事前届出を受けたことを証する 年 月 日 東京都公安委員会	
番号標に表示 されている番号		備考	
車両の用途（緊急輸送を行う車両にあっては、輸送人員又は品名）		(注) 1 警戒宣言発令時又は災害発生時には、この届出済証を最寄りの警視庁本部、警察署、交通機動隊、高速道路交通警察隊、交通検問所等に提出して所要の手続きを受けてください。 2 届出内容に変更が生じ、又はこの届出済証を亡失し、滅失し、汚損し若しくは破損した場合には、東京都公安委員会（都市交通対策課又は警察署経由）に届け出て再交付を受けてください。 3 次に該当するときは、この届出済証を返還してください。 (1) 緊急通行車両等に該当しなくなったとき。 (2) 緊急通行車両等が廃車になったとき。 (3) その他緊急通行車両等としての必要がなくなったとき。	
使用者	住所 () 局 番 氏名		
出 発 地			
(注) この事前届出書は2部作成して、当該車両を使用して行う事務又は業務の内容を証する書類をそれぞれ添付の上、警視庁本部（都市交通対策課）又は車両の使用の本拠地を管轄する警察署に提出してください。			

254

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする。

様式 2

様式 3

地震防災 災害 応急対策用 緊急通行車両等確認申請書 年 月 日 東京都公安委員会殿 申請者住所 (電話) 氏名 		
番号標に表示 されている番号		
車両の用途（緊急 輸送を行う車両 にあつては、輸 送人員又は品名）		
使用者	住所 () 局 番	
	氏名	
通行日時		
通行経路	出発地	目的地
備考		

(備考)用紙は、日本工業規格 A5 とする

第 号 年 月 日 緊急通行車両等確認証明書 東京都公安委員会 		
番号標に表示 されている番号		
車両の用途（緊急 輸送を行う車両 にあつては、輸 送人員又は品名）		
使用者	住所 () 局 番	
	氏名	
通行日時		
通行経路	出発地	目的地
備考		

(備考)用紙は、日本工業規格 A5 とする



備考 1 色彩は、記号を黄色、縁及び「緊急」の文字を赤色、「登録(車両)番号」、「有効期限」、「年」、「月」、「日」の文字を黒色、登録(車両)番号並びに年、月及び日を表示する部分を白色、地を銀色とする。

- 2 記号の部分に、表面の画像が光の反射角度に応じて変化する措置を施すものとする。
- 3 図示の長さの単位は、センチメートルとする。

救助実施記録日計票				
救助の種類	避	炊	水	救出
	修理	学	死捜	死処
	障			
_____市町村				
責任者氏名_____				
地区責任者氏名_____				
No. _____ 月 日 時 分				
員 数 （ 世 帯 ）				
品 目 （ 数 量 金 額 ）				
受 入 先				
払 出 先				
場 所				
方 法				
記 事				

記入要領

- ① 各救助の種類ごとに作成すること。
- ② 記録票欄外のナンバー欄には記録票作成ごとに一連番号を附するものとし、前回分を訂正する必要がある場合、例えばNo.10の次にNo.5の分を訂正する場合にはNo.11（No.5訂正）のように記載のうえ前回分もNo.5の記録票には朱で×印を附し（No.11に訂正済）とし、棄却することなくそのままナンバー順に綴っておくこと。なお、救助の実施種類が多い場合には救助の種類ごとに一連番号を附しナンバー順に綴ってよい。
- ③ 記録票欄外の救助の種類別欄の該当の救助名を○で囲み欄内該当欄に必要最少限度の事項を記入する。
- ④ 機械機具等が無償で借上げた場合についても記録票を作成する。
- ⑤ 災害救助基金より放出した場合についても同様とする。
- ⑥ 被服寝具その他生活必需品の給与等で、都道府県調達分と市町村調達分の双方があるときはそれぞれ別個に記録票を作成する。

救助の種目別物資受払状況

市町村名 _____

救助の種目別	年 月 日	品 名	単 位 呼 称	摘 要	受	払	残	備 考
遺体の捜索用								
遺体の処理用								

- (注) 1 「摘要」欄に購入又は受入先及び払出し先を記入すること。
- 2 「備考」欄に購入単価及び購入金額を記入すること。
- 3 各救助の種目別最終行欄に受、払、残の計及びそれぞれの金額を明らかにすること。なお、物資等において、都道府県よりの受入分及び市町村調達分がある場合には、それぞれの別に受、払、残の計及びそれぞれの金額を明らかにしておくこと。
- 4 救護班による場合には、救護班ごとに救護業務従事期間中における品目ごとの使用状況を記入すること。なお、「備考」欄に払高数量(使用数量)に対する金額を記入すること。

市長村名 _____

遺体の搜索状況記録簿

年月日	搜索人員	搜索用機械器具								実支出額	備考
		名称	借上費			修繕費			燃料費		
			数量	所有者(管理者) 氏名	金額	修理月日	修繕費	修繕の概要			
					円				円	円	
計		_____		_____		_____		_____			_____

258

- (注) 1 他市町村に及んだ場合には、備考欄にその市町村名を記入すること。
 2 借上費については有償、無償を問わず記入するものとし、有償による場合のみ、借上費「金額」欄に記入すること。
 3 「修繕の概要」欄には、故障の原因及び主な故障箇所を記入すること。

市長村名 _____

死体処理台帳

処 理 年月日	死体発見 の 日 時 及 び 場 所	死亡者 氏 名	遺 族		洗浄等の処理			死体の 一時保存	検 案 料	実支出額	備 考
			氏 名	死亡者 との関係	品 名	数 量	金 額				
							円	円	円	円	
計	——	人	——	——	——						

遺 体 処 理 票

災 害 遺 体 番 号		第 号
死 亡 者	氏 名	(才)
	住 所	
	死 亡 年 月 日	年 月 日
	死 亡 原 因	
	遺 体 発 見 の 日 時 、 場 所	
引 取 人	氏 名	
	住 所	
	死 亡 者 と の 関 係	
	引 取 年 月 日	年 月 日
遺 留 品	処 理 番 号	
	保 管 所	
備 考		
遺 体 収 容 所		

遺留品処理票

遺留品処理番号		第 号	
遺留品			
引取人	氏 名		
	住 所		
	死亡者との関係		
	引取年月日	年	月 日
死亡者	遺体番号	第 号	
	氏 名		
	住 所		
備 考			
遺留品保管所			

災 害 遺 体 送 付 票

	送付第	号
送 付 票		
千代田区災害遺体		
第	号（氏名	）を送付する。
平成	年	月 日
千代田区長名		
火葬場 殿		

遺骨及び遺留品処理票

遺骨処理番号		第 号
死亡者	災害遺体番号	第 号
	氏 名	
	住 所	
	焼骨日時場所	
引取人	氏 名	
	住 所	
	死亡者との関係	
	引取年月日	年 月 日
遺留品	処 理 番 号	
	保 管 所	
備 考		
納骨場所		

市長村名 _____

埋葬台帳

死亡年月日	埋葬年月日	死亡者		埋葬を行った者		埋葬費				備考
		氏名	年齢	死亡者との関係	氏名	棺(付属品を含む)	埋葬又は火葬料	骨壺	計	
						円	円	円	円	
計	—	人	—	—	—					

- (注) 1 埋葬を行った者が市(区)町村長であるときは、遺族の氏名を「備考」欄に記入すること。
 2 市(区)町村長が棺、骨箱等を現物で給与したときは、その旨「備考」欄に明らかにすること。
 3 埋葬を行った者に埋葬費を支給したときは、その旨及び金額を「備考」欄に記入すること。

災害対策本部 記録様式

本部長	副本部長	部長	課長	係長

千代田区災害対策本部

整理番号	月 日 時 分	通知先		記録者	
件名					
内 容					
備 考					

職員参集状況

平成 年 月 日 時 分現在
災害対策本部会議（定期・臨時）

	現在数	事故者				定数	参集率	備考
		出張	休暇	ケガ人	活動免除			
子ども部	人	人	人	人	人 (人)	人	%	
保健福祉部	人	人	人	人	人 (人)	人	%	
千代田保健所	人	人	人	人	人 (人)	人	%	
地域振興部	人	人	人	人	人 (人)	人	%	
環境まちづくり部	人	人	人	人	人 (人)	人	%	
政策経営部	人	人	人	人	人 (人)	人	%	
会計室	人	人	人	人	人	人	%	
選挙管理委員会事務局	人	人	人	人	人	人	%	
監査委員事務局	人	人	人	人	人	人	%	
区議会事務局	人	人	人	人	人	人	%	
合計	人	人	人	人	人 (人)	人	%	

※ 参集率 = 〔現在数〕 / 〔定数〕 ※ 活動免除者欄：免除申請者（カッコ内は再雇用職員）

平成 年 月 日 時 分現在
災害対策本部会議（定期・臨時）

被害状況

連絡調整第1班

I 災害発生状況（情報源：丸の内・麹町・神田消防署）

火災	件	焼損面積	m ²	
救助	件	救助人数	人	
その他	件			

II 道路の状況（情報源：麹町・丸の内・神田・万世橋警察署）

道路の混雑状況	通り	km
	通り	km
交通規制状況	通り	時 分（規制・解除）
	通り	時 分（規制・解除）

III 警備状況（情報源：麹町・丸の内・神田・万世橋警察署）

所在	人出	その他
	人	
	人	
	人	
	人	
	人	

IV 道路・橋被害状況（情報源：国土交通省、第一建設事務所、首都高速道路）

所在・名称	状況	対応

V ライフラインの状況（水道局、下水道局、東京電力、東京ガス）

	供給停止地域	復旧（予定）
上水道		
下水道		
電気		
ガス		

VI 通信の状況（NTT、日本郵便）

	供給停止地域	復旧（予定）
電話		
郵便		

VII 鉄道・バス運行状況（交通局、JR、メトロ、イクスピア）

	運行停止路線数	運行再開（予定）
JR	線	
都営地下鉄	線	
メトロ	線	
イクスピア	線	
バス	線	

	所 在	焼損面積	状 況
火 災		棟 m ²	発 生 時 分 延焼中 時 分 防 止 時 分 鎮 圧 時 分 鎮 火 時 分
		棟 m ²	発 生 時 分 延焼中 時 分 防 止 時 分 鎮 圧 時 分 鎮 火 時 分
		棟 m ²	発 生 時 分 延焼中 時 分 防 止 時 分 鎮 圧 時 分 鎮 火 時 分
		棟 m ²	発 生 時 分 延焼中 時 分 防 止 時 分 鎮 圧 時 分 鎮 火 時 分
		棟 m ²	発 生 時 分 延焼中 時 分 防 止 時 分 鎮 圧 時 分 鎮 火 時 分
	所 在		
救 助			
救 急			

各自治体等との連携状況

連絡調整第2班

I 各自治体の被害状況

	火 災	その他
中央区		
港 区		
新宿区		
文京区		
台東区		
その他		

II 姉妹提携都市との連絡状況

	通信時間	通信状況	その他
群馬県嬬恋村	時 分		
秋田県五城目町	時 分		

III 各自治体への要請事項

要請先自治体	要請事項	数量等	要請時分	要請班	回答
			時 分		
			時 分		
			時 分		
			時 分		
			時 分		

IV 各自治体への要請事項

要請自治体	要請時分	要請事項	数量等	回答内容	回答時分
	時 分				時 分
	時 分				時 分
	時 分				時 分
	時 分				時 分
	時 分				時 分

平成 年 月 日 時 分現在
災害対策本部会議（定期・臨時）

協定団体との連携状況

連絡調整第3班

I 帰宅困難者地域協力会への区内情報の提供・収集状況

地域協力会	通信状況		情報提供	周囲の状況
	無線	電話		
東京駅・有楽町駅周辺地区 帰宅困難者対策地域協力会				
富士見・飯田橋駅周辺地区 帰宅困難者対策地域協力会				
四ツ谷駅周辺地区 帰宅困難者対策地域協力会				
秋葉原駅周辺地区 帰宅困難者対策地域協力会				

II 帰宅困難者一時受入れ施設の状況

受入可能施設	施設	受入人数	人

※ 詳細は別紙のとおり

III 応援人員の派遣依頼状況

1 地域協力会

協会名	依頼時間	依頼人員	派遣先	可否	派遣人員
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人

2 ボランティア（連絡調整第4班へ依頼）

名	依頼時間	依頼人員	派遣先	可否	派遣人員
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人

IV 協定団体等への支援要請状況

要請元（要請班）	依頼時間	要請内容	要請先協会	回答
()	：			
()	：			
()	：			
()	：			
()	：			
()	：			
()	：			

V 情報提供状況

- 帰宅困難者対応班 連絡調整第4班
 () ()

平成 年 月 日 時 分現在 災害対策本部会議（定期・臨時）

ボランティアとの連携状況

連絡調整第4班

I 災害ボランティアセンターの設置状況

建物被害	
開設	月 日 時 分
閉鎖	月 日 時 分

II ボランティアの受入状況（ 時 分現在）

組 織		通信確認	派遣可能人数	派遣人数	
学 生	明治大学	時 分	人	人	
	専修大学	時 分	人	人	
	法政大学	時 分	人	人	
	上智大学	時 分	人	人	
	日本大学	本 部	時 分	人	人
		法学部	時 分	人	人
		経済学部	時 分	人	人
	二松学舎大学	時 分	人	人	
	東京家政学院	時 分	人	人	
	大妻女子大学	時 分	人	人	
	日本歯科大学	時 分	人	人	
	共立女子大学	時 分	人	人	
一般ボランティア		—	人	人	
合 計		—	人	人	

III 東京都災害語学ボランティアへ派遣要請

要請時間	要請人員	派遣人員	その他
時 分	人	人	

平成 年 月 日 時 分現在 災害対策本部会議（定期・臨時）

施設被害状況

施設班

I 施設被害状況

	施設名	施設被害状況	管内滞留者の状況
庁舎等	千代田区庁舎		
	麴町出張所		
	富士見出張所		
	神保町出張所		
	神田公園出張所		
	万世橋出張所		
	和泉橋出張所		
避難所	麴町小学校		
	九段小学校		
	番町小学校		
	麴町中学校		
	富士見みらい館		
	お茶の水小学校		
	神田一橋中学校		
	神田さくら館		
	昌平童夢館		
	アーツ千代田3331		
	ちよだパークサイトフラッグ		
	旧今川中学校		
	都立一橋高等学校		
	スポーツセンター		
	岩本町ほほえみフラッグ		
都立日比谷高等学校			
九段生涯学習館			

福祉避難所	いきいきプラザ一番町		
	障害者福祉センターえみふる		
	かがやきプラザ		
その他	千代田万世会館		
	千鳥ヶ淵ボート場		
	四番町図書館		
	神田まちかど図書館		
	昌平まちかど図書館		
	内幸町ホール		
	日比谷図書文化館		

II 区・国・九段PFIサービス㈱災害対策会議の結果

開催日時	月 日 時 分 ・ 未 定
庁舎被害状況	
電気の状況	
水道の状況	
庁舎使用方法	
その他	

Ⅲ 情報機器の状況

システム名	不具合の有無	保守業者への連絡	復旧見込み	復 旧
全 庁 L A N				
I P 電 話				
メ ー ル				
総 合 住 民 情 報				
共 通 基 盤				
電 子 決 済				
財 務 会 計				
文 書 管 理				

平成	年	月	日	時	分	現在
災害対策本部会議（定期・臨時）						

区民からの問い合わせの状況

相談班

I 対応態勢

--

II 区民からの問い合わせ件数

時 分～ 時 分	対応件数	件	合計	件

III 問合せの概要

連絡者所在	内 容	対 応

IV 大使館からの問い合わせ状況（ 時 分 ～ 時 分）

国	問合せ概要	対 応

避 難 所 状 況

平成 年 月 日 時 分現在
災害対策本部会議（定期・臨時）

避 難 所	通信確認	協 議 会 集 参 員 集	職 参 員 集	開設日時	避難者数	閉鎖日時	特 記
麴 町 小 学 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
九 段 小 学 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
番 町 小 学 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
麴 町 中 学 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
富 士 見 み ら い 館	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
お 茶 の 水 小 学 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
神 田 一 橋 中 学 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
神 田 さ く ら 館	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
昌 平 童 夢 館	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
ア ー ツ 千 代 田 3 3 3 1	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
ちよだパークサイドプラザ	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
旧 今 川 中 学 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
都 立 一 橋 高 校	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
区 立 ス ポ ー ツ セ ン タ ー	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	
岩 本 町 ほ ほ え み プ ラ ザ	月 日 時 分			月 日 時 分		月 日 時 分	

平成 年 月 日 時 分現在
災害対策本部会議（定期・臨時）

教育施設関係の状況

教育班

★ 安否確認済の園児、児童及び生徒数

幼稚園	小学校	中学校等	保育園(区)	区立計	保育園(民)
人	人	人	人	人	人

I 幼稚園の状況

	保護者へ連絡	定数	在園数	引渡し	残留	特記
麴町幼稚園		人	人	人	人	
九段幼稚園		人	人	人	人	
番町幼稚園		人	人	人	人	
お茶の水幼稚園		人	人	人	人	
千代田幼稚園		人	人	人	人	
昌平幼稚園		人	人	人	人	

II 小学校の状況

	保護者へ連絡	定数	在校生数	引渡し	残留	特記
麴町小学校		人	人	人	人	
九段小学校		人	人	人	人	
番町小学校		人	人	人	人	
富士見小学校		人	人	人	人	
お茶の水小学校		人	人	人	人	
千代田小学校		人	人	人	人	
昌平小学校		人	人	人	人	
和泉小学校		人	人	人	人	

III 中学校・中等教育学校の状況

	保護者へ連絡	定数	在校生数	引渡し	残留	特記
麴町中学校		人	人	人	人	
神田一橋中学校		人	人	人	人	
九段中等教育学校		人	人	人	人	

IV 保育園・こども園の状況

	保護者へ連絡	定数	在園数	引渡し	残 留	特 記
麴 町 保 育 園		人	人	人	人	
神 田 保 育 園		人	人	人	人	
西 神 田 保 育 園		人	人	人	人	
四 番 町 保 育 園		人	人	人	人	
い ず み こ ど も 園		人	人	人	人	
ふ じ み こ ど も 園		人	人	人	人	
アスクニ番町保育園		人	人	人	人	
ホピンスナナリ-スクール-番町		人	人	人	人	
ほっぺるランド西神田		人	人	人	人	
グローバルキッズ飯田橋園		人	人	人	人	
あい保育園東神田		人	人	人	人	

V 認証保育園等の状況

	保護者へ連絡	定数	在園数	引渡し	残 留	特 記
小学館アカデミー昌平保育園		人	人	人	人	
ミズ・エンジェル千代田保育園		人	人	人	人	
保育園ドルチェ		人	人	人	人	
キッズスクエア丸の内東京ビル		人	人	人	人	
ミズ・エンジェル神田駅前保育園		人	人	人	人	
小学館アカデミー神保町保育園		人	人	人	人	
ピノキオ幼児舎番町園		人	人	人	人	
キッズスクエア永田町		人	人	人	人	
キッズスクエア丸の内永楽ビル		人	人	人	人	
保育室「愛の園」		人	人	人	人	
ココファン・ナーサリ-神田万世橋		人	人	人	人	
ココファン・ナーサリ-霞が関		人	人	人	人	
ひまわり育児室		人	人	人	人	
ハイブリッド・ミズ・エンジェル-千代田富士見		人	人	人	人	

あい・さぼーと小さな家 飯田橋		人	人	人	人	
あい・さぼーと小さな家 東神田		人	人	人	人	
厚生労働省 5 号館 保育室		人	人	人	人	

VI 児童館・児童センターの状況

	保護者へ連絡	定数	在館数	引渡し	残 留	特 記
西神田児童センター		人	人	人	人	
神 田 児 童 館		人	人	人	人	
四 番 町 児 童 館		人	人	人	人	
一 番 町 児 童 館		人	人	人	人	

VII 学童クラブ（民営含む）の状況

	保護者へ連絡	定数	在館数	引渡し	残 留	特 記
いずみこどもプラザ		人	人	人	人	
アフタースクールさくら		人	人	人	人	
アフタースクールこうじ町		人	人	人	人	
アフタースクール 番町		人	人	人	人	
アフタースクール番町第二		人	人	人	人	
アフタースクールお茶の水		人	人	人	人	
富士見わんぱくひろば		人	人	人	人	
二番町こどもクラブ		人	人	人	人	
ホピンス - アフタースクール - 一番町		人	人	人	人	
グローバルキッズ 飯田橋学童クラブ		人	人	人	人	
九段小学校アフタースクール		人	人	人	人	

平成 年 月 日 時 分現在 災害対策本部会議（定期・臨時）

災害時要援護者関係の状況

災害時要援護者支援班

I 災害時要援護者支援本部

設置時間	時 分
活動概要	

II 福祉施設入居者の安否確認状況

施設名	入居者数	安否確認	その他
障害者福祉センターえみふる	人		
かがやきプラザ	人		
いきいきプラザ一番町	人		
岩本町ほほえみプラザ	人		
淡路にこにこフォーユープラザ	人		
かんだ連雀	人		
ジロール神田佐久間町	人		
ジロール麴町	人		

III 福祉施設の状況

施設名	施設被害状況	継続可否	追加受入可能者数
障害者福祉センターえみふる			人
かがやきプラザ			人
いきいきプラザ一番町			人
岩本町ほほえみプラザ			人
淡路にこにこフォーユープラザ			人
かんだ連雀			人
ジロール神田佐久間町			人
ジロール麴町			人

IV 災害時要援護者名簿確認状況

名簿数	確認済
人	人

V 福祉避難所の状況

施設名	受入可能人数	開設時分	受入人数
岩本町ほほえみプラザ	人	時 分	人
いきいきプラザ一番町	人	時 分	人
障害者福祉センターえみふる	人	時 分	人
かがやきプラザ	人	時 分	人

平成 年 月 日 時 分現在 災害対策本部会議（定期・臨時）

出張所の状況

出張所班

I 施設被害状況

施設名	施設被害状況	管内滞留者の状況
麴町出張所		
富士見出張所		
神保町出張所		
神田公園出張所		
万世橋出張所		
和泉橋出張所		

II 職員参集状況

施設名	現在数	事故者			定数	参集率
		休暇	ケガ人	免除者		
麴町出張所						
富士見出張所						
神保町出張所						
神田公園出張所						
万世橋出張所						
和泉橋出張所						

III 相談窓口の状況

施設名	開設時分	相談概要
麴町出張所	時 分	
富士見出張所	時 分	
神保町出張所	時 分	
神田公園出張所	時 分	
万世橋出張所	時 分	
和泉橋出張所	時 分	

平成 年 月 日 時 分現在 災害対策本部会議（定期・臨時）

帰宅困難者対応連携状況

帰宅困難者対応班

I 区内の状況

高 所 カ メ ラ	
帰宅困難者対策地域協力会	

II 受入施設状況

施 設 名	受入開始時間	受入可能人員	受入人員
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人
	時 分	人	人

III 災害時退避場所への情報提供状況

時 間	情報提供内容
時 分	
時 分	
時 分	

IV 応援人員の派遣依頼状況

1 地域協力会

協会名	依頼時間	依頼人員	派遣先	可否	派遣人員
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人

2 ボランティア

団体名	依頼時間	依頼人員	派遣先	可否	派遣人員
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人
		人			人

V 不足物資の移送状況

施設名	依頼時間	不足物資・数	移送要請時間	要請先協会

医療活動の状況

医療救護活動拠点班

I 医療活動拠点等の設置状況

医療活動拠点	開設： 時 分	閉鎖： 時 分
千代田区大外医療センター	開設： 時 分	閉鎖： 時 分
医薬品ストックセンター	開設： 時 分	閉鎖： 時 分

II 区内病院の被害状況等

	被害状況	受入体制	その他
三井記念病院			
日本大学病院			
東京通信病院			
三楽病院			
杏雲堂病院			
日本大学歯学部附属歯科病院			
井上眼科病院			
神尾記念病院			
東京歯科大学水道橋病院			
濱田病院			
明和病院			
九段坂病院			
半蔵門病院			
日本歯科大学附属病院			

III 区内診療所等の被害状況 (情報源：各医師会事務局)

	被害状況	医療救護班への参画	その他
千代田医師会			
神田医師会			
丸の内歯科医師会			
麴町歯科医師会			
千代田歯科医師会			

IV 医療救護所の状況

	派遣要請	開設	その他
麴町中学校	時分	時分	
麴町小学校	時分	時分	
富士見みらい館	時分	時分	
お茶の水小学校	時分	時分	
神田さくら館	時分	時分	
昌平童夢館	時分	時分	
ちよだパークサイドプラザ	時分	時分	
いきいきプラザー番町	時分	時分	
かがやきプラザ	時分	時分	
障害者福祉センターえみふる	時分	時分	
岩本町ほほえみプラザ	時分	時分	

V 応援要請の状況

要請施設	要請内容	対応

VI 医薬品要請の状況（水道局、下水道局、東京電力、東京ガス）

要請施設	要請内容	対応

平成 年 月 日 時 分現在 災害対策本部会議（定期・臨時）

建物の被害状況

建物調査班

I 被害状況初期調査実施状況

	態 勢	状 況
麴 町 地 区	チーム	
神 田 地 区	チーム	

II 応急危険度判定が必要と思われる地区

初期調査の結果次の地区で応急危険度判定が必要だと思われます。〈付議〉

地 区	要否	備 考
麴 町 地 区		
神 田 地 区		

III 判定実施本部の状況

開 設 時 間	時 分
開 設 場 所	

IV 判定実施計画

実 施 期 間	月 日 から 月 日 まで
対 象 地 区	
必要判定人員	人
	※ 判定員確保人数 人
都 支 援 要 請	要請時間： 時 分
	要請人数： 人
	回 答：

